

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	アジア史						
担当教員	川上 恭司						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	中国人物志						
授業の概要	様々の理由から歴史を重視する中国、その歴史の流れを多面的にとらえるため時代を表徴する異なるタイプの人物をとり上げ、エピソードを交えつつわかりやすく概説していきます。						
到達目標	過去現在そして未来と日本と密接な関わりを持ち続ける中国 その相互理解の一助となることを期したい。						
授業計画	第1回 中国人物志 原始編 1 第2回 中国人物志 原始編 2 第3回 中国人物志 原始編 3 第4回 中国人物志 古代編 1 第5回 中国人物志 古代編 2 第6回 中国人物志 古代編 3 第7回 中国人物志 中世編 1 第8回 中国人物志 中世編 2 第9回 中国人物志 中世編 3 第10回 中国人物志 近世編 1 第11回 中国人物志 近世編 2 第12回 中国人物志 近世編 3 第13回 中国人物志 近代編 1 第14回 中国人物志 近代編 2 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	大まかな中国史の流れをつかむため概説書を読んでおいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	筆記試験中心						
教科書	なし						
参考書	授業時に随時提示						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	インターンシップ						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した就業体験を行い、社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナーなど、心の準備と目的を的確にさせ、実習の効果を高めるようにする。企業での実習体験を通して、社会人として必要な資質を学び、将来自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事へ積極的にチャレンジできるようサポートする。						
到達目標	①就業体験を通じて、将来の自立と学生時代の過ごし方を含めた自分のキャリアを主体的に考え実行できるようになる。 ②社会で働く意義を自ら捉え、自己PRや志望動機につなげることができる						
授業計画	<p>【事前学習 7月12日（土） 福田洋子】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスインターンシップについてⅠ：日本の状況 2. ビジネスインターンシップについてⅡ：海外の状況 3. 業種についてⅠ 4. 職種についてⅡ 5. 会社の仕組みⅠ 6. 会社の仕組みⅡ 7. ビジネスマナーⅠ 8. ビジネスマナーⅡ 9. 電話のマナー 10. 受付のマナー 11. 訪問のマナー 12. 実習先企業について調べてみる 13. 実習先のマッチングⅠ 14. 実習先のマッチングⅡ 15. ビジネス文書Ⅰ（受入れのお願い） 16. ビジネス文書Ⅱ 17. 挨拶 <p>【夏休み中実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 18. 実習Ⅰ 19. 実習Ⅱ 20. 実習Ⅲ 21. 実習Ⅳ 22. 実習Ⅴ 23. 実習Ⅵ <p>【事後学習 9月 青谷実知代】</p> <ol style="list-style-type: none"> 24. お礼状の書き方 25. 業界・業種の特徴 26. 実習報告 27. プレゼンテーションⅠ 28. プレゼンテーションⅡ 29. プレゼンテーションⅢ 30. 総括（事後レポート） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ウェブ・新聞などで、常に社会の動きを見る。 一般常識、マナーなどの知識を深める。						
授業方法	企業・団体の職場で就業体験を行う。						
評価基準と評価方法	事前レポート（20%）、事後レポート（20%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						

参考書	随時紹介する。
-----	---------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（入門）						
授業の概要	チャペルにある大オルガンをを用いてのパイプオルガン実技入門。パイプオルガンを弾くための基礎的な奏法からはじめ、コラール（讃美歌）、またコラールの旋律を用いた平易なペダル付きの小品を取り上げます。						
到達目標	パイプオルガンの構造と演奏に関する基本的な知識、および初歩的な演奏技術の習得を目標とします。同時に楽曲に対する知的理解と音楽的センスを、練習によってバランスよく練り上げひとつの演奏に仕上げる、このプロセスを通して、集中力および客観的なものの見方を養います。						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション *松蔭のオルガンについて、また授業の進め方や練習方法等についてのガイダンス。</p> <p>第2回 パイプオルガンについての基礎的知識 *オルガンの内部を見学しながら、その仕組みや構造、またいろいろなパイプの種類、音色の組み合わせを学ぶ。</p> <p>第3回 オルガン奏法の基礎（1） 第4回 オルガン奏法の基礎（2） 第5回 オルガン奏法の基礎（3） 第6回 オルガン奏法の基礎（4）</p> <p>第7回 簡単なコラール前奏曲を弾いてみる（1） 第8回 簡単なコラール前奏曲を弾いてみる（2）</p> <p>第9回 讃美歌を弾いてみる（1） 第10回 讃美歌を弾いてみる（2）</p> <p>第11回 松蔭のオルガンの特徴ある響きを知る</p> <p>第12回 クラス内発表会の準備（1） 第13回 クラス内発表会の準備（2） 第14回 クラス内発表会の準備（3）</p> <p>第15回 クラス内発表会とその講評 *前期中に取り組んだ曲の中から讃美歌と前奏曲を1曲ずつ選び、クラス内で公開演奏する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修者には学内の練習用オルガンで、週1時間の個人練習が許される。学内でのこういった機会を十分に活用し、各自が学内外の楽器で十分に練習した上で、授業にのぞむこと。						
授業方法	実技（グループレッスン形式）						
評価基準と評価方法	平常点、レポートおよびクラス内発表会（試験を兼ねる）を総合的に評価。（平常点60%、レポート10%、学期末試験30%）						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介します。						
参考書	「クラヴィス」大塚直哉編						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（初級）						
授業の概要	チャペルにある大オルガンをを用いての基礎的なパイプオルガン演奏実技。 課題曲としては、ベーム、フィッシャー、J.S. バッハなど、主にドイツバロックの平易な作品を取り上げます。 各人の進度に合わせて取り組む課題（楽曲）を決め、仕上げていく中で、前期に学んだ基礎的技術を自分のものとしていきます。						
到達目標	パイプオルガンの構造と演奏に関する基本的な知識、および初歩的な演奏技術の習得を目標とします。同時に楽曲に対する知的理解と音楽的センスを、練習によってバランスよく練り上げひとつの演奏に仕上げる、このプロセスを通して、集中力および客観的なものの見方を養います。						
授業計画	<p>第1回 課題曲選曲 *初回授業では、課題曲集より各楽曲について紹介し、各人に相応しい曲を決める。 課題曲集は前期最後の授業で配布する予定なので、夏休み中にあらかじめ準備しておくことが望ましい。</p> <p>第2回 基礎練習の復習 エチュードを中心に</p> <p>第3回 讃美歌に基づくオルガン曲（1）</p> <p>第4回 讃美歌に基づくオルガン曲（2）</p> <p>第5回 讃美歌に基づくオルガン曲（3）</p> <p>第6回 讃美歌に基づくオルガン曲（4）</p> <p>第7回 バロック時代の鍵盤楽器について</p> <p>第8回 プレリユードとフーガ（1）</p> <p>第9回 プレリユードとフーガ（2）</p> <p>第10回 プレリユードとフーガ（3）</p> <p>第11回 プレリユードとフーガ（4）</p> <p>第12回 クラス内発表会の準備（1）</p> <p>第13回 クラス内発表会の準備（2）</p> <p>第14回 クラス内発表会の準備（3）</p> <p>第15回 クラス内発表会と講評</p> <p>*後期のまとめとし、クラス内発表会（後期実技試験を兼ねる）を行う。 後期に取り組んだ楽曲の中から、自由曲1曲と讃美歌1曲を全体で8分程度でまとめ、演奏する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修者には学内の練習用オルガンで、授業外に週1時間の個人練習が許される。こういった機会を十分に活用し、各自が学内外の楽器で十分に練習した上で、授業にのぞむこと。						
授業方法	実技（グルーブレッスン形式）						
評価基準と評価方法	平常点およびクラス内発表会（試験を兼ねる）を総合的に評価。（平常点70%、学期末試験30%）						
教科書	随時プリントを配布。						
参考書	「クラヴィス」大塚直哉編						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IIA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（中級）						
授業の概要	音楽実技IA・IBで得た基礎をもとに、さらに本格的なパイプオルガン演奏の実習を行います。本学のチャペルのオルガンの特性を活かして、バロック時代の聖歌、コラールおよび詩編歌に基づくオルガン作品を主なレパートリーとします。具体的な課題曲については、受講生に応じて、個別に決定します。また讃美歌の伴奏についても取り上げます。						
到達目標	タッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法、レジストレーションといったオルガン演奏の基礎的技法をさらに磨きながら、この時代のいろいろな作品の様式を知り、様々な表現ができるように、またクラス内発表会等の機会を通じて公開演奏の経験を積み、より客観的な説得力のある演奏をめざします。						
授業計画	第1回 授業の進め方、注意事項ほか 第2回 オルガン奏法の基礎（1） 第3回 オルガン奏法の基礎（2） 第4回 オルガン奏法の基礎（3） 第5回 オルガン奏法の基礎（4） 第6回 オルガン奏法の基礎（5） 第7回 オルガン奏法の基礎（6） 第8回 オルガン奏法の基礎（7） 第9回 オルガン奏法の基礎（8） 第10回 オルガン奏法の基礎（9） 第11回 オルガン奏法の基礎（10） 第12回 発表会に向けての準備（1） 第13回 発表会に向けての準備（2） 第14回 発表会に向けての準備（3） 第15回 クラス内発表会 *各自ソロ曲と讃美歌の伴奏を含む7分程度のプログラムを組んで演奏する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	曲が進んでくると、ただ練習するだけではなく、作曲家について、曲の成立や時代背景、また楽譜を丁寧に見て楽曲分析等、その作品について、あらゆる方面からのアプローチが必要となってきます。自分が演奏する作品について、調べられるだけ調べて授業にのぞんで下さい。またいろいろな演奏家のよい演奏に、数多く触れることもお勧めします。						
授業方法	実技（グループレッスン形式）。						
評価基準と評価方法	平常点（60%）および実技試験（40%）による。						
教科書	授業中に指示する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IIB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2~3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（中級）						
授業の概要	音楽実技IA・IB・IIAで得た基礎をもとに、さらに本格的なパイプオルガン演奏の実習を行います。後期レパートリーとしては、J.S. バッハの「オルガン小曲集」を中心に、讃美歌と関係の深い17~18世紀のオルガン作品、またプレリュードとフーガといった自由なスタイルの作品も取り上げていきます。具体的な課題曲については、受講生に応じて、個別に決定します。						
到達目標	タッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法、レジストレーションといったオルガン演奏の基礎的技法をさらに磨きながら、この時代のいろいろな作品の様式を知り、様々な表現ができるように、またクラス内発表会、チューデントコンサート等の機会を通じて公開演奏の経験を積み、より客観的な説得力のある演奏をめざします。						
授業計画	第1回 各自取り組む曲の計画 第2回 オルガン奏法の基礎（1） 第3回 オルガン奏法の基礎（2） 第4回 オルガン奏法の基礎（3） 第5回 オルガン奏法の基礎（4） 第6回 オルガン奏法の基礎（5） 第7回 オルガン奏法の基礎（6） 第8回 オルガン奏法の基礎（7） 第9回 オルガン奏法の基礎（8） 第10回 オルガン奏法の基礎（9） 第11回 オルガン奏法の基礎（10） 第12回 発表会に向けての準備（1） 第13回 発表会に向けての準備（2） 第14回 発表会に向けての準備（3） 第15回 クラス内発表会 *各自ソロ曲と讃美歌の伴奏を含む7分程度のプログラムを組んで演奏する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	曲が進んでくると、ただ練習するだけではなく、作曲家について、曲の成立や時代背景、また楽譜を丁寧に見ての楽曲分析等、その作品について、あらゆる方面からのアプローチが必要となってきます。自分が演奏する作品について、調べられるだけ調べて授業にのぞんで下さい。またいろいろな演奏家のよい演奏に、数多く触れることもお勧めします。						
授業方法	実技（グループレッスン形式）。						
評価基準と評価方法	平常点（60%）および実技試験（40%）による。						
教科書	授業中に指示する						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽入門／（クラシック音楽への誘い）						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を知る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも聴く能力が要求されているからです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行： J. S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽： J. S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生： A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽： W. A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲： W. A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽： L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり： F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 市民の貴族社会への憧れ： G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第10回 キャラクター・ピースの流行： F. リストの《愛の夢 第3番》 第11回 ショパンのロマン主義： F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向： H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽： P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り： S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 ヨーロッパ芸術音楽（クラシック音楽）の特徴、まとめ、復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	一つの授業から次の授業までの間に、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験100%（満点100点） 但し、授業（第2回～第14回）の欠席1回につき3点、試験の得点から減点します。						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽入門／（クラシック音楽への誘い）						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽の魅力を知る						
授業の概要	日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。ではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも聴く能力が要求されているからです。毎回の授業でさまざまな名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。						
到達目標	クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。						
授業計画	第1回 クラシック音楽の歴史的概観 第2回 合奏協奏曲の流行：J.S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 第3回 聖書に基づいた音楽：J.S. バッハの《マタイ受難曲》 第4回 独奏協奏曲の誕生：A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 第5回 特権階級の音楽：W.A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 第6回 死者のためのミサ曲：W.A. モーツァルトの《レクイエム》 第7回 市民社会の理想の音楽：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 第8回 芸術音楽の市民社会への広がり：F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 第9回 市民の貴族社会への憧れ：G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 第10回 キャラクター・ピースの流行：F. リストの《愛の夢 第3番》 第11回 ショパンのロマン主義：F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 第12回 標題音楽への志向：H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 第13回 国民楽派の音楽：P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 第14回 ロマン主義音楽の名残り：S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 第15回 ヨーロッパ芸術音楽（クラシック音楽）の特徴、まとめ、復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	一つの授業から次の授業までの間に、少なくとも1曲のクラシック音楽を鑑賞してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験100%（満点100点） 但し、授業（第2回～第14回）の欠席1回につき3点、試験の得点から減点します。						
教科書	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書	必要な場合、適宜指示します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	化学A／化学I						
担当教員	稲垣 明						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	化学入門						
授業の概要	私たちの身の回りにある物すべて、また私たちの身体自体も様々な物質が組み合わさってできている。その物質は無数の原子から組み立てられている。物質が原子によってどのようにつくられているのか（構造）、その構造と物質の性質や変化がどのように関係しているのかを学ぶ。 また、マスメディアで取り上げられている化学（科学）に関係する話題について、授業の中で解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物質の基本的な構造や性質を原子・分子のレベルで説明できる。 化学を身近なものとして感じ、様々な現象や物質を化学的に考える態度を身につける。 						
授業計画	第1回 物質と化学 元素の周期表 第2回 原子の構造 第3回 化学結合（イオン結合 共有結合） 第4回 化学結合（金属結合） 第5回 原子量 分子量 式量 第6回 物質量 第7回 化学反応式 第8回 溶液の濃度 第9回 酸と塩基 第10回 水素イオン濃度とpH 第11回 酸化還元反応 第12回 電池・電気分解 第13回 化学反応と熱 第14回 化学平衡 第15回 水溶液の性質						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：最低限、前時に学んだことを思い起こしておくこと。 授業後学習：授業外にする課題がだされた場合は、必ず次の授業までにしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60％程度、平常点（受講態度、提出物等）40％程度とし、総合的に評価する。科目の性格として知識の習得を重視する。つまり試験で一定の点数をとることが重要である。期末試験を行う。						
教科書	数研出版編集部編『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』 ISBN 978-4-410-27384 C7037						
参考書	松岡雅忠著『まるわかり！基礎科学』南山堂 ISBN978-4-525-05421-2 上記の教科書は本来は資料集なので、まとまった記述はない。そうしたものが必要と感じるようなら、この本を薦める。 立屋敷 哲著『ゼロからはじめる化学』丸善 ISBN978-4-621-08016-0 化学を自学自習することを考えて書かれている。前提として化学についての基礎知識は必要だし、読むには体力もいる。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	化学B／化学II						
担当教員	稲垣 明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	化学入門						
授業の概要	私たちの身の回りには無数の原子から組み立てられている。物質が原子によってどのようにつくられているのか（構造）、その構造と物質の性質や変化がどのように関係しているのかを学ぶ。 後期は、有機化合物を中心に扱う。 また、マスメディアで取り上げられている化学（科学）に関する話題について、授業の中で解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物をグループに分類し、各グループの性質を説明できる。 ・重要な官能基について、その性質と反応のパターンを説明できる。 ・身の回りの様々な現象を、原子・分子のレベルから考えようとする態度を身につける。 						
授業計画	第1回 有機化合物の特徴 第2回 飽和炭化水素 第3回 不飽和炭化水素 第4回 有機化合物命名法と異性体 第5回 脂肪族化合物①（アルコール） 第6回 脂肪族化合物②（カルボン酸） 第7回 脂肪族化合物③（エステル） 第8回 芳香族化合物①（芳香族炭化水素） 第9回 芳香族化合物②（フェノール・芳香族カルボン酸） 第10回 芳香族化合物③（アミンなど） 第11回 高分子化合物 第12回 アミノ酸とタンパク質 第13回 酵素 第14回 糖類 核酸 第15回 油脂とセッケン						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：最低限、前時に学んだことを思い起こしておくこと。 授業後学習：授業外にする課題がだされた場合は、必ず次の授業までにしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験60％程度、平常点（受講態度、提出物等）40％程度とし、総合的に評価する。科目の性格として知識の習得を重視する。つまり試験で一定の点数をとることが重要である。期末試験を行う。						
教科書	数研出版編集部編『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』 ISBN 978-4-410-27384 C7037						
参考書	松岡雅忠著『まるわかり！基礎科学』南山堂 ISBN978-4-525-05421-2 上記の教科書は本来は資料集なので、まとまった記述はない。そうしたものが必要と感じるようなら、この本を薦める。 立屋敷 哲著『ゼロからはじめる化学』丸善 ISBN978-4-621-08016-0 化学を自学自習することを考えて書かれている。前提として化学についての基礎知識は必要だし、読むには体力もいる。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	学習心理学／学習心理学I						
担当教員	齋藤 元幸						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間を含む動物が、それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を变化させる学習の基礎過程を扱う。						
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していること気づく。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では、行動分析学に軸足を置きながら、行動のメカニズムを探っていく。						
到達目標	人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解する。 2つの条件づけの基礎過程を理解する。 一人ひとりの日常的な行動を行動分析学の視点から見つめられるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：学習について学ぶ 2. 様々な行動と学習との関わり：系統発生と個体発生 3. オペラント条件づけ1：行動とは何か・行動を説明する 4. オペラント条件づけ2：強化(1) 5. オペラント条件づけ3：強化(2) 6. オペラント条件づけ4：消去 7. オペラント条件づけ5：弱化 8. オペラント条件づけ6：阻止の随伴性とルール支配行動 9. パヴロフ型条件づけ1：獲得過程(興奮性条件づけ) 10. パヴロフ型条件づけ2：馴化と鋭敏化 11. パヴロフ型条件づけ3：消去と自然的回復 12. パヴロフ型条件づけ4：情報獲得の基礎過程としてのパヴロフ型条件づけ 13. 学習の応用1：行動分析学と認知・感情 14. 学習の応用2：行動療法・応用行動分析・行動マネジメント 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	合計5回の小テストを行ない、また翌週の授業で扱うテーマについての宿題を評価対象とする。毎時間、宿題を踏まえたワークとディスカッションによって理解を深めるように進めるから、参考書を十分に読み、自分の頭で考えることが何よりも必要である。						
授業方法	講義（演習を含む）。 授業は以下の3部から構成される。 小テストは授業の最初に行う。次に、宿題として考えてきてもらった課題を使つてのワークとディスカッションを行なう。最後にワークとディスカッションをもとにした解説を加えて、次回の授業で扱うテーマについての宿題を発表する。なお、小テストは5回、評価の対象となる宿題は10回分とする。						
評価基準と評価方法	小テスト(各10点×5回 = 50点)、宿題(5点×10回 = 50点)。宿題については、単に提出しているかだけでなく積極的に議論に参加しているかどうか、予習・復習によって内容を理解しているかどうかを評価する。						
教科書	指定しない。プリントを配布する。						
参考書	体系的な理解のため、また予習復習のために、各自で参考書で学んでほしい。 実森正子・中島定彦(2000). 学習の心理：行動のメカニズムを探る サイエンス社 杉山尚子(2005). 行動分析学入門 一ヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書 島宗理(2010). 人は、なぜ約束の時間に遅れるのか 素朴な疑問から考える「行動の原因」 光文社新書						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	土肥 伊都子・池松 華奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※アンケート ～大学生活で何を身につけるか～ 第2回 自分について考えよう ～大学生活で強みを伸ばす～ 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※レポート類提出&アンケート 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 以下の2点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポートやワークシート等の課題提出50%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（30点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（20点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書	特になし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	土肥 伊都子・大塩 佐公子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどのような人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※アンケート ～大学生活で何を身につけるか～ 第2回 自分について考えよう ～大学生活で強みを伸ばす～ 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※レポート類提出&アンケート 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 以下の2点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポートやワークシート等の課題提出50%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（30点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（20点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書	特になし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	土肥 伊都子・大塩 佐公子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※アンケート ～大学生活で何を身につけるか～ 第2回 自分について考えよう ～大学生活で強みを伸ばす～ 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※レポート類提出&アンケート 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 以下の2点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポートやワークシート等の課題提出50%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（30点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（20点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書	特になし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	土肥 伊都子・大塩 佐公子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※アンケート ～大学生活で何を身につけるか～ 第2回 自分について考えよう ～大学生活で強みを伸ばす～ 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※レポート類提出&アンケート 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 以下の2点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポートやワークシート等の課題提出50%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（30点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（20点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書	特になし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	土肥 伊都子・小幡 祐可子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※アンケート ～大学生活で何を身につけるか～ 第2回 自分について考えよう ～大学生活で強みを伸ばす～ 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※レポート類提出&アンケート 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 以下の2点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポートやワークシート等の課題提出50%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（30点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（20点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書	特になし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	土肥 伊都子・鴨谷 香						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※アンケート ～大学生活で何を身につけるか～ 第2回 自分について考えよう ～大学生活で強みを伸ばす～ 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※レポート類提出&アンケート 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 以下の2点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポートやワークシート等の課題提出50%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（30点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（20点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書	特になし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	土肥 伊都子・布谷 由美子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠すことなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※アンケート ～大学生活で何を身につけるか～ 第2回 自分について考えよう ～大学生活で強みを伸ばす～ 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※レポート類提出&アンケート 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 以下の2点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く ※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポートやワークシート等の課題提出50%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（30点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（20点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						
教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						
参考書	特になし。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	土肥 伊都子・池松 華奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（コミュニケーション力・情報収集力・論理的思考力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「社会で求められる力を知る」： 社会で求められる基本の力を知り、大学生活の中でどうのぼしていくかイメージできる。 「仕事について調べ方を学ぶ」：情報収集の仕方を学び行動することができる。 「目標を実行に移せる」：大学生活の中で立てた目標を実行にうつすことができる。						
授業計画	第1回 キャリアデザインを知る ※アンケート実施 第2回 大学生活で見につく力を考える 第3回 現在の就職環境を知り、自分の将来について考えよう ～女性とキャリア～ 第4回 ワークスタイルの研究①（企業で働くことをイメージする） 第5回 ワークスタイルの研究②（様々な仕事の仕方を知る） 第6回 社会で必要となる力とは①（コミュニケーション力・タイムマネジメント力） 第7回 社会で必要となる力とは②（情報収集力 論理的思考力） 第8回 社会で必要となる力研究① グループワーク 第9回 社会で必要となる力研究② グループワーク 第10回 業界研究① グループワーク 第11回 業界研究② グループワーク 第12回 業界研究③ グループワーク 第13回 業界研究④ プレゼンテーション 第14回 目標と行動計画を立てよう ※課題提出、アンケート実施 第15回 行動計画発表&まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 ・パソコンを使った情報検索、発表資料の制作演習 ・内定者の先輩の話を聞く ※設定可能な場合に実施。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出35%、グループワークやプレゼンテーションへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを記入。（45点満点：テーマは講師が指定） コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講師が指定するワークシートやレポートを提出。（35点満点） *具体的な課題内容については講座中に発表し、講座終盤に提出していただく予定です。 ③グループワークやプレゼンテーションへの取り組み。（20点満点）						
教科書	「MY CAREER NOTE I (BASIC)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						

参考書	特になし
-----	------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	土肥 伊都子・池松 華奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（コミュニケーション力・情報収集力・論理的思考力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「社会で求められる力を知る」： 社会で求められる基本の力を知り、大学生活の中でどうのぼしていくかイメージできる。 「仕事について調べ方を学ぶ」：情報収集の仕方を学び行動することができる。 「目標を実行に移せる」：大学生活の中で立てた目標を実行にうつすことができる。						
授業計画	第1回 キャリアデザインを知る ※アンケート実施 第2回 大学生活で見につく力を考える 第3回 現在の就職環境を知り、自分の将来について考えよう ～女性とキャリア～ 第4回 ワークスタイルの研究①（企業で働くことをイメージする） 第5回 ワークスタイルの研究②（様々な仕事の仕方を知る） 第6回 社会で必要となる力とは①（コミュニケーション力・タイムマネジメント力） 第7回 社会で必要となる力とは②（情報収集力 論理的思考力） 第8回 社会で必要となる力研究① グループワーク 第9回 社会で必要となる力研究② グループワーク 第10回 業界研究① グループワーク 第11回 業界研究② グループワーク 第12回 業界研究③ グループワーク 第13回 業界研究④ プレゼンテーション 第14回 目標と行動計画を立てよう ※課題提出、アンケート実施 第15回 行動計画発表&まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 ・パソコンを使った情報検索、発表資料の制作演習 ・内定者の先輩の話を聞く ※設定可能な場合に実施。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出35%、グループワークやプレゼンテーションへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを記入。（45点満点：テーマは講師が指定） コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講師が指定するワークシートやレポートを提出。（35点満点） *具体的な課題内容については講座中に発表し、講座終盤に提出していただく予定です。 ③グループワークやプレゼンテーションへの取り組み。（20点満点）						
教科書	「MY CAREER NOTE I (BASIC)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						

参考書	特になし
-----	------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	土肥 伊都子・小幡 祐可子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（コミュニケーション力・情報収集力・論理的思考力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「社会で求められる力を知る」： 社会で求められる基本の力を知り、大学生活の中でどうのぼしていくかイメージできる。 「仕事について調べ方を学ぶ」：情報収集の仕方を学び行動することができる。 「目標を実行に移せる」：大学生活の中で立てた目標を実行にうつすことができる。						
授業計画	第1回 キャリアデザインを知る ※アンケート実施 第2回 大学生活で見につく力を考える 第3回 現在の就職環境を知り、自分の将来について考えよう ～女性とキャリア～ 第4回 ワークスタイルの研究①（企業で働くことをイメージする） 第5回 ワークスタイルの研究②（様々な仕事の仕方を知る） 第6回 社会で必要となる力とは①（コミュニケーション力・タイムマネジメント力） 第7回 社会で必要となる力とは②（情報収集力 論理的思考力） 第8回 社会で必要となる力研究① グループワーク 第9回 社会で必要となる力研究② グループワーク 第10回 業界研究① グループワーク 第11回 業界研究② グループワーク 第12回 業界研究③ グループワーク 第13回 業界研究④ プレゼンテーション 第14回 目標と行動計画を立てよう ※課題提出、アンケート実施 第15回 行動計画発表&まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	※必須項目 事前・事後の学習 ・パソコンを使った情報検索、発表資料の制作演習 ・内定者の先輩の話を聞く ※設定可能な場合に実施。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出35%、グループワークやプレゼンテーションへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを記入。（45点満点：テーマは講師が指定） コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講師が指定するワークシートやレポートを提出。（35点満点） *具体的な課題内容については講座中に発表し、講座終盤に提出していただく予定です。 ③グループワークやプレゼンテーションへの取り組み。（20点満点）						
教科書	「MY CAREER NOTE I (BASIC)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。						

参考書	特になし
-----	------

科目区分	全学共通（一般教養系列）																																																																		
科目名	キャリアデザイン研究																																																																		
担当教員	単位認定者：青谷 実知代																																																																		
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0																																																												
授業のテーマ	ゲストスピーカー（現場担当者）から業界・業種の現状を伺い、社会の現場を知ると共に就職活動で活かせる取り組み（志望動機や自己PRを考える）。																																																																		
授業の概要	IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学びます。																																																																		
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。 ②業種と業界の違いを理解し、説明することができる。 ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4月9日</td> <td>業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える</td> <td>青谷実知代</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4月16日</td> <td>【食品・アグリ】NPO法人フードバンク</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>4月23日</td> <td>【製造・子供服】(株)ミキハウス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>4月30日</td> <td>【サービス・アパレル業】高見(株)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>5月7日</td> <td>【証券・保険業界】野村証券</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5月14日</td> <td>【商社】帝人フロンティア(株)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>5月21日</td> <td>【生活・運輸業界】JR西日本旅客鉄道(株)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>5月28日</td> <td>【サービス・旅行業界】(株)日本旅行</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>6月4日</td> <td>【情報・通信業界】(株)ラポール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>6月11日</td> <td>【IT・教育業界】(株)エヌゲージ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6月18日</td> <td>【製造業】(株)ワコール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>6月25日</td> <td>【マスコミ業界】毎日放送</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>7月2日</td> <td>【銀行業界】みずほフィナンシャルグループ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>7月9日</td> <td>【住宅業】大和ハウス工業(株)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>7月16日</td> <td>業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	4月9日	業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える	青谷実知代	第2回	4月16日	【食品・アグリ】NPO法人フードバンク		第3回	4月23日	【製造・子供服】(株)ミキハウス		第4回	4月30日	【サービス・アパレル業】高見(株)		第5回	5月7日	【証券・保険業界】野村証券		第6回	5月14日	【商社】帝人フロンティア(株)		第7回	5月21日	【生活・運輸業界】JR西日本旅客鉄道(株)		第8回	5月28日	【サービス・旅行業界】(株)日本旅行		第9回	6月4日	【情報・通信業界】(株)ラポール		第10回	6月11日	【IT・教育業界】(株)エヌゲージ		第11回	6月18日	【製造業】(株)ワコール		第12回	6月25日	【マスコミ業界】毎日放送		第13回	7月2日	【銀行業界】みずほフィナンシャルグループ		第14回	7月9日	【住宅業】大和ハウス工業(株)		第15回	7月16日	業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）	
第1回	4月9日	業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える	青谷実知代																																																																
第2回	4月16日	【食品・アグリ】NPO法人フードバンク																																																																	
第3回	4月23日	【製造・子供服】(株)ミキハウス																																																																	
第4回	4月30日	【サービス・アパレル業】高見(株)																																																																	
第5回	5月7日	【証券・保険業界】野村証券																																																																	
第6回	5月14日	【商社】帝人フロンティア(株)																																																																	
第7回	5月21日	【生活・運輸業界】JR西日本旅客鉄道(株)																																																																	
第8回	5月28日	【サービス・旅行業界】(株)日本旅行																																																																	
第9回	6月4日	【情報・通信業界】(株)ラポール																																																																	
第10回	6月11日	【IT・教育業界】(株)エヌゲージ																																																																	
第11回	6月18日	【製造業】(株)ワコール																																																																	
第12回	6月25日	【マスコミ業界】毎日放送																																																																	
第13回	7月2日	【銀行業界】みずほフィナンシャルグループ																																																																	
第14回	7月9日	【住宅業】大和ハウス工業(株)																																																																	
第15回	7月16日	業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）																																																																	
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日頃から新聞や情報誌を読み、関心ある業界の傾向をつかむ。 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。																																																																		
授業方法	オムニバス形式の講義																																																																		
評価基準と評価方法	授業毎の小レポート（60%）、レポート（2回）（40%）																																																																		
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）																																																																		
参考書	授業中に紹介する。																																																																		

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ゲストスピーカー（現場担当者）から業界・業種の現状を伺い、社会の現場を知ると共に就職活動で活かせる取り組み（志望動機や自己PRを考える）。						
授業の概要	IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学びます。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。 ②業種と業界の違いを理解し、説明することができる。 ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。</p> <p>第1回 10月1日 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える 青谷実知代 第2回 10月8日 【食品・アグリビジネス業界】NPOフードバンク関西 第3回 10月15日 【住宅・不動産業界】大和ハウス工業株 第4回 10月22日 【ホテル業界】株神戸ポートピアホテル（企業変更あり） 第5回 10月29日 【証券・保険業界】野村証券 第6回 11月5日 【商社】帝人フロンティア株 第7回 11月12日 【マスコミ業界】毎日放送（企業変更あり） 第8回 11月19日 【サービス・旅行業界】株日本旅行（企業変更あり） 第9回 11月26日 【情報・通信業界】ラポール株 野老みわ氏 第10回 12月3日 【航空業界】株ANA総合研究所（企業変更あり） 第11回 12月10日 【IT・教育業界】株エヌゲージ 第12回 12月17日 【生活・運輸業界】JR西日本旅客鉄道株 小菅謙一氏 第13回 1月7日 【銀行業界】株三菱東京UFJ銀行 第14回 1月14日 【製造業】株フコール（企業変更あり） 第15回 1月21日 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日頃から新聞や情報誌を読み、関心ある業界の傾向をつかむ。 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。						
授業方法	オムニバス形式の講義						
評価基準と評価方法	授業毎の小レポート（60%）、レポート（2回）（40%）						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する						
授業の概要	<p>大学を卒業すれば、社会人として企業で働く人も多いと思います。資本主義社会においては、企業活動を通じて、経済活動を行い人々は生活しています。社会人として、最低限知っておかなければならない事から、就職活動において知っていれば有利な知識まで、選りすぐり、講義していきます。講義は大きく2つに分かれており、ひとつは社会の仕組み、もうひとつは企業の仕組みです。</p> <p>社会の仕組みについては、日本経済の仕組みをお金の存在から説明していき、政府、企業、個人の役割について説明します。特に、経済用語は、通常の会話ではなかなか出てきませんが、一つの事象から言葉に注目し、その事象に必要な経済用語、企業用語を解説するといった形で講義を進めていきます。これらの知識は、無理から暗記するのではなく、自然に体得することが重要と考えています。このため、経済用語を理解するための手助けとして、最近の新聞からのニュースを取り上げ、内容理解を高めます。</p> <p>企業のしくみでは、株式会社の仕組みから、会社の組織や、業務の内容、業務の流れ、を通じて企業の概略の理解を深めます。また、これから企業に働くに当って、従業員として就職し退職するまでの流れや、労働者の権利、そして最後には、企業が社会に存在するための最低限の社会的責任について説明します。</p>						
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める						
授業計画	<p>1 オリエンテーション 講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。</p> <p>2 社会の仕組み（お金に関する知識） 経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。</p> <p>3 社会の仕組み（お金と経済の知識①） お金によって、物価が変動したり、為替が変動したりする仕組みについて説明します。</p> <p>4 社会の仕組み（お金と経済の知識②） GDPの仕組みについて簡単に説明します。</p> <p>5 企業の仕組み（株式会社のしくみ） 今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。</p> <p>6 企業の仕組み（株式のしくみ） 株式会社の仕組みにである株主について勉強します。</p> <p>7 社会の仕組み（証券市場の仕組み） 証券市場の仕組みについて勉強します。</p> <p>8 社会の仕組み（金融商品と利回り） 様々な金融商品が存在しますが、概略を解説します</p> <p>9 社会の仕組み（政府の収入、支出～税金のしくみ） 日本政府の財政について説明するとともに、税金の仕組みを解説します。</p> <p>10 企業の仕組み（会社内部の仕事） 会社のそれぞれの業務やその役割について説明します。</p> <p>11 企業の仕組み（従業員として働くこと） 従業員として就職から退職までの流れや、給与の仕組みについて説明します。</p> <p>12 企業の仕組み（会社の数字） 会社の決算について説明します。</p> <p>13 企業の仕組み（業務の流れとしくみ） 会社の個別の業務（契約や、法律問題）について説明します。</p> <p>14 企業の仕組み（企業の社会的責任） 企業の社会的責任とは何なのか？について、考えていきます。</p> <p>15 総まとめ 1年の総まとめを行います。</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。						
授業方法	<p>各回のテーマに沿ったプリントを作成し、そのプリントを中心に授業を進めていきます。プリントにおいては、いくつかの質問事項や、みなさんと検討することも盛り込んでいます。これらをみなさんと一緒に解決することで、理解力を高めていきます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、レポートを加味して評価する。						
教科書	特になし						

参考書	初回授業時に発表する
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する						
授業の概要	<p>大学を卒業すれば、社会人として企業で働く人も多いと思います。資本主義社会においては、企業活動を通じて、経済活動を行い人々は生活しています。社会人として、最低限知っておかなければならない事から、就職活動において知っていれば有利な知識まで、選りすぐり、講義していきます。講義は大きく2つに分かれており、ひとつは社会の仕組み、もうひとつは企業の仕組みです。</p> <p>社会の仕組みについては、日本経済の仕組みをお金の存在から説明していき、政府、企業、個人の役割について説明します。特に、経済用語は、通常の会話ではなかなか出てきませんが、一つの事象から言葉に注目し、その事象に必要な経済用語、企業用語を解説するといった形で講義を進めていきます。これらの知識は、無理から暗記するのではなく、自然に体得することが重要と考えています。このため、経済用語を理解するための手助けとして、最近の新聞からのニュースを取り上げ、内容理解を高めます。</p> <p>企業のしくみでは、株式会社の仕組みから、会社の組織や、業務の内容、業務の流れ、を通じて企業の概略の理解を深めます。また、これから企業に働くに当って、従業員として就職し退職するまでの流れや、労働者の権利、そして最後には、企業が社会に存在するための最低限の社会的責任について説明します。</p>						
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める						
授業計画	<p>1 オリエンテーション 講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。</p> <p>2 社会の仕組み（お金に関する知識） 経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。</p> <p>3 社会の仕組み（お金と経済の知識①） お金によって、物価が変動したり、為替が変動したりする仕組みについて説明します。</p> <p>4 社会の仕組み（お金と経済の知識②） GDPの仕組みについて簡単に説明します。</p> <p>5 企業の仕組み（株式会社のしくみ） 今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。</p> <p>6 企業の仕組み（株式のしくみ） 株式会社の仕組みにである株主について勉強します。</p> <p>7 社会の仕組み（証券市場の仕組み） 証券市場の仕組みについて勉強します。</p> <p>8 社会の仕組み（金融商品と利回り） 様々な金融商品が存在しますが、概略を解説します</p> <p>9 社会の仕組み（政府の収入、支出～税金のしくみ） 日本政府の財政について説明するとともに、税金の仕組みを解説します。</p> <p>10 企業の仕組み（会社内部の仕事） 会社のそれぞれの業務やその役割について説明します。</p> <p>11 企業の仕組み（従業員として働くこと） 従業員として就職から退職までの流れや、給与の仕組みについて説明します。</p> <p>12 企業の仕組み（会社の数字） 会社の決算について説明します。</p> <p>13 企業の仕組み（業務の流れとしくみ） 会社の個別の業務（契約や、法律問題）について説明します。</p> <p>14 企業の仕組み（企業の社会的責任） 企業の社会的責任とは何なのか？について、考えていきます。</p> <p>15 総まとめ 1年の総まとめを行います。</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。						
授業方法	<p>各回のテーマに沿ったプリントを作成し、そのプリントを中心に授業を進めていきます。プリントにおいては、いくつかの質問事項や、みなさんと検討することも盛り込んでいます。これらをみなさんと一緒に解決することで、理解力を高めていきます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、レポートを加味して評価する。						
教科書	特になし						

参考書	初回授業時に発表する
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田 麻衣子・松永 邦哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士3級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなるとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p>						
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要の説明 植田 2. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る 松永 3. ライフプランニングその1（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する 松永 4. ライフプランニングその2（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出 松永 5. 【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その1・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る 給与明細の見方の解説 松永 6. 【まもる】社会保険の知識その2・・・給与から控除される社会保険料について解説 松永 7. 【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説 松永 8. 【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説 松永 9. 【ふやす】金融商品のしくみ 総論・・・お金を増やすとは リスクとリターンについて解説 植田 10. 【ふやす】金融商品のしくみ 各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する 植田 11. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する 植田 12. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その1・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説 植田 13. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その2・・・住宅ローン・カーリース等にかんする知識の取得 植田 14. 【のこす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話 植田 15. 終了試験・・・FP技能士3級レベルの試験と評価 植田 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。						
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 レジュメにもとづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）60%、試験40%						
教科書	なし						
参考書	署名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田 麻衣子・松永 邦哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士3級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなるとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p>						
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要の説明 植田 2. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る 松永 3. ライフプランニングその1（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する 松永 4. ライフプランニングその2（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出 松永 5. 【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その1・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る 給与明細の見方の解説 松永 6. 【まもる】社会保険の知識その2・・・給与から控除される社会保険料について解説 松永 7. 【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説 松永 8. 【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説 松永 9. 【ふやす】金融商品のしくみ 総論・・・お金を増やすとは リスクとリターンについて解説 植田 10. 【ふやす】金融商品のしくみ 各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する 植田 11. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する 植田 12. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その1・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説 植田 13. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その2・・・住宅ローン・カーリース等にかんする知識の取得 植田 14. 【のこす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話 植田 15. 終了試験・・・FP技能士3級レベルの試験と評価 植田 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。						
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 レジュメにもとづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）60%、試験40%						
教科書	なし						
参考書	署名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田 麻衣子・松永 邦哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士3級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなるとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p>						
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要の説明 植田 2. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る 松永 3. ライフプランニングその1（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する 松永 4. ライフプランニングその2（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出 松永 5. 【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その1・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る 給与明細の見方の解説 松永 6. 【まもる】社会保険の知識その2・・・給与から控除される社会保険料について解説 松永 7. 【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説 松永 8. 【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説 松永 9. 【ふやす】金融商品のしくみ 総論・・・お金を増やすとは リスクとリターンについて解説 植田 10. 【ふやす】金融商品のしくみ 各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する 植田 11. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する 植田 12. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その1・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説 植田 13. 【つかう】不動産・車の購入のしかた その2・・・住宅ローン・カーリース等にかんする知識の取得 植田 14. 【のこす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話 植田 15. 終了試験・・・FP技能士3級レベルの試験と評価 植田 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。						
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 レジュメにもとづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）60%、試験40%						
教科書	なし						
参考書	署名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと医療						
担当教員	原 正之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	医療制度や医薬品の開発に関わる制度の概説と、新しい医療技術や生命倫理に関わるトピックスの紹介など。						
授業の概要	<p>まず、我が国の医療保険制度の概要を解説する。先端的な医療技術や再生医療について解説する上で、理解の前提となる生物学や化学の基礎的な知識についても、併せて説明を行う。近年関心の高まっている再生医療を中心として先端医療に関わる技術のトピックスを紹介し、その背景となる医学や生物学の技術的進歩、ならびに社会的背景を含めて解説を行う。医薬品、医療用具の認可制度、臓器移植や研究目的での細胞や組織の提供の仕組みについてなど、生命倫理と医療技術の社会的受容に関わる問題について解説する。</p>						
到達目標	<p>新聞やニュース等で報道される医療制度や医療技術に関わる問題に関心を持ち、自分で考えてみる習慣をつける。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療制度についての概論 2. 再生医療とは？ 3. 細胞分化と発生のしくみ 4. 幹細胞について 5. 医療用具とその材料 6. 人工臓器と組織工学 7. 医薬品、医療用具の認可制度 8. 臓器移植について 9. クローン動物作成技術 10. 生命倫理と社会的受容 11. 難病について 12. 感染症 13. 医療に関わるトピックス1（報道記事などを参考にして事例を解説） 14. 医療に関わるトピックス2（報道記事などを参考にして事例を解説） 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などで報道される医療制度、医療技術についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点50%と課題レポート提出50%により、評価する。						
教科書	取り上げる問題が多岐に渡るので、教科書は特に指定しない。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと憲法／日本国憲法						
担当教員	中川 丈久						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	最初に法学入門的な授業をしたあと、日本国憲法の存在理由としくみを取り扱う。最後に、平和主義と人権の諸問題を取り上げて、「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明する経験を得ること。						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 復習テスト1 (I～III)</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要？</p> <p>第8回 V. 憲法の内容 (1) 1. 民主主義 (国会と内閣)</p> <p>第9回 V. 憲法の内容 (1) 2. 民主主義 (地方自治) 3. 民主主義のなかの司法</p> <p>第10回 復習テスト2 (IV～V)</p> <p>第11回 VI. 憲法の内容 (2) : 戦争放棄</p> <p>第12回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 1. なぜ人権を守るのか？</p> <p>第13回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 3. 具体例：表現の自由</p> <p>第15回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 4. 具体例：平等原則、生命身体の自由</p> <p>第15回 まとめと期末試験 (VI～VII)</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2つを評価対象とする。						
教科書	中川剛「文学のなかの法感覚」（信山社）						
参考書	なし（配布資料あり）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと憲法／日本国憲法						
担当教員	中川 丈久						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本国憲法を自分のあたまで理解し、憲法問題について、自分のことばで意見をいう。						
授業の概要	最初に法学入門的な授業をしたあと、日本国憲法の存在理由としくみを取り扱う。最後に、平和主義と人権の諸問題を取り上げて、「憲法問題について自分なりの意見をいう」ことを目標とする。						
到達目標	憲法と法律の違いを理解し、憲法上の諸問題について、様々な見解があることを知ったうえで、自分なりの見解を自分の言葉で説明する経験を得ること。						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 I イン트로ダクション 授業の進め方、試験について</p> <p>第2回 II 法と人間 1. 法の歴史</p> <p>第3回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係</p> <p>第4回 III 法律の3部門 1. 民事法</p> <p>第5回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法</p> <p>第6回 復習テスト1 (I～III)</p> <p>第7回 IV 憲法はなぜ必要?</p> <p>第8回 V. 憲法の内容 (1) 1. 民主主義 (国会と内閣)</p> <p>第9回 V. 憲法の内容 (1) 2. 民主主義 (地方自治) 3. 民主主義のなかの司法</p> <p>第10回 復習テスト2 (IV～V)</p> <p>第11回 VI. 憲法の内容 (2) : 戦争放棄</p> <p>第12回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 1. なぜ人権を守るのか?</p> <p>第13回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 2. 公共の利益・対・基本的人権</p> <p>第14回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 3. 具体例: 表現の自由</p> <p>第15回 VII. 憲法の内容 (3) : 人権保障 4. 具体例: 平等原則, 生命身体の自由</p> <p>第15回 まとめと期末試験 (VI～VII)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	配付資料の該当箇所を読んで、質問にどう答えるかを考えてくること						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	復習テスト (2回) と期末試験を総合して評価する。期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか (どのような見解をとるかは当然ながら自由) の2つを評価対象とする。						
教科書	中川剛「文学のなかの法感覚」 (信山社)						
参考書	なし (配布資料あり)						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしの中の統計学						
担当教員	津久井 茂樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中や実験、調査等で使われる数字を、簡単な統計を使って分かりやすく読み解く。						
授業の概要	身近なくらしの中で、統計学が使われる場面が多くあります。その使われ方を簡単な例を通して学ぶことで、データ分析の手法と、データが意味する本質を理解することを目的とします。授業では、ハンバーガーショップでのハンバーガーやポテトの味や人気度などを題材に、その評価を統計学的に処理する方法を学びます。難しい数学を使わないで、統計の基礎を学び、実験データやアンケートなどのデータ分析、情報処理などの統計的な扱いを学びます。						
到達目標	統計に必要な平均、分散、標準偏差の算出方法と、それらの意味を理解する。相関を検証する χ^2 検定、平均を比較するt検定、分散を分析するF検定、データの相関を調べる相関係数などを理解する。						
授業計画	<p>第1回:Orientation/統計学とはなに?/ 教科書『統計学がわかる』のハンバーガー店のポテトの売上を例題に ／第1章、ポテトの長さの均一性[1/2]—「平均」</p> <p>第2回:第1章、ポテトの長さの均一性[2/2]—用語を知っておこう//度数分布」、 「分散」、「標準偏差」；「偏差値」のマジック</p> <p>第3回:第2章、ポテトの本数[1/2]—「母集団」、「標本」、「抽出」、「推定値」</p> <p>第4回:第2章、ポテトの本数[2/2]—「区間推定」、「信頼区間」、 「t分布表と自由度」；「選挙速報」の怪</p> <p>第5回:第3章、ライバル店との売上高比較[1/2]—「仮説をたてる」、 「カイ2乗値」、「カイ2乗値の分布」</p> <p>第6回:第3章、ライバル店との売上高比較[2/2]—「カイ2乗検定と自由度」、 「有意水準」、「仮説検定」、「決断のとき」</p> <p>第7回:第4章、どちらの商品が人気?[1/2]—「対応のないt検定」、 「差の信頼区間」、「有意差」</p> <p>第8回:第4章、どちらの商品が人気?[2/2]—「t検定の実施」；「秘密?の有意差」</p> <p>第9回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[1/2]—「対応のあるt検定」</p> <p>第10回:第5章、ライバル店の人気の秘密は?[2/2]—「対応のあり/なしの比較」； 「こころの数値化?」</p> <p>第11回:『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』のアイスクリーム店の売り上げを例に。 第1章、最高気温と客数の関係を知りたい—「散布図と相関」</p> <p>第12回:第2章、相関の強さを知りたい[1/2]—「相関係数」</p> <p>第13回:第2章、相関の強さを知りたい[2/2]—「相関係数の意味を考える」</p> <p>第14回:第3章、その相関係数に意味はあるのか?—「無相関検定」</p> <p>第15回質疑応答と試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に必要ないが、次のURLで学習することが望ましい。 http://kogolab.chillout.jp/elearn/hamburger/index.html http://kogolab.chillout.jp/elearn/icecream/index.html						
授業方法	パワーポイントを使って分かりやすい授業を行ない、視覚的な理解を助けます。教科書を軸にしつつ、毎回講義資料を配布して理解を深めます。毎回、授業時間内に小テストを実施し、内容の理解を深めます。						
評価基準と評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)の得点から理解度を評価する。欠席時は、原則事前に連絡してください。理由無く後日提出した小テストの評価を減じます。30分以降の出席は欠席とみなし、遅刻2回で1回の欠席とします。欠席が5回を越えると単位認定から除外します。						
教科書	向後千春、富永敦子著『統計学がわかる』（技術評論社） 向後千春、富永敦子著『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】』（技術評論社）						
参考書	特に購入の必要はないが、図書館等で参考にすることが望ましい。 小島寛之著『完全独習統計学入門』（ダイヤモンド社） 柳谷晃著『統計解析の基本』（日本能率協会マネジメントセンター） 中西寛子著『統計学の基礎』（多賀出版）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）																								
科目名	景観論																								
担当教員	中林 浩																								
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0																		
授業のテーマ	<p>世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはらわれていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところです。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>																								
授業の概要	【「授業のテーマ」参照、わたしにはこういうものをテーマ・概要・到達目標・授業方法というように細切れには書けないのです、思考が平板になってしまいます。テーマ・概要・到達目標……、これらは同じものの別の側面なのにそれを分けて書く方がいいシラバスだとはお笑いだ】																								
到達目標	【「授業のテーマ」参照】																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 景観・風景とは 2 いろいろな景観・農村編 3 いろいろな景観・中小都市編 4 いろいろな景観・大都市編 5 景観保全・町並み保存運動の歴史 6 景観法のしくみ+テスト1 7 文化財行政の発展 8 世界遺産制度のしくみ 9 都市の世界遺産 10各地の景観まとめ 11観光・レクリエーションのあり方 12京都の景観破壊——せっかくの文化財・自然環境がここまで壊されるとは 13大阪の景観破壊——かつては「水の都」と称されていたのに 14神戸の景観破壊——高架道路と高層ビルはひどいですね、デザイン都市？ 15景観問題のまとめ+テスト2 <p>15回でない構成にすると</p> <table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>A1 景観・風景とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>A2 いろいろな景観</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>世界遺産制度のしくみ</td> <td>テスト1</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>景観保全・文化財行政の発展</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>景観法のしくみ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>景観問題</td> <td>テスト2</td> </tr> </table>							A	A1 景観・風景とは			A2 いろいろな景観		B	世界遺産制度のしくみ	テスト1	C	景観保全・文化財行政の発展		D	景観法のしくみ		E	景観問題	テスト2
A	A1 景観・風景とは																								
	A2 いろいろな景観																								
B	世界遺産制度のしくみ	テスト1																							
C	景観保全・文化財行政の発展																								
D	景観法のしくみ																								
E	景観問題	テスト2																							
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。																								
授業方法	【「授業のテーマ」参照】																								
評価基準と評価方法	ほとんどを授業中のテスト2回で採点します。授業への参加の積極性を加味することもあります。シラバス内クイズ「2回国境を越えないと海に出られない国はどこでしょう」。																								
教科書																									

参考書	授業中に紹介します。新書などでつよく勧めるものがあります。
-----	-------------------------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	経済学						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	「経済学的な考え方」を学ぶ						
授業の概要	経済学とはどんな学問か考えることを導入部に、経済学的な考え方について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、その本質理解に一歩近づければと考えています。新聞・TVなどで話題になっている経済トピックについて取り上げ、分かりやすく説明する予定です。						
到達目標	経済事象や経済問題をより深く理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、経済とは？経済学とは？ 2. 経済学の基本概念 3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界 4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学 5. 経済システムと組織①：市場のしくみ 6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状 7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か/国民経済勘定について/経済成長率について 8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性 9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策 10. 開放経済のマクロ経済学 11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か/消費者の行動 12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経済行動 13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場 14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？ 15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	つね日頃からインターネット・新聞・テレビなどを通して現代の経済の問題や出来事について関心を向け、その内容理解に努めてください（確認テストなどでたずねます）。						
授業方法	極力双方向の授業を目指します。内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。						
評価基準と評価方法	定期試験70%と平常点30%						
教科書							
参考書	井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』（ナツメ社） 嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』（ナツメ社） 若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』（ミネルヴァ書房） 山田鋭夫著『レギュレーション理論』（講談社新書） J.スティグリッツ著『入門経済学』（東洋経済新報社）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	言語学入門／言語学I						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の多様性についての理解を深める						
授業の概要	日本語の話しことば、つまり「方言」と「標準語・共通語」を中心に、その多様性について理解を深めたいと考えている人を対象とした講義です。専攻分野や目指す職種の如何にかかわらず、日本語の表現力は生きていく上で不可欠なものです。ビデオなどの資料を取り入れながら講義をすすめます。演習問題や課題も取り入れる予定です。						
到達目標	日本語の話しことばにかんして、基本的なことがらを習得し、見識を深めることを目標とします。						
授業計画	第1回 話しことばの多様性 第2回 方言とは何か 第3回 方言の境界 第4回 方言の意識 第5回 文献にあらわれる方言 第6回 江戸語と標準語 第7回 標準語と方言 第8回 中間テストと解説 第9回 ことばの伝わり方 第10回 日本各地の方言① 第11回 日本各地の方言② 第12回 方言の変化 第13回 位相語 第14回 方言の動態 第15回 テストの解説とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々の生活で、特に意識もせず使っていたり耳にしたりする話しことばは、貴重なデータの宝庫です。気をつけて観察していると、疑問に思うことや気にかかることがたくさんあるはずです。また、当たり前すぎて何も思わなかったことにもさまざまな興味深いことが含まれていたりもします。自分の身の回りにある話しことばについて、普段から注目し、問題意識を持って授業に臨んでください。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点・小テスト（50%） 中間テスト（25%） 期末テスト（25%）						
教科書	真田信治『方言の日本地図 ことばの旅』講談社α新書 ISBN 4-06-272168-6C0281						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	社会生活において、当然来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の紙面や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①：経済政策 9 経済における政府の役割②：社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①：交易 13 国際経済のしくみ②：金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。						
授業方法	極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本経済の基本構造を理解する。						
授業の概要	社会生活において、当然来るべき就職活動においても、経済に関わる知識を習得しておくことはとても重要です。授業では、日本経済を支えている企業のあり方や現状、生産活動のあり方、金融のしくみ、日本をとりまく国際経済情勢について、基本的なことがらから平明に解説をします。						
到達目標	経済に関心を持ち、経済の紙面や報道の内容をある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 経済とは何か？誰のための経済か？—GNPとGNH 2 「市場」のはたらきを学ぶ① 3 市場の種類とそのしくみ② 4 市場の限界③ 5 「企業」の役割を学ぶ① 6 株式会社の基本的なしくみ② 7 コーポレート・ガバナンスとCSR③ 8 経済における政府の役割①：経済政策 9 経済における政府の役割②：社会政策 10 「銀行」のしくみを学ぶ① 11 日本銀行の役割② 12 国際経済のしくみ①：交易 13 国際経済のしくみ②：金融 14 為替レートの変動がもたらすもの 15 まとめとテスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	経済の記事やニュースなどに積極的に関心を向ける習慣をつける。 分からない事柄についてきちんと「問い」をたてて納得のいく答えを導こうと努力をしてください。						
授業方法	極力双方向をめざします。 理解の確認・知識の整理のためのチェックシートをなるべく頻回に行いたいと思います。						
評価基準と評価方法	期末試験70%、平常点30%						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。また私たちの生活にかかわりをもつとおもわれる国内外の政治問題についても考察・検討したいと思います。新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革とその問題 11 日本の司法制度改革とその問題 12 歴史認識とナショナリズム 13 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に 14 日本と米・欧・露 15 まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%で評価します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。						
授業の概要	授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。また私たちの生活にかかわりをもつとおもわれる国内外の政治問題についても考察・検討したいと思います。新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。						
到達目標	政治に関心を持ち、政治報道や記事についてある程度理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに：「政治」とは何だろう 2 民主主義再考(最高?) 3 民主主義の歴史をふり返る 4 「保守」「革新」という考え 5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型 6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴 7 政治と国家(1)：国家機能の変遷 8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割 9 世論の支配とマスメディア 10 日本の行政改革とその問題 11 日本の司法制度改革とその問題 12 歴史認識とナショナリズム 13 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に 14 日本と米・欧・露 15 まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけてください。						
授業方法	極力双方向を目指したいと思います。理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。						
評価基準と評価方法	試験70%と平常点30%で評価します。						
教科書	プリント・資料を配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	20世紀は戦争の世紀でした。と同時に19世紀から続くメディアの世紀でもありました。また、2011年3月11日の東日本大震災は未曾有の大災害となり、その後の福島第1原子力発電所の事故は、私たちの今後の社会のあり方を問うています。それら知識を主に私たちはメディアを通じて入手します。講義では、現代社会が抱える様々な問題、中でも「エネルギー問題と原発」「少子高齢化社会と女性の役割」「ネット社会と家族の崩壊」「アベノミクスと今後の日本経済」など解説とDVDでその問題点を探り、ともに議論します。そしてレポートにまとめ各自が発表します。						
授業の概要	授業では現代のメディアの生成発展の歴史をたどりながら、メディアを読み解くための基礎知識を学びます。また、随時各人のレポートの報告を受けます。また、現代社会の諸問題をを解決するための、海外の優れた知見をDVDを通じて学びます。						
到達目標	現代社会を生きる知恵を身につけ、メディアを読み解く基礎知識を習得する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①福島原発の事故と今後の日本のエネルギー問題 ②少子高齢化社会と女性の役割 ③アベノミクスと今後の日本経済 ④ネット社会と家族の崩壊 ⑤メディアの変遷 ⑥メディアの今日的課題 ⑦メディアとしての身体からゲーテンベルクへ ⑧放送メディアの生成と発展 ⑨メディアの今日的生成 ⑩国家とメディア ⑪メディア産業と組織 ⑫ネットワークと階層 ⑬メディアの利用と効果 ⑭パブリックアクセス権とケータイスマホの落とし穴 ⑮テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	講義のほか、受講生全員による議論とそれを踏まえたレポートの作成・発表を行います。さまざまなDVDやデータなども利用します。						
評価基準と評価方法	レポート・出席・発表・試験の結果を総合的に判断します。比率は出席・レポート・発表が30%、試験は70%です。						
教科書	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	20世紀は戦争の世紀でした。と同時に19世紀から続くメディアの世紀でもありました。また、2011年3月11日の東日本大震災は未曾有の大災害となり、その後の福島第1原子力発電所の事故は、私たちの今後の社会のあり方を問うています。それら知識を主に私たちはメディアを通じて入手します。講義では、現代社会が抱える様々な問題、中でも「エネルギー問題と原発」「少子高齢化社会と女性の役割」「ネット社会と家族の崩壊」「アベノミクスと今後の日本経済」など解説とDVDでその問題点を探り、ともに議論します。そしてレポートにまとめ各自が発表します。						
授業の概要	授業では現代のメディアの生成発展の歴史をたどりながら、メディアを読み解くための基礎知識を学びます。また、随時各人のレポートの報告を受けます。また、現代社会の諸問題をを解決するための、海外の優れた知見をDVDを通じて学びます。						
到達目標	現代社会を生きる知恵を身につけ、メディアを読み解く基礎知識を習得する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①福島原発の事故と今後の日本のエネルギー問題 ②少子高齢化社会と女性の役割 ③アベノミクスと今後の日本経済 ④ネット社会と家族の崩壊 ⑤メディアの変遷 ⑥メディアの今日的課題 ⑦メディアとしての身体からゲーテンベルクへ ⑧放送メディアの生成と発展 ⑨メディアの今日的生成 ⑩国家とメディア ⑪メディア産業と組織 ⑫ネットワークと階層 ⑬メディアの利用と効果 ⑭パブリックアクセス権とケータイスマホの落とし穴 ⑮テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	講義のほか、受講生全員による議論とそれを踏まえたレポートの作成・発表を行います。さまざまなDVDやデータなども利用します。						
評価基準と評価方法	レポート・出席・発表・試験の結果を総合的に判断します。比率は出席・レポート・発表が30%、試験は70%です。						
教科書	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	20世紀は戦争の世紀でした。と同時に19世紀から続くメディアの世紀でもありました。また、2011年3月11日の東日本大震災は未曾有の大災害となり、その後の福島第1原子力発電所の事故は、私たちの今後の社会のあり方を問うています。それら知識を主に私たちはメディアを通じて入手します。講義では、現代社会が抱える様々な問題、中でも「エネルギー問題と原発」「少子高齢化社会と女性の役割」「ネット社会と家族の崩壊」「アベノミクスと今後の日本経済」など解説とDVDでその問題点を探り、ともに議論します。そしてレポートにまとめ各自が発表します。						
授業の概要	授業では現代のメディアの生成発展の歴史をたどりながら、メディアを読み解くための基礎知識を学びます。また、随時各人のレポートの報告を受けます。また、現代社会の諸問題をを解決するための、海外の優れた知見をDVDを通じて学びます。						
到達目標	現代社会を生きる知恵を身につけ、メディアを読み解く基礎知識を習得する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①福島原発の事故と今後の日本のエネルギー問題 ②少子高齢化社会と女性の役割 ③アベノミクスと今後の日本経済 ④ネット社会と家族の崩壊 ⑤メディアの変遷 ⑥メディアの今日的課題 ⑦メディアとしての身体からゲーテンベルクへ ⑧放送メディアの生成と発展 ⑨メディアの今日的生成 ⑩国家とメディア ⑪メディア産業と組織 ⑫ネットワークと階層 ⑬メディアの利用と効果 ⑭パブリックアクセス権とケータイスマホの落とし穴 ⑮テスト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	講義のほか、受講生全員による議論とそれを踏まえたレポートの作成・発表を行います。さまざまなDVDやデータなども利用します。						
評価基準と評価方法	レポート・出席・発表・試験の結果を総合的に判断します。比率は出席・レポート・発表が30%、試験は70%です。						
教科書	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養I／（古典古代の哲学と文芸）						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ソクラテスの生き方と哲学						
授業の概要	西洋の伝統的教養の中核をなす古典ギリシアの学芸のそのまた核心をなした人物がソクラテスである。ソクラテスはどのように生き、どのように死んだのか、彼の活動が古典的哲学精神の精髓であったとともに、現代社会に対して強い訴求力を持つのはいかなる意味においてであるのかを、古代ギリシアにおける哲学の誕生にさかのぼって考察する。						
到達目標	①古代ギリシアにおける哲学の誕生からソクラテスに至るまでの思想史の大筋を知る。 ②ソクラテスの生き方と対話の哲学の骨子を理解する。 ③『ソクラテス以前以後』を第2章まで読み、著者の説明・論述をたどる語彙力と読解力を身につける。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション—授業内容の概観 第2回 哲学の始まり—タレス、ピタゴラス、ソクラテス 第3回 ソクラテスの生きた時代と社会—紀元前5世紀の都市国家アテナイ 第4回 ソクラテスの生涯 第5回 ソクラテス裁判と死 第6回 ソクラテスと自然の探求(1) 第7回 ソクラテスと自然の探求(2) 第8回 ソクラテスとソフィストたち(1) 第9回 ソクラテスとソフィストたち(2)、教科書チェックテスト 第10回 ソクラテスの哲学(1)—無知の知 第11回 ソクラテスの哲学(2)—魂の世話 第12回 ソクラテスの哲学(3)—帰納と定義 第13回 ソクラテスの哲学(4)—エレンコス 第14回 ソクラテスの信念 第15回 回顧と展望、講義チェックテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義の進展に沿って教科書や参考文献を自分で読んでゆくこと						
授業方法	教科書やプリント資料を読みながら講義する。受講者はよく話を聞いてノートを取る。						
評価基準と評価方法	授業への参加度や授業態度などの平常点30%、教科書チェックテスト30%、講義チェックテスト40%で評価する。						
教科書	『ソクラテス以前以後』（岩波文庫） F.M. コーンフォード著、山田道夫訳 ISBN4-00-336831-2						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養II／（進化から考える人間らしさ）						
担当教員	待田 昌二						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	人間らしさを進化から考える						
授業の概要	科学・技術が急速に発達し、社会生活も大幅に変化した現代であるからこそ、自己形成と社会的実践に通底する基盤的能力ともいえる「教養」が必要になっている。「教養」とはまた、多くの情報に溢れた現代社会において、必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判するための豊かな知識ともの見方を与えてくれる。この授業では、人間自身を対象とした科学的探求について学び考えながら、現代的教養の基礎を築くことを目的とする。						
到達目標	人間の進化について基本的な知識を持ち、人間の身体や心の働きを進化論的視点から説明できるようになる。現代社会とそこで生きる人間の問題を進化論的視点から考えることができるようになる。						
授業計画	<p>全体テーマ：進化から考える人間らしさ</p> <p>第1回 人間の悩みを人類進化から考える</p> <p>第2回 人間の祖先はサルって本当？</p> <p>第3回 人類進化の始まり</p> <p>第4回 “原始人”て、どんな人？</p> <p>第5回 ホモ・サピエンスとその多様性</p> <p>第6回 人間が見る世界：人間は他の動物と同じ世界を見ているのか</p> <p>第7回 人間が聞く世界：人間は他の動物と同じ音を聞いているのか</p> <p>第8回 道具を使う</p> <p>第9回 人間は真似をする動物である</p> <p>第10回 人間の社会と動物の社会</p> <p>第11回 なぜ群れを作るのか</p> <p>第12回 協力と助け合い（第1回試験）</p> <p>第13回 なぜ感情があるのか</p> <p>第14回 社会生活が感情を豊かにした</p> <p>第15回 現代社会と人間（第2回試験）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題50%と試験50%						
教科書	使用しない						
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「授業関連」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養III / （情報革命とグローバリゼーション）						
担当教員	郭 修静						
学期	後期 / 2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	情報革命と私たちの生活を考える						
授業の概要	20世紀の後半に始まったコンピュータとインターネットに代表される情報通信技術の急速な発展は、情報革命と呼ばれる。近年、経済のグローバル化や人々の自由な移動により世界がますます小さくなっている。瞬時の国際的コミュニケーションを可能にしたインターネットの普及は、これにさらに拍車をかけ、異文化接触を日常化させるなど人間生活を大きく変化させつつある。本科目の目的は、このようなグローバリゼーションと情報革命という相関する二つの背景、現状と将来、意義、問題点に対する理解を深めることにある。そして履修者が、この急速なグローバル化社会のニーズにスムーズに対応できる時代感覚を身に付けることを目指す。						
到達目標	インターネットによる多様な情報について理解を深め、情報社会に理知的に参加する能力を身に付ける。						
授業計画	本講では、1960年代からのコンピュータネットワーク発展の歴史を概観し、また、現在私達が日常的に利用しているインターネットのコミュニケーションツールについても学ぶ。単に履修者側が受け身的な授業だけではなく、実際にSNSやtwitterなども操作しグループ討議や発表を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業計画に従って、適宜予習・復習を行う。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	定期試験を行わず、出席・課題の遂行度合い・グループ討議や発表などで総合評価する。						
教科書	木暮 仁（著）『教科書 情報と社会—健全な高度情報化社会の実現のために』出版社：日科技連出版社 ISBN-10: 4817160993						
参考書	関連する書籍や資料は講義中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養Ⅳ／（裁判員のための法律入門）						
担当教員	嶋矢 貴之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	裁判員裁判と日本の刑事法入門						
授業の概要	2009年5月から、裁判員裁判が導入され、重要な刑事裁判に一般市民（みなさんも含まれます）が参加することとなりました。本講義は、これに関わるための基礎知識、具体的には、裁判員裁判のやり方、わが国の犯罪状況、わが国の刑法等に関するおおよその理解を得て、社会生活上・学問上、いずれにも有益な基礎教養の習得を目指すものです。日々起こる犯罪について、色々な角度から考えてみましょう。						
到達目標	今後裁判員に選ばれて参加するための基礎的な知識を得るのみでなく、日本の犯罪に関する事実や、刑事法に関する知識を獲得し、犯罪報道や社会問題をよりよく理解し、考えられるようになることを目指します。						
授業計画	1 法律とはどのようなものか？－ガイダンス 2 裁判員になるまで－いつ、誰が呼ばれて、どこに行くの？ 3 裁判員裁判の仕組み 4 裁判官、検察官、弁護士、警察官の仕事 5 刑法の基本原則－人を処罰するためのルール 6 日本の犯罪状況はどうなってる？ 7 少年と犯罪－子供だから、か、子供でも、か？ 8 精神障害と犯罪－心神喪失って何？ 9 交通事故と犯罪－わざとじゃなくても～過失犯について 10 犯罪死亡被害と損害賠償－命の代償？ 11 ストーカー対策と犯罪 12 日本の刑罰（1）－刑罰はどんなことをするの？ 13 日本の刑罰（2）－死刑について 14 隣の犯罪者？－刑務所を出た後の犯罪者 15 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：法律に関する基本的知識は不要ですが、各回適宜指示する文献や報道に目を通してください。 授業後学習：授業後に復習して、習った範囲で法律に関する基本的知識を定着させるとともに、法律文献や裁判に関する報道に積極的に目を通すようにしてください。						
授業方法	講義形式で行うことを予定していますが、参加人数によっては興味のある犯罪や事件に関する報告を求め・質問の受付を行いながら、授業を行います。犯罪に関するニュースを見て、わからないところ、疑問に思ったところを質問してください。裁判員に関する映像資料の視聴とそのレポート提出も予定しています。						
評価基準と評価方法	試験50%、平常点（レポート・小テスト等）50%						
教科書	なし						
参考書	松井茂記ほか著・はじめての法律学〔第3版補訂版〕（有斐閣、2013）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の倫理						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会の諸問題についての倫理的考察						
授業の概要	毎回の講義で、現代社会において起こっている事件や事象を1つか2つ取り上げ、それについて倫理学の立場からどのように考察するかを解説していきます。また受講者1人1人の意見を聞きながら、倫理学においては1つの問題に対して1つの答えがあるとは限らないことを知り、さらに最終的な正解がない問題についてどのように考えていけばよいかを学んでいきます。						
到達目標	社会に出たときにぶつかるであろう様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処する方法を修得する。						
授業計画	第1回 善悪について、倫理とは何か、道徳とは何か 第2回 人間について、私とは誰か、人間らしい生き方とはどういうものか 第3回 犯罪について、少年犯罪は増えているのか、その原因は何か 第4回 社会について、監視社会は平和なのか、社会を作っているのは誰か 第5回 殺人について、なぜ人を殺してはいけないのか 第6回 死刑について、死刑制度は必要か、裁判員制度は必要か 第7回 自殺について、死にたいと言う人を助けることは正しいか 第8回 教育について、なぜ勉強しなければいけないのか、義務教育は必要か 第9回 女性について、男女平等社会は実現できるのか、実現すべきなのか 第10回 母性について、母親になるとはどういうことか、母親の役割とは何か 第11回 父性について、父親の役割とは何か、父親は必要か 第12回 宗教について、宗教は怖いものか、宗教は必要か 第13回 麻薬について、麻薬の恐ろしさ、その犯罪性について 第14回 震災について、阪神大震災と東日本大震災、原発は必要か 第15回 戦争について、なぜ人類は戦争をやめないのか、これからの世界はどうなっていくか						
授業外における学習（準備学習の内容）	特にありません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末試験100点満点で60点以上を合格とします。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	小林 北斗						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的考察						
授業の概要	現代はストレス社会であるといわれており、多くの人が何らかのストレスを抱えながら生活を送っている。本講義では、ストレスについて考察していく中で様々な心の病について概観し、その予防法や対処方法について学んでいく。また本講義では、心の病といった病理的側面だけでなく、人の強みといった肯定的な側面についても概説していく。						
到達目標	臨床心理学に関する基礎知識およびアプローチについて理解し、こころの健康に対する理解を深める。						
授業計画	第1回 本講義についての概要 第2回 ストレスに関する基本的な考え方 第3回 いろいろな精神疾患①（統合失調症、うつ病） 第4回 いろいろな精神疾患②（不安障害、強迫性障害、身体表現性障害、摂食障害） 第5回 いろいろな精神疾患③（発達障害、人格障害） 第6回 いろいろな精神疾患④（アルコール・薬物依存） 第7回 心理テストの紹介①（知能検査、質問紙法） 第8回 心理テストの紹介②（投映法） 第9回 心理療法の紹介①（精神分析、来談者中心療法） 第10回 心理療法の紹介②（行動療法、認知行動療法） 第11回 心理療法の紹介③（家族療法、ブリーフセラピー） 第12回 人の強みについてーポジティブ心理学の紹介① 第13回 人の強みについてーポジティブ心理学の紹介② 第14回 講義全体の整理とまとめ 第15回 講義の理解度の確認 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞、テレビなどで取り上げられているメンタルヘルスや講義で話された内容などを積極的に調べてほしい。						
授業方法	適宜、資料を提示し、その資料に沿って講義を行う。また様々な心理尺度を使い、経験してもらう。						
評価基準と評価方法	試験60%、平常点30%、ミニレポート10%で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	<p>私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。こころの健康に関する理解を深めるために、こころの病についての知識を得ることは重要である。しかし病気に罹らないことだけが大切なのではない。どのようにすればこころの健やかさを育て、保ち、高めることができるかについて、自分自身のこころと向き合いながら感じる・考える作業が必要であると考えている。従って本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。授業では実際に心理検査やコラージュ療法などをおこない、それらをレポートにまとめる作業を通して自分を知るきっかけになればと考えている。</p>						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	より良く生きるために、こころのしくみやこころの病についての知識を得る。						
授業の概要	<p>私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。こころの健康に関する理解を深めるために、こころの病についての知識を得ることは重要である。しかし病気に罹らないことだけが大切なのではない。どのようにすればこころの健やかさを育て、保ち、高めることができるかについて、自分自身のこころと向き合いながら感じる・考える作業が必要であると考えている。従って本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。授業では実際に心理検査やコラージュ療法などをおこない、それらをレポートにまとめる作業を通して自分を知らせたいと考えている。</p>						
到達目標	精神保健への理解を深め、自分なりにこころの健康について考えることができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健の概要 2 こころはどこにあるのか 3 性格とは 4 ストレスの正体とそのマネージメント 5 大切なものを失ったとき 6 コラージュづくり 7 睡眠 8 タイプA 9 神経症性障害 10 多重人格障害 11 ストレスが原因のこころの病気 12 こころの風邪 うつ病 13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害 14 脳の不調和 統合失調症 15 まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布したプリントの復習						
授業方法	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう						
評価基準と評価方法	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する						
教科書	毎回資料を配布する						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 提出物評価【50%】、 演習評価【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 提出物評価【50%】、 演習評価【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの用い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 提出物評価【50%】、 演習評価【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 提出物評価【50%】、 演習評価【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	災害と防災						
担当教員	池田 清・村井 雅清・津久井 進						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	災害と防災に対する関心が背高まってきている。地球温暖化や都市化が、今までになかったような大災害の要因になっている点も指摘され、災害と防災に関する正しい知識と理解が社会生活を営む上で必須となっている。						
授業の概要	本科目は、地震、津波、原発事故、戦争など多様な災害について、発生要因と発生のメカニズム、被災態様、復興のあり方、災害への備えなどについて総合的に理解することを目的とする。また、被災者の心や生活、被災者支援、復興をめぐる問題なども取り上げる。						
到達目標	大災害と復興のあり方は、私たちひとり一人の生き方を問うものであり、災害と防災を学ぶなかで、人間や社会のあり方を考える。						
授業計画	第1回 授業の狙いと概要の説明 第2回 災害とは何か 第3回 自然災害と人為的災害 第4回 真の復興とは（1） 第5回 真の復興とは（2） 第6回 阪神淡路大震災とボランティア 第7回 東日本大震災とボランティア 第8回 海外支援とボランティア 第9回 ボランティアの課題と展望 第10回 被災者救済の法 第11回 被災者自立の法 第12回 阪神淡路大震災と東日本大震災 第13回 東日本大震災の復興と課題 第14回 東日本大震災の復興と課題 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などニュースを通じ社会の動きに関心を持つ。						
授業方法	講義を基本としビデオなどをみて学ぶ。						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30% 私語、スマホは厳禁						
教科書	最初の授業の時に指定する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会学概論						
担当教員	大久保 元正						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会」の内容 ・「社会」と私たちの関係 						
授業の概要	<p>「社会」とは、普段はほとんど意識しないのに、間違いなく、いつでもどこでも皆さんを「縛って」いるものです。この「縛り」は、皆さんの重荷になる時もあるれば、皆さんの心身を軽くしてくれる時もあります。この授業では、そんな「社会」の正体を1つずつ知っていくことで、「縛り」に振り回されないよう、自分なりに「縛り」と向き合えるようになることを目的とします。</p>						
到達目標	<p>概要に記したような、我々をとり巻く「社会」の中身を知るための、社会学の基本的な概念や理論（つまり社会の見方や捉え方）を、1つずつ習得することを目標とする。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会」とは何か 2. 「近代社会」について 3. 個性と自己——「見る自分」と「見られる自分」 4. 現代の自己——再帰的な自己へ 5. 行為——欲求・目的・手段 6. 相互作用——地位と役割のはたらき 7. 集団・組織①——集団の分類とはたらき 8. 集団・組織②——大規模な組織のメカニズム 9. 国家——そのはたらきと私達との関係 10. 社会秩序——社会はどうやって「収まって」いるか 11. 全体社会①——大衆社会 12. 全体社会②——消費社会 13. 社会変動①——フォーディズムからポスト・フォーディズムへ 14. 社会変動②——グローバル化 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・特に予備知識は必要としません。 ・授業後にノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。 						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとの小感想の内容（40%） ・期末テストの結果（60%） 						
教科書	特になし。						
参考書	特になし。必要がある場合は授業中に指示する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会学概論						
担当教員	大久保 元正						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会」の内容 ・「現代社会」と私たちの関係 						
授業の概要	<p>私たちが生きているのは「現代社会」です。この「現代社会」は流動的、つまり動きが速くてじっとしていないということでも有名です。私たちは、その中に投げ込まれているのです。この講義では、そんな「現代社会」について様々な角度・テーマから幅広く知ること、動きの速さの根底を見極めることを目的とします。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが置かれている「現代社会」を見る目を養う。 ・「この社会が他の形ではありえないのか」という「別の可能性」を考える力も養う。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——授業内容の紹介 2. リスク社会——リスクを背負うのは誰か 3. 監視社会——誰が誰を監視するのか 4. 環境管理社会——私達が知らないうちに方向づけられる 5. マクドナルド化社会——「合理性の非合理性」という矛盾 6. 格差社会——機会の格差と結果の格差 7. メディア——変容するメディア空間 8. 学校——何が行われている場所なのか 9. 仕事——自己実現は可能か 10. ジェンダー——男／女の境界を越えて 11. 恋愛と結婚——変わり行くそのかたち 12. 家族——現代の家族はどこへ向かうか 13. 都市——私たちが暮らす空間の性質とは 14. 幸福——私たちににとっての幸せ／不幸せのかたちとは 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・特に予備知識は必要ありません。 ・授業後にノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。 						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後の小感想の内容（40%） ・期末テストの結果（60%） 						
教科書	特になし。						
参考書	特になし。必要がある場合は授業中に指示する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会心理学						
担当教員	福井 齊						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活や人間関係の中にある心理学的知見						
授業の概要	社会心理学は、他者の存在や所属集団、社会環境が私たちの心の動きにどのように影響を与えるかを考える心理学の一分野です。この講義では、オムニバス形式でさまざまな社会心理学のテーマを横断的に紹介していきます。その際に、なるべく日々の生活に活かせるような事例を選びます。						
到達目標	日常の生活や人間関係を、社会心理学的に考える視点を身につけること						
授業計画	① オリエンテーション：社会心理学とは ② 対人認知（1）：ステレオタイプと偏見、差別 ③ 対人認知（2）：エイジズム ④ 対人コミュニケーション（1）：非言語コミュニケーションと言語コミュニケーション ⑤ 対人コミュニケーション（2）：欺瞞的コミュニケーション ⑥ 原因帰属：誰のせい？誰のおかげ？ ⑦ 援助行動と攻撃行動 ⑧ 集団行動（I）：集団に所属するとは？ ⑨ 集団行動（II）：3人寄れば文殊の知恵？ ⑩ 集団行動（III）：プレインストーミング ⑪ 態度と態度変容（I）：説得技法 ⑫ 態度と態度変容（II）：悪質商法 ⑬ 態度と態度変容（III）：廃棄物ゲーム ⑭ 社会心理学の総合的理解 ⑮ 試験と解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回、講義終了時に次回講義のキーワードや参考図書を指示します（参考図書を熟読することが望ましい）						
授業方法	講義（毎回、レジュメを配布します）						
評価基準と評価方法	期末試験と授業への取り組み姿勢（出席、授業態度、ミニレポート）、確認テスト（抜き打ち形式）で総合的に評価します <評価の目安：期末試験6割、授業への取り組み姿勢3割、確認テスト1割>						
教科書	なし						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会生活Ⅰ（生活と家族）						
担当教員	竹田 美知						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会における人間関係について、その基本的単位である家族について理解する。現代家族の諸現象、晩婚化、少子化、国際化を概説し、親子関係の密室化、夫婦関係のライフコース上の変化、家族と地域社会ネットワークをを考える。授業はライフコース上の諸問題とその対処方法を家族関係学観点から探る。						
授業の概要	家族関係を分析する諸概念や理論を解説する。それらの方法を、現実に行っている諸現象に適用して、その有効性と限界を確認する。また現代の家族関係の多様化を多角的にとらえる視点を育成し、支援や援助のサービスのあり方を検討する。						
到達目標	高齢化、少子化、晩婚化などの現代家族の問題を社会学の専門用語を使って説明できる。 「家族に対する支援や援助サービスがどのように地域で行われているか」について調べてレポートを書くことができる。 現代家族について問題とされていることをグループで討論して発表することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期と異性交際 2. 配偶者選択 3. 家族の概念と定義 4. 家族の形態とその変化 5. 少子化とその原因分析 6. 家族関係を分析する理論—役割理論— 7. 家族関係を分析する理論—ジェンダー理論— 8. 家族関係を分析する理論—ライフコース理論— 9. 人間関係を分析する理論—コーホート理論— 10. 高齢社会と家族 11. 家族の多様化 12. 家族とグローバリゼーション 13. 夫婦関係と法律 14. 親子関係と法律 15. まとめ・期末試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代家族に関する資料を読み、その内容をまとめてレポートをしてくる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小レポート、発表と期末試験（授業中の小レポート60% 期末試験 40%）						
教科書	よくわかる現代家族 ミネルヴァ書房 神原文子・杉井潤子・竹田美知編著 ISBN 9784623053445						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会生活II（神戸論）						
担当教員	池田 清						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	この授業では、都市社会のモデルとして近代的都市の典型として神戸を取り上げ、都市生活における政治的、行政的、経済的、文化的諸問題とこれからの課題を検証する。						
授業の概要	神戸の歴史を理解するために具体的事例から学ぶ。また阪神・淡路大震災を経験した都市として、被災地神戸の問題を検証することで、今後、都市で起こりうる災害に対する対処する方法と課題について考える。						
到達目標	これからのまちづくりは、自分の身近な生活や文化の視点から問題を考えることが大切である。						
授業計画	第1回 授業の狙いと概要の説明 第2回 神戸の歴史（古代） 第3回 神戸の歴史（中世） 第4回 神戸の歴史（近世） 第5回 神戸の歴史（近代） 第6回 神戸の歴史（現代） 第7回 神戸市の都市経営 第8回 神戸の文化とまちづくり 第9回 キリスト教とまちづくり 第10回 都市づくりと阪神・淡路大震災 第11回 神戸市の都市経営と阪神・淡路大震災 第12回 復興政策とまちづくり 第13回 復興災害と被災者の生活再建 第14回 真の復興とは 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌、ニュースなど社会の動きに関心を持つ。						
授業方法	講義を中心にビデオなどを活用する。						
評価基準と評価方法	試験70%、平常点30%						
教科書	プリント配布						
参考書	池田清「災害資本主義と憲法復興学」						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活におけるの楽しい生活とは何かを社会福祉から考える						
授業の概要	「人間とは何か」、「どう生きていくか」、そして「幸せとは何か」について、社会福祉の基礎を学びながら考えていく。また、私たちが楽しい生活を送るために社会福祉の制度がどのように影響しているのかグループ毎にワークシートを使用しながら各自の考えをグループ内で最終的に構築させていく。項目によっては、アメリカでの経験や取材も紹介していく。						
到達目標	日常生活とよくかかわる社会福祉の制度の一部を学び、自分自身の生活で必要に応じて学んだことを活用することで楽しい生活を自ら送って行けることを目指す。また、ワークシートを活用し、自ら「考え」、他者の考えを聴きながら更に自分の考えを構築できる力を身につける。他者の意見を聞いて、視野を広げていく。						
授業計画	第1回 社会福祉とは（楽しい生活とは、概念）、シラバスの紹介 第2回 社会福祉とは（概念と原理、告知） 第3回 生活保護と制度 第4回 社会福祉の歴史1（第2次世界大戦後の昭和の社会福祉の歴史） 第5回 社会福祉の歴史2（高度成長期後から平成） 第6回 ワークシート1、結婚と家族と制度1（結婚とは、離婚、現在の家族） 第7回 結婚と家族と制度2（出産、10代の性、虐待） 第8回 結婚と家族と制度3（里親制度、特別養子縁組） 第9回 雇用と制度1（新卒と中高年、ハローワーク） 第10回 雇用と制度2（就労と制度）、ワークシート2 第11回 障害者1（身体、知的、精神障害者、ジョブ・コーチ、自助グループ） 第12回 障害者2（身体障害者補助犬法） 第13回 高齢者と制度（人口と年金、後見制度、介護制度、終末期） 第14回 高齢者と施設（介護、施設、アメリカの事例の音楽療法、徘徊） 第15回 ワークシート3、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	ワークシートと小テストのための事前学習と復習をする						
授業方法	(1) 講義形式（授業中は板書、視覚教材、講義内容などのノートをとる）。 (2) 視覚教材 (3) ワークシート（グループ活動）						
評価基準と評価方法	小テスト2回（50%）、小レポート（25%）、ワークシート（25%）						
教科書	使用しない。						
参考書	使用しないが、「参考」として授業中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生涯発達心理学A／生涯発達心理学1						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。						
授業の概要	<p>人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では胎児期・乳児期・幼児期・児童期を扱う。</p> <p>個体の発達の変化のイメージを描き、各発達段階における理論と自分自身の経験とをすり合わせることにより、人間発達に関する一層の理解を深めてもらいたい。</p>						
到達目標	生涯発達という視点を持ち、子どもの発達について、各発達段階の特徴を理解できるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達とは、性の分化 2. 発達の一般的傾向 3. 遺伝と環境 4. 発達初期におけるヒトの特殊性 5. アヴェロンの野生児（映画鑑賞） 6. 野生児の記録 小テスト1 7. 発達課題・発達段階（ハヴィガースト） 8. 発達課題・発達段階（エリクソン） 9. 愛着理論と親子関係 10. 愛着行動と測定 小テスト2 11. 知覚の発達 12. 感情の発達 13. 思考の発達 14. 自己概念の発達 小テスト3 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。毎回復習チェックもしくは小テストを3回実施しますので、各回の講義の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト70%，小テスト30%						
教科書	プリント使用。						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生涯発達心理学B／生涯発達心理学2						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。						
授業の概要	<p>人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では青年期以降を扱う。</p> <p>前半では「自分を知る」をテーマとして、自己への問い直し、職業選択、後半では「家族の一員としての自分の位置づけ」をテーマとして、恋愛、結婚などに伴う男女の関係や親子関係、家族の再構成などのさまざまなライフイベントについての将来展望を構築し、生涯発達の視点を理解することを目指す。</p>						
到達目標	生涯発達という視点を持ち、青年期以降の人間の発達について、各発達段階の特徴と現代社会が抱える問題点を理解できるようになります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション～世代を超えた発達の影響 2. 身体の認知 3. 性役割観 4. アイデンティティの形成 ―エリクソンの発達理論 5. パーソナリティの発達・小テスト1 6. パーソナリティの測定 7. 自己の統合 ―現実自己と理想自己 8. ストレスとその対処 9. 前半の補足とまとめ 10. 配偶者選択・小テスト2 11. 子どもを持つという選択 12. 少子化問題の現状 13. 少子化問題から生き方を考える 14. 老親扶養・小テスト3 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。毎回復習チェックもしくは小テストを3回実施しますので、各回の講義の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト70%、小テスト30%						
教科書	プリント使用。						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	食物と健康						
担当教員	原 正之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	食物の摂取、消化、吸収、代謝、しくみの解説と、現代の食物や健康維持に関わる話題（安全に健やかに食べる こと、栄養を摂ること、とは何か？）						
授業の概要	前半では食物の消化と吸収のしくみや、血液による栄養分の循環と老廃物の排泄について解説する。次に、蛋白質、糖質、脂質の代謝とこれに影響を与えるビタミンやホルモンの役割について解説し、さらに体外から取り込んだ薬物や異物の代謝についても触れる。代謝についてのこれらの基礎的な知識をふまえた上で、後半では脳神経系を介した食欲の調節機構、人体の概日リズム（体内時計）、健康食品、食品の安全性についての話題など、いくつかの関心の高いトピックスについて内容を解説する。						
到達目標	健康な食生活や食品の安全性について、氾濫する宣伝に惑わされずに、科学的に正確な情報を求め、考えてみる習慣を身につける。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物の消化と吸収のしくみ 2. 栄養分の循環と老廃物の排泄 3. 蛋白質の代謝 4. 糖質の代謝 5. 脂質の代謝 6. 薬物や異物の代謝 7. ミネラルの代謝 8. ビタミンの役割 9. ホルモンの働き 10. 食欲の調節機構 11. 人体の概日リズム 12. 健康食品について 13. 生活習慣病 14. 飲酒と喫煙 15. 全体のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞などで報道される食糧問題、農業問題、食品安全性、等についての記事に良く目を通して、必要であれば切り抜いておく。						
授業方法	資料等を配付して講義を行う。						
評価基準と評価方法	平常点50%と課題レポート提出50%により、評価する。						
教科書	教科書は特に指定しない。						
参考書	基礎栄養学（第3版、脊山洋右、野口忠、編、スタンダード栄養・食物シリーズ9、東京化学同人 ISBN978-4-8079-1604-7）。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	自然科学史A						
担当教員	古田 雅一						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	自然科学の歴史学習						
授業の概要	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩み、特に科学技術の芽生えが見られる古代文明、古代ギリシャで結実した科学の古典的枠組みの成立と中世における変遷について歴史、世相を踏まえて包括的に論じます。						
到達目標	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩みを紀元前4000年頃の古代ギリシャから近代に至るまで包括的に論じ、先人たちの偉業が現代の我々の生活にどのように関わっているのかについて理解を深めます。またこれらの理解をもとに現在の科学技術に対してよく考え、分かりやすく次世代に伝えていく力を養うことを目標とします。						
授業計画	第1回、オリエンテーション、自然科学史とは何か（講義の概要） 第2回、地球の誕生から生命の誕生へ（化石が示す生物の進化） 第3回、地球環境の変化と生物の進化 第4回、ヒト（ホモサピエンス）の誕生、 第5回、第6回、科学の黎明Ⅰ（先史時代：火の使用、古代メソポタミア、古代エジプト、古代インド） 第7回、第8回、科学の黎明Ⅱ（古代ギリシャ、古代ローマ、古代中国における科学の萌芽） 第9回、中間まとめ 第10回、中世をリードしたイスラム科学（錬金術、数学、物理学、天文学など） 第11回、中世ヨーロッパの科学（キリスト教的世界観の下での科学技術の動向） 第12回、ルネサンス時代の科学（芸術の復活、再生の中で科学技術の推移） 第13回、大航海時代の科学技術 第14回、近代科学の幕開け（近代ヨーロッパの形成と科学技術の推移発展） 第15回、授業の総まとめとレポートの書き方						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：教科書を復習しながら学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。レポート作成等の役に立ちます。参考書を利用してさらに理解を深めてください。疑問が生じたら次の授業で積極的質問しましょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点60%、期末テストまたはレポート40% 欠席した場合は平常点を減点する。						
教科書	池内了 著 「知識ゼロからの科学史入門」 幻冬舎 その他必要に応じてプリント配布						
参考書	木下康彦、木村靖二、吉田寅 編 「詳説 世界史研究」 山川出版社 Ch. シンガー著 伊藤俊太郎、木村陽二郎、平田寛訳 「科学思想のあゆみ」 岩波書店 大自然科学史 新訳；1-4 / フリードリヒ・ダンネマン著；安田徳太郎訳編						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	自然科学史B						
担当教員	古田 雅一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	自然科学の歴史学習						
授業の概要	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩み、特に中世以降の自然科学の発展と変遷について歴史、世相を踏まえて包括的に論じます						
到達目標	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩みを、特に中世以降の科学の飛躍的な発展について論じ、先人たちの偉業が現代の我々の生活にどのように関わっているのかについて理解を深めます。またこれらの理解をもとに現在の科学技術に対してよく考え、分かりやすく次世代に伝えていく力を養うことを目標とします。						
授業計画	第1回、オリエンテーション、自然科学史とは何か(講義の概要) 第2回、花開く近代科学の時代Ⅰ(科学的思考の芽生え、宗教的世界観からの独立) 第3回、花開く近代科学の時代Ⅱ(16～17世紀に活躍した科学者たち：物理、天文学) 第4回、花開く近代科学の時代Ⅲ(16～17世紀に活躍した科学者たち：化学、生物学) 第5回、中国、日本の科学(中世から近世にかけてのアジア地域の科学技術の発展)Ⅰ 第6回、中国、日本の科学(中世から近世にかけてのアジア地域の科学技術の発展)Ⅱ 第7回、中間まとめ 第8回、現代科学の幕開けⅠ(産業革命前夜の歴史、世相と科学技術) 第9回、現代科学の幕開けⅡ(産業革命に伴う資本主義の発展と科学技術) 第10回、20世紀の科学の光と影Ⅰ(20世紀の科学の巨人たち、物理学) 第11回、20世紀の科学の光と影Ⅱ(20世紀の科学の巨人たち、科学、生物学) 第12回、20世紀の科学の光と影Ⅲ(20世紀の戦争と科学技術) 第13回、現代の科学Ⅰ(第二次世界大戦後の科学) 第14回、現代の科学Ⅱ(現代の最先端科学とこれからの科学の方向性は) 第15回、授業の総まとめ、レポートの書き方						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：教科書を復習しながら学んだことをもう一度簡単に整理し、要点をまとめてください。レポート作成等の役に立ちます。参考書を利用してさらに理解を深めてください。疑問が生じたら次の授業で積極的質問しましょう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点60%、期末テストまたはレポート40% 欠席した場合は平常点を減点する。						
教科書	池内了 著 「知識ゼロからの科学史入門」その他 適宜プリントを配付する						
参考書	木下康彦、木村靖二、吉田寅 編 「詳説 世界史研究」 山川出版社 Ch. シンガー著 伊藤俊太郎、木村陽二郎、平田寛訳 「科学思想のあゆみ」 岩波書店 大自然科学史 新訳；5-13 / フリードリヒ・ダンネマン著；安田徳太郎訳編						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活において私たちが遭遇する事象や問題について、心理学的な視点から理解し、その基礎となる人間の心のメカニズムや行動の成り立ちを把握します。						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識です。しかし、心と意識は同じではありません。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところで様々な行動として表れます。それゆえ、心と行動について学ぶ必要があります。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っています。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。 						
授業計画	第1回 心理学とは 第2回 科学としての心理学 第3回 こころの発達 第4回 認知と発達 第5回 心のはたらき 第6回 感覚知覚 第7回 パーソナリティ 第8回 社会と対人の心理 第9回 脳と知能 第10回 ストレスと心の健康 第11回 学習 第12回 発達障害 第13回 動機づけ 第14回 心理と臨床 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義の前に配布されたテキストを読んでおいてください。 (2) 予習のために配布されたテキストを読み予習レポートを提出してください。 						
授業方法	各回の講義は予習テキストを必読し、その内容についてパワーポイントを使用し解説する形を進めます。また、講義テーマのよりよい理解を進めるために、映画や実験、調査場面などのDVD視聴により、日常生活における心理学がどのように応用されているかに関した知見を得ます。						
評価基準と評価方法	ミッドタームテスト+ファイナルテスト（50%）、予習レポート（30%）、毎講義後のふり返り（20%）を総合して評価とします。						
教科書	使用しません（各授業で資料を配布します）。						
参考書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー 山田富美雄（編） 出版社：北大路書房（1997/08） ISBN-10: 4762820857						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活において私たちが遭遇する事象や問題について、心理学的な視点から理解し、その基礎となる人間の心のメカニズムや行動の成り立ちを把握します。						
授業の概要	心とは何か考えるとき、最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識です。しかし、心と意識は同じではありません。意識の及ぶ範囲には限界があり、私たちの心は意識していないところで様々な行動として表れます。それゆえ、心と行動について学ぶ必要があります。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っています。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 (2) 成長と発達過程における心理学との関係について理解する。 (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。 						
授業計画	第1回 心理学とは 第2回 科学としての心理学 第3回 こころの発達 第4回 認知と発達 第5回 心のはたらき 第6回 感覚知覚 第7回 パーソナリティ 第8回 社会と対人の心理 第9回 脳と知能 第10回 ストレスと心の健康 第11回 学習 第12回 発達障害 第13回 動機づけ 第14回 心理と臨床 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講義の前に配布されたテキストを読んでおいてください。 (2) 予習のために配布されたテキストを読み予習レポートを提出してください。 						
授業方法	各回の講義は予習テキストを必読し、その内容についてパワーポイントを使用し解説する形を進めます。また、講義テーマのよりよい理解を進めるために、映画や実験、調査場面などのDVD視聴により、日常生活における心理学がどのように応用されているかに関した知見を得ます。						
評価基準と評価方法	ミッドタームテスト＋ファイナルテスト（50%）、予習レポート（30%）、毎講義後のふり返り（20%）を総合して評価とします。						
教科書	使用しません（各授業で資料を配布します）。						
参考書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー 山田富美雄（編） 出版社：北大路書房（1997/08） ISBN-10: 4762820857						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学概論						
担当教員	中尾 美月						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	こころの基礎						
授業の概要	心理学は「こころ」を研究する科学である。この授業では、知覚心理学、認知心理学、社会心理学、性格心理学、臨床心理学などの様々な研究領域について、その基礎的な内容を幅広く紹介する。さらには健全で幸福な日常生活に役立つ様々な心理学的知見を提供する。						
到達目標	心についての基礎知識が身につく。 人に対するより深い理解と関心が持てるようになる。 よりよく生きるためのヒントが得られる。						
授業計画	第1講 心理学とは 第2講 知覚1 知覚の不思議 第3講 知覚2 色の不思議 第4講 記憶1 自由再生実験からわかること 第5講 記憶2 人はなぜ忘れるのか 第6講 思考1 サバイバルゲーム 第7講 思考2 血液型性格判断 第8講 性格1 質問紙法による自分探し 第9講 性格2 投影法による自分探し 第10講 臨床1 ストレス対処法 第11講 臨床2 うつ予防法 第12講 社会1 自己とアサーション 第13講 社会2 恋愛の心理学 第14講 おわりに 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 出席状況は毎回配付する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	三宅 あつ子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダー論の基礎						
授業の概要	<p>ジェンダーとは、「社会的、文化的な性差」と一般に訳されます。先天的なものではなく、文化的に身につけた、あるいは、作られた性差の概念の事です。この授業では、生物学的性（？）とジェンダーの違い、なぜ、ジェンダーについて学ぶ必要があるのか、ジェンダー概念、ジェンダー研究の成果について勉強します。</p> <p>女性である皆さんが、どうやって自分らしく生きるかということについて、多くの情報を取り入れ、それに基づいて考え、そして意見を交わす授業です。</p> <p>これまでの女性の生き方を正確に知り、現在女性が抱えている問題を身近なところから検証しつつ、皆さん自身の未来へとつなげていきたいと思ひます。</p>						
到達目標	ジェンダー、女性問題について勉強し、どうやって自分らしく生きるかということについて考えられるようになる。						
授業計画	<p>第1回 授業のオリエンテーション（授業の目的、授業の進め方、評価の方法など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考書の紹介 ・アンケート <p>第2回 第1章 女であることの損・得/ 男であることの損・得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セックスとジェンダー <p>第3回 第2章 作られる、＜男らしさ＞＜女らしさ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガの感想 <p>第4回 女性学とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性運動・女性の歴史 <p>第5回 第3章 ジェンダーに敏感な教育のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隠れたカリキュラム <p>第6回 第4章 恋愛の女性学・男性学</p> <p>第7回 第5章 労働とジェンダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接差別と間接差別 <p>第8回 セクシュアル・ハラスメント</p> <p>第9回 第6章 多様な家族</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専業主婦の問題 <p>第10回 夫婦別姓・リプロダクティブ・ライツ</p> <p>第11回 ドメスティック・バイオレンス</p> <p>第12回 第7章 育児はだれのもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアと子供文化 <p>第13回 第8章 国際化の中の女性問題・男性問題</p> <p>第14回 男女共同参画社会</p> <p>第15回 前期授業のまとめとテスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内で発表します。						
授業方法	講義とテキストの問題に対する意見を書いて考える。						
評価基準と評価方法	小レポート（20%）期末テスト（50%）平常点（ビデオの感想を含む）（30%）						
教科書	『女性学・男性学 改訂版 ジェンダー論入門』 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 著 有斐閣アルマ ISBN 978-4-641-12428-8						
参考書	授業中に発表します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と健康						
担当教員	大塚 優子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	健康についての正確な情報、知識の修得						
授業の概要	健やかに生きるということは、全ての人が互いの人権を尊重し、能力を十分に発揮することに他なりません。特に女性は、妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、さまざまな配慮が必要になってきます。本授業では、基本知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康についてライフステージごとにテーマを設定し、さまざまな観点から健康を問い直していきます。						
到達目標	1、健康の真の意味が理解できるようになります。 2、健康は社会的、政治的、経済的状況によっても左右されるということが理解されます。 3、自分の健康について具体的に考えられるようになります。						
授業計画	第1回 女性の健康概念と基本理論①WHO憲章、女性差別撤廃条約、国際人口・開発会議行動計画、世界女性会議行動綱領 第2回 女性の健康概念と基本理論②ジェンダー 第3回 女性の健康概念と基本理論③男女共同参画 第4回 女性の健康概念と基本理論④リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 第5回 生涯を通じた女性の健康①青年期～セクシュアリティ 第6回 生涯を通じた女性の健康②青年期～性被害・性行動 第7回 生涯を通じた女性の健康③青年期～薬物・喫煙・飲酒 第8回 生涯を通じた女性の健康①妊娠・出産期～母子保健 第9回 生涯を通じた女性の健康②妊娠・出産期～不妊 第10回 生涯を通じた女性の健康①育児期～虐待 第11回 生涯を通じた女性の健康②育児期～DV 第12回 生涯を通じた女性の健康③育児期～WLB 第13回 生涯を通じた女性の健康①中年期～介護 第14回 生涯を通じた女性の健康①老年期～男性の生き方 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の最後に、次回の授業内容を事前に告知しますので、教科書を読んでおいてください。目安とする学習時間は30分から1時間です。授業中に内容について質問します。 授業後学習：授業時にレジュメプリントを配布しますので、そのプリントに学んだことを整理しまとめてください。試験のとき大いに役立ちます。授業で扱った内容について課題を出します。課題作成には1時間くらいかかります。課題は次の授業時に提出してください。質問は授業またはメールでしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（1回）50%、提出物（課題など）50%						
教科書	『ジェンダー白書6 女性と健康』北九州市立男女共同参画センター‘ムーブ’編 明石書店 ISBN978-4-7503-2744-0						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と健康						
担当教員	大塚 優子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	健康についての正確な情報、知識の修得						
授業の概要	健やかに生きるということは、全ての人が互いの人権を尊重し、能力を十分に発揮することに他なりません。特に女性は、妊娠・出産という男性と異なる特質を有しているため、さまざまな配慮が必要になってきます。本授業では、基本知識として健康概念を学習し、その理解を前提に、女性の生涯を通じた健康についてライフステージごとにテーマを設定し、さまざまな観点から健康を問い直していきます。						
到達目標	1、健康の真の意味が理解できるようになります。 2、健康は社会的、政治的、経済的状況によっても左右されるということが理解されます。 3、自分の健康について具体的に考えられるようになります。						
授業計画	第1回 女性の健康概念と基本理論①WHO憲章、女性差別撤廃条約、国際人口・開発会議行動計画、世界女性会議行動綱領 第2回 女性の健康概念と基本理論②ジェンダー 第3回 女性の健康概念と基本理論③男女共同参画 第4回 女性の健康概念と基本理論④リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 第5回 生涯を通じた女性の健康①青年期～セクシュアリティ 第6回 生涯を通じた女性の健康②青年期～性被害・性行動 第7回 生涯を通じた女性の健康③青年期～薬物・喫煙・飲酒 第8回 生涯を通じた女性の健康①妊娠・出産期～母子保健 第9回 生涯を通じた女性の健康②妊娠・出産期～不妊 第10回 生涯を通じた女性の健康①育児期～虐待 第11回 生涯を通じた女性の健康②育児期～DV 第12回 生涯を通じた女性の健康③育児期～WLB 第13回 生涯を通じた女性の健康①中年期～介護 第14回 生涯を通じた女性の健康①老年期～男性の生き方 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の最後に、次回の授業内容を事前に告知しますので、教科書を読んでおいてください。目安とする学習時間は30分から1時間です。授業中に内容について質問します。 授業後学習：授業時にレジュメプリントを配布しますので、そのプリントに学んだことを整理しまとめてください。試験のとき大いに役立ちます。授業で扱った内容について課題を出します。課題作成には1時間くらいかかります。課題は次の授業時に提出してください。質問は授業またはメールでしてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（1回）50%、提出物（課題など）50%						
教科書	『ジェンダー白書6 女性と健康』北九州市立男女共同参画センター‘ムーブ’編 明石書店 ISBN978-4-7503-2744-0						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と法						
担当教員	八田 卓也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係を概観する。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的な理解を得ること。						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。但し以下は飽くまで予定であり、内容や順序の変更が有り得る。 第1回 ガイダンス 第2回 人の出生と子どもの平等 第3回 パートナーと暮らす（1） 法律婚 第4回 パートナーと暮らす（2） 事実婚・パートナーシップ 第5回 家族のメンバーチェンジ（1） 離婚まで 第6回 家族のメンバーチェンジ（2） 離婚後 第7回 子どもをもつこと・親をもつこと（1） 法律上の親子関係発生の仕組み 第8回 子どもをもつこと・親をもつこと（2） 嫡出推定制度をめぐる問題 第9回 試験 第10回 人の世話をすること 第11回 人の死と財産の承継（1） 相続 第12回 人の死と財産の承継（2） 遺言 第13回 家族のトラブルを解決するには（1） 裁判 第14回 家族のトラブルを解決するには（2） 裁判外の紛争解決 第15回 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の該当部分と事前配布プリントを読んてくること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	2回の試験（70%）と平常点（30%）により評価する。						
教科書	二宮周平「家族と法」（2007年、岩波新書）						
参考書	窪田充見「家族法」（2013年、有斐閣）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と法						
担当教員	八田 卓也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族をめぐる法律関係						
授業の概要	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係を概観する。						
到達目標	婚姻・離婚・親子関係・相続・遺言等、家族をめぐる法律関係について基本的な理解を得ること。						
授業計画	以下の要領で授業を実施する。但し以下は飽くまで予定であり、内容や順序の変更が有り得る。 第1回 ガイダンス 第2回 人の出生と子どもの平等 第3回 パートナーと暮らす（1） 法律婚 第4回 パートナーと暮らす（2） 事実婚・パートナーシップ 第5回 家族のメンバーチェンジ（1） 離婚まで 第6回 家族のメンバーチェンジ（2） 離婚後 第7回 子どもをもつこと・親をもつこと（1） 法律上の親子関係発生の仕組み 第8回 子どもをもつこと・親をもつこと（2） 嫡出推定制度をめぐる問題 第9回 試験 第10回 人の世話をすること 第11回 人の死と財産の承継（1） 相続 第12回 人の死と財産の承継（2） 遺言 第13回 家族のトラブルを解決するには（1） 裁判 第14回 家族のトラブルを解決するには（2） 裁判外の紛争解決 第15回 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の該当部分と事前配布プリントを読んでくること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	2回の試験（70%）と平常点（30%）により評価する。						
教科書	二宮周平「家族と法」（2007年、岩波新書）						
参考書	窪田充見「家族法」（2013年、有斐閣）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性とメディア／女性論Ⅱ						
担当教員	三宅 あつ子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアなどにおける女性の表象						
授業の概要	この授業は、主にメディア（新聞、ニュース、雑誌、広告など）が女性（そして男性）のイメージをどのように描いてきたか検証し、その裏にはどんな社会構造の問題やジェンダーの固定観念があるのかを探っていく。又、メディア以外にもおとぎ話やアニメや絵画とジェンダーの問題も実際に鑑賞しながら考察する。						
到達目標	さまざまな女性の表象を考察することによって、私たちを取り巻くジェンダーイメージや問題を認識し、自分らしい生き方についての意見を持つ。						
授業計画	<p>第1回 後期授業のオリエンテーション（授業の進め方、評価など）</p> <p>第2回 ことばとジェンダーイメージ ・差別的表現</p> <p>第3回 メディア・リテラシー（1） ・メディアの読み取り方・広告</p> <p>第4回 ファッション雑誌 ・見られる女性</p> <p>第5回 メディア・リテラシー（2） ・ニュースと報道</p> <p>第6回 おとぎ話とジェンダー ・昔話とすりこみ</p> <p>第7回 ディズニー・プリンセス ・『美女と野獣』分析×『シュレック』</p> <p>第8回 まんがとジェンダー ・少女まんがと少年まんが</p> <p>第9回 子供アニメとジェンダー ・ヒーロー・ヒロイン</p> <p>第10回 絵画における女性像 ・偉大な女性画家はいるのか？</p> <p>第11回 母性神話・三歳児神話</p> <p>第12回 母のイメージと幼児虐待</p> <p>第13回 セクシュアリティ・性の多様性 ・男と女という風に二分化ではない</p> <p>第14回 同性愛とメディア ・自分らしい生き方？</p> <p>第15回 後期授業のまとめとテスト</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	あらかじめ見ておく作品、ビデオなどは、期日までに視聴すること。						
授業方法	講義とさまざまなメディアに対する意見を書いて考える。						
評価基準と評価方法	何回かの小レポート（30%）期末テスト（50%）平常点（ビデオの感想を含む）（20%）						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に発表します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	英語圏の児童文学を読む						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の児童文学を中心に、物語や絵本の中に存在する社会規範や作者の主張を読み取り、子どもと大人にとって児童文学の持つ意味を探る。						
到達目標	児童文学の意味を考えることで、ことばと絵の持つ力、想像力の重要性、これらの文学がなぜ時代を超えて読みつがれてきたのかを学び、英語圏の児童文学に関する知識と関心を養う。 また、実際に作品の一部を読んで自分で考えることにより、文章や絵を客観的に分析する力や、洞察力を養う。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学とは 第2回：伝承の文学：英国の昔話『三匹のこぶた』を中心に 第3回：絵本の歴史 第4回：英米の物語絵本 第5回：さまざまな絵本 第6回：幼年文学 『クマのプーさん』 第7回：家庭物語 『秘密の花園』『赤毛のアン』 第8回：学校物語 『スパイになりたいハリエットのいじめ解決法』 第9回：冒険物語Ⅰ 『ツバメ号とアマゾン号』シリーズ 第10回：冒険物語Ⅱ 『クローディアの秘密』 第11回：動物物語 『黒馬物語』 第12回：イギリスのファンタジーⅠ 『床下の小人たち』『思い出のマーニー』 第13回：イギリスのファンタジーⅡ 『ふしぎの国のアリス』 第14回：アメリカのファンタジーⅠ 『ゲド戦記』シリーズ 第15回：アメリカのファンタジーⅡ 近未来物語『ギヴァー』						
授業外における学習（準備学習の内容）	関心を持った作品や関連作品を読んでください。 図書館や文庫、書店などで、児童文学にふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、授業時の最後に提出してもらうミニレポートを含む平常点50%						
教科書	『児童文学12の扉をひらく』三宅興子・多田昌美共著 翰林書房 ISBN4-87737-078-1						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]—物語ジャンルと歴史—』日本イギリス児童文学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	英語圏の児童文学を読む						
授業の概要	長く読みつがれてきた英米の児童文学を中心に、物語や絵本の中に存在する社会規範や作者の主張を読み取り、子どもと大人にとって児童文学の持つ意味を探る。						
到達目標	児童文学の意味を考えることで、ことばと絵の持つ力、想像力の重要性、これらの文学がなぜ時代を超えて読みつがれてきたのかを学び、英語圏の児童文学に関する知識と関心を養う。 また、実際に作品の一部を読んで自分で考えることにより、文章や絵を客観的に分析する力や、洞察力を養う。						
授業計画	第1回：はじめに：児童文学とは 第2回：伝承の文学：英国の昔話『三匹のこぶた』を中心に 第3回：絵本の歴史 第4回：英米の物語絵本 第5回：さまざまな絵本 第6回：幼年文学 『クマのプーさん』 第7回：家庭物語 『秘密の花園』『赤毛のアン』 第8回：学校物語 『スパイになりたいハリエットのいじめ解決法』 第9回：冒険物語Ⅰ 『ツバメ号とアマゾン号』シリーズ 第10回：冒険物語Ⅱ 『クローディアの秘密』 第11回：動物物語 『黒馬物語』 第12回：イギリスのファンタジーⅠ 『床下の小人たち』『思い出のマーニー』 第13回：イギリスのファンタジーⅡ 『ふしぎの国のアリス』 第14回：アメリカのファンタジーⅠ 『ゲド戦記』シリーズ 第15回：アメリカのファンタジーⅡ 近未来物語『ギヴァー』						
授業外における学習（準備学習の内容）	関心を持った作品や関連作品を読んでください。 図書館や文庫、書店などで、児童文学にふれる機会をもってほしい。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	レポート50%、授業時の最後に提出してもらおうミニレポートを含む平常点50%						
教科書	『児童文学12の扉をひらく』三宅興子・多田昌美共著 翰林書房 ISBN4-87737-078-1						
参考書	『英語圏諸国の児童文学I[改訂版]—物語ジャンルと歴史—』日本イギリス児童文学会編 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06320-8						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置 孝一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	パーソナリティに関する諸理論の紹介						
授業の概要	本講義ではヒトを理解するための基本的な枠組みとして、人格（パーソナリティ）に関する研究やその方法論を概括し、自分も含めたヒトについて、様々な角度から理解を深めることを目的とする。						
到達目標	パーソナリティ形成に関わる心理モデルについて理解します。また、各種測定法・実験計画法など心理学の基礎的な知識を学びます。自身で研究計画を立てその解法を導きだせるようになることを期待します。						
授業計画	<p>第1回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第2回目：定義 第3回目：研究史 第4回目：諸理論（1） 第5回目：諸理論（2） 第6回目：パーソナリティと発達（1） 第7回目：パーソナリティと発達（2） 第8回目：パーソナリティと対人関係 第9回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法（1） 第11回目：パーソナリティの測定法（2） 第12回目：実験計画法 第13回目：自分のパーソナリティを考える 第14回目：試験 第15回目：まとめ</p> <p>#進度は適宜調整するため、内容が前後することもあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業用資料をweb上にアップします。授業前にダウンロードしておいてください。URLは http://www.b.kobe-u.ac.jp/~hioki/shoin/ です。パスワードは初回に紹介します。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験のみ						
教科書	なし						
参考書	講義中に紹介						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	数学入門／くらしと数学						
担当教員	津久井 茂樹						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	数字や数学の歴史、身近に使われている数学・数字等を通して、数学を好きになる。						
授業の概要	<p>数学は中学・高校の科目として仕方なくするものと捉えている人や、多くの学問や科学技術の発展に必要な基礎と捉えている人もいるかもしれません。しかし、多くの人間が数学そのものの魅力に引き付けられてきたからこそ発展してきたのが、数学という学問です。</p> <p>数とは何かという根源的な問いから説き起こし、数学は文明の要素であることなど数学に近づいてその素晴らしさを学習し、くらしを数学的に見た時の楽しさを実感することを目標とします。</p> <p>授業では、くらしの中で使われている数学を、広く深く掘り下げて、楽しく学びます。また、受講生の興味のある内容を中心に学ぶとともに、それに関連したSPI問題（非言語）をとりあげ、就職試験に必要な数学の知識を身につけることもできます。</p> <p>就職活動前はもちろん、就職活動後でも楽しめる数学を学びます。</p> <p>高校で数学を履修していなくても大丈夫です。数学が好きになる講義を目指します。</p>						
到達目標	<p>数学（数字）の歴史を理解する。</p> <p>日常生活、就職活動等で必要な数学を使えるようになる。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、アンケート、くらしの中の数学の例</p> <p>第2回：速さと時間、距離の関係</p> <p>第3回：くらしと図形、三角・四角</p> <p>第4回：角度、斜度、</p> <p>第5回：図形の長ささと面積</p> <p>第7回：方程式とグラフ</p> <p>第8回：簡単な微分と積分</p> <p>第9回：場合の数と確率</p> <p>第10回：よくわかる三角関数</p> <p>第11回：不等式とグラフ</p> <p>第12回：生活の中のn進法</p> <p>第13回：簡単な数列、等差数列</p> <p>第14回：等比数列、いろいろな数列</p> <p>第15回：総まとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	身の回りの数学（数字）には何があるかを、生活の中で注意して観察する。						
授業方法	<p>初回のアンケートの内容も授業内容に盛り込みます。</p> <p>興味のある内容を学ぶとともに、就職試験に必要なSPI問題を解きこなします。</p> <p>パワーポイントを使った授業で視覚的な理解を助けるとともに、講義資料を配付して理解度を深めます。</p> <p>毎回小テストを実施します。</p>						
評価基準と評価方法	<p>小テスト(30%)、期末試験(70%)の得点から理解度を評価する。</p> <p>欠席時は、原則事前に連絡してください。理由無く後日提出した小テストの評価を減じます。</p> <p>30分以降の出席は欠席とみなし、遅刻2回で1回の欠席とします。</p> <p>欠席が5回を越えると単位認定から除外します。</p>						
教科書	特に指定しない。						
参考書	<p>特に購入の必要はありませんが、図書館等で参考にしてください。</p> <p>岡部恒治著 『数学はこんなに面白い』 (日本経済新聞社)</p> <p>エハルト・ペーレンツ 『5分でたのしむ数学50話』 (上、下) (岩波書店)</p> <p>桑田孝泰著 『微分積分』 (朝倉書店)</p> <p>小林道正著 『微分積分の基本と仕組み』 (秀和システム)</p>						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生活システムII（流通・マーケティング）						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	大ヒット商品の誕生背景を取り上げながら、商品開発・流通システム・販売促進・価格そしてブランド育成・管理等、マーケティングの基礎的な考え方を学習する						
授業の概要	身の回りにあるモノの中には高品質なモノ、革新的なモノなど、たくさんのモノが登場している。では、これらのモノはどのように誕生したのだろうか。また、どのように魅力ある商品として、売り出されているのだろうか。大手メーカーの製品開発（ブランド開発）の背景には何があったのか、消費者の視点からマーケティングの具体的なケースを取り上げ、理論と組み合わせながらマーケティングの理解を深めることを目的とする。						
到達目標	①基本的なマーケティングの用語を理解し、商品開発の説明できるようになる。 ②商品開発の裏側を読み解き、自らの考えを述べることができる。 ③具体的な事例をもとに商品の違いを自ら説明できるようになる。 ④人とモノの仕組みが理解できる。						
授業計画	第1回 マーケティング志向の経営 第2回 マーケティングの基本的概念 第3回 製品開発のマネジメント 第4回 ブランド・マネジメント 第5回 ブランドの意味と意義—消費者の視点と企業の視点— 第6回 広告活動のマネジメント 第7回 統合型コミュニケーションのマネジメント 第8回 営業のマネジメント 第9回 マーケティング・チャネルのマネジメント 第10回 ロジスティックのマネジメント 第11回 取引と価格のマネジメント 第12回 競争の分析①（ゲストスピーカー） 第13回 競争の分析② 第14回 マーケティングリサーチ 第15回 マーケティングの企画と実践						
授業外における学習（準備学習の内容）	流行のものや話題のものを常に把握しておく。 新聞必読						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	中間テスト（20%）、レポート（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判断する。						
教科書	「1からのマーケティング」、石井淳蔵＋神戸マーケティングテキスト編集委員会著、碩学舎						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	青年期の臨床心理学／臨床心理学研究法V						
担当教員	黒崎 優美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的アプローチによる分析と理解						
授業の概要	<p>目的： 青年期に誰もが直面する発達の課題や、青年期特有の教育問題、社会問題、精神疾患等について、臨床心理学的な観点から分析し、理解や援助のあり方を探ります。</p> <p>概要： 毎回具体的な青年期の課題をテーマとして取り上げ、理論的な側面からだけでなく、臨床的素材や心理療法の実践等についても紹介しながら理解を深めます。</p>						
到達目標	青年期の諸問題について理解を深めるだけでなく、自らもその発達段階にある受講生自身の課題としてテーマに取り組み、成長することを目指します。						
授業計画	<p>第1回 導入 ～生涯発達における青年期～</p> <p>第2回 青年期の心と対人関係 ～「愛すること（家族・友人）」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第3回 青年期の心と対人関係 ～「愛すること（家族・友人）」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第4回 青年期の心と対人関係 ～「愛すること（恋愛・結婚）」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第5回 青年期の心と対人関係 ～「愛すること（恋愛・結婚）」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第6回 青年期の心と対人関係 ～「依存症」への臨床心理学的接近～(1)～</p> <p>第7回 青年期の心と対人関係 ～「依存症」への臨床心理学的接近～(2)～</p> <p>第8回 青年期の心と社会適応 ～「働くこと（就職・就職活動）」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第9回 青年期の心と社会適応 ～「働くこと（就職・就職活動）」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第10回 青年期の心と社会適応 ～「働くこと（就職・就職活動）」への臨床心理学的接近(3)～</p> <p>第11回 青年期の心と社会適応 ～「NEET・ひきこもり」への臨床心理学的接近(1)～</p> <p>第12回 青年期の心と社会適応 ～「NEET・ひきこもり」への臨床心理学的接近(2)～</p> <p>第13回 青年期の心と社会適応 ～「犯罪」への臨床心理学的接近～</p> <p>第14回 青年期の心と社会適応 ～「自殺」への臨床心理学的接近～</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習： 次回のテーマに関する課題を出すことがあります。素材発見カード（授業で扱うテーマに関連する素材を探しコメントを付したものを）を提出してください（提出は任意、随時受け付け）。</p> <p>授業後学習： 授業の内容に関する課題を出すことがあります。また、授業で紹介する参考文献を読みさらに理解を深めて下さい。</p>						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	平常点（授業レポート、課題、素材発見カード）60%、期末試験40%						
教科書	なし。プリントを配布します。						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生物学入門／くらしと科学I／くらしの中の生物学						
担当教員	吉野 健一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	くらしの中のトピックスから生物学を学ぶ						
授業の概要	iPS細胞、BSE、クローン、遺伝子組み換え食品、新型ウイルスなど、ニュースでよく見聞きする言葉だけど「詳しいことはわからない？」という人は多いと思います。このような生物学や医学に関連するくらしの中のトピックスを取り上げ、科学的に解説します。						
到達目標	マスメディアで取り上げられる科学的根拠のない無責任な情報に惑わされることを防ぐための基礎的な生物学の知識を習得し、理解を深める。						
授業計画	第1回：がんという病気で細胞を理解しよう ①がんとは何か 第2回：がんという病気で細胞を理解しよう ②乳がんの特徴 第3回：感染症という病気からウイルスと細菌を理解しよう 第4回：ワクチンから健康を守る免疫を理解しよう 第5回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ①プリオン病とは何か 第6回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ②プリオン病発症のしくみ 第7回：プリオン病からタンパク質を理解しよう ③プリオン病の歴史 第8回：遺伝子と染色体を理解しよう 第9回：いろいろな生き物の生殖法を理解しよう 第10回：ヒトの性決定システムを理解しよう 第11回：性決定システムの多様性を理解しよう 第12回：ヒトの初期発生を理解しよう 第13回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ①遺伝子を組み換えるとはどういうことか 第14回：遺伝子組み換え技術を理解しよう ②遺伝子組み換え技術の有用性と問題点 第15回：クローンとiPS細胞を理解しよう						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画の内容に関係した報道に日頃から関心をもって接してください。 授業後学習：学んだ内容に関係した報道に関心を持ち続け、理解を深める努力を続けてください。						
授業方法	講義。プロジェクターを使って解説します。						
評価基準と評価方法	講義ごとに提出する小レポート（小テスト&ノート形式）60% 期末レポート40%。 単位の取得には9回以上の出席と期末レポートの提出が必須。 講義ごとに提出する小レポートが0点の場合は欠席扱いとします。						
教科書	なし。講義資料としてのプリントを配布します。						
参考書	『これだけはおさえたい生命科学 身近な話題から学ぶ』 武村政春・他著、実教出版 ISBN978-4-407-32166-1 『生物学の基礎知識』 都河明子著、丸善 ISBN978-4-621-07976-8 『初歩からの生物学』 鈴木範男著、三共出版 ISBN978-4-7827-0554-4						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	西洋古典入門IA（ギリシアの神話と文学）						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ギリシアの神話と文学						
授業の概要	古代ギリシア人の驚嘆すべき文化的達成（叙事詩、叙情詩、悲劇、喜劇、歴史叙述、哲学、弁論、彫刻、建築等々）は西洋、ひいては現代世界の学問文化の源流であるとともに、今日もその模範としての意義を失ってはいない。そして彼らの文学も哲学も歴史も美術も、諸民族の神話と比較して格段に豊かで洗練された彼らの神話のインスピレーションから生まれてきた。この授業では万華鏡のようなギリシア神話の世界と、その神話を題材としたギリシア古典文学の特質と魅力について学んでゆく。						
到達目標	①古代ギリシアの神話と文学について基礎的な知識をもつ。 ②神話と神話の文学を学び楽しむための語彙力・読解力を身につける。						
授業計画	第1回 神話(mythos, myth, mythology)とは何か？ ギリシア神話の原典は？ 第2回 ギリシア神話の構造—宇宙の生成、神々、英雄、人間 第3回 ギリシア文学の時代区分、古典期アテナイ—ギリシア文化の黄金期 第4回 王位簞奪神話とオリンポスの神々 第5回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(1)—『イリアス』 第6回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(2)—『オデュッセイア』、小テスト① 第7回 プロメテウス神話とヘシオドスの人間観 第8回 アイスキュロスの『縛られたプロメテウス』 第9回 ギリシア神話の英雄たち—ヘラクレス、不条理を生きる 第10回 ギリシア神話の英雄たち—ペルセウス他、小テスト② 第11回 ギリシア神話と日本の神話 第12回 ギリシア悲劇の最高傑作—ソポクレスの『オイディプス王』 第13回 女の叫び—エウリピデスの『メデア』 第14回 貞淑で賢い女の楽しい話—エウリピデスの『ヘレネー』 第15回 まとめと展望、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって、教科書を読むと共に、図書館で参考文献を借り出して読むこと。						
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価基準と評価方法	授業への参加度30%、小テスト2回30%、期末テスト40%で評価する。						
教科書	『ギリシア神話—神々と英雄に会う』 西村賀子著 中公新書 ISBN4-12-101798-6						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	西洋古典入門IB（ギリシア語）						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	ギリシア語初歩						
授業の概要	ただ単に「ギリシア語を学ぶ」といえば、それは現在のギリシャで話されている「現代ギリシャ語」ではなくて、古代のギリシア語のことである。ふつうこのギリシア語を学ぶのは西洋文化の源泉となった文学・歴史・哲学の古典、さらには新訳聖書などを原語で読んだり、研究したりするためだが、この授業では、受講生がギリシア語とはどんな言語かを知り、西洋古典文化や、英語やドイツ語など印欧語系の言語そのものへの興味関心を高めることを目的として、ごく簡単な文法を学び、簡単な文章を訳読する。						
到達目標	ギリシア文字を発音し、名詞と動詞の初歩的な変化形を識別し、その範囲での簡単なギリシア語の文章を理解できるようにすること。						
授業計画	第1回：古典ギリシア語について、ギリシア語のアルファベット、音韻の分類 第2回：発音（二重母音、注意すべき子音、氣息記号） 第3回：発音（音節とアクセント） 第4回：動詞の変化(1)―直説法能動相現在人称変化 第5回：第一変化名詞(1) 第6回：動詞の変化(2)―直説法能動相未来人称変化 第7回：第一変化名詞(2) 第8回：動詞の変化(3)―直説法能動相未完了過去人称変化 第9回：第二変化名詞 第10回：第一第二変化形容詞 第11回：前置詞 第12回：動詞の変化(4)―直説法能動相アオリスト人称変化 第13回：簡単なギリシア語の文章を読む 第14回：簡単なギリシア語の文章を読む 第15回：簡単なギリシア語の文章を読む						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の復習、宿題の練習問題						
授業方法	教科書に沿って文法事項を学び、練習問題を解いてゆく						
評価基準と評価方法	授業への参加度や学習態度、課題の達成度を総合して平常点で評価する。						
教科書	田中美知太郎、松平千秋『ギリシア語入門』（岩波全書）ISBN4-00-020125-5						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の歴史／西洋史I						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史概説。						
授業の概要	ヨーロッパの20世紀の歴史を概観するとともに、時事問題についての解説を行い、現代社会の動向に目を向ける。受講生に現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 19世紀のヨーロッパ 2. 帝国主義 3. 時事問題（1） 4. 第1次世界大戦 5. ロシア革命 6. 時事問題（2） 7. ヴェルサイユ体制の成立 8. 戦後復興と協調外交 9. 世界恐慌の影響 10. 時事問題（3） 11. 第2次世界大戦 12. 冷戦体制 13. 時事問題 14. 冷戦の終結と現代世界 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の時の世界史の教科書を見直すとともに、日々のニュースに関心を持つこと。						
授業方法	講義形式。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の歴史／西洋史I						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ヨーロッパ近現代史概説。						
授業の概要	ヨーロッパの20世紀の歴史を概観するとともに、時事問題についての解説を行い、現代社会の動向に目を向ける。受講生に現代について関心を持たせることを目的とする。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。						
到達目標	20世紀の歴史を学習することによって現代世界の諸問題の理解を深める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 19世紀のヨーロッパ 2. 帝国主義 3. 時事問題（1） 4. 第1次世界大戦 5. ロシア革命 6. 時事問題（2） 7. ヴェルサイユ体制の成立 8. 戦後復興と協調外交 9. 世界恐慌の影響 10. 時事問題（3） 11. 第2次世界大戦 12. 冷戦体制 13. 時事問題 14. 冷戦の終結と現代世界 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の時の世界史の教科書を見直すとともに、日々のニュースに関心を持つこと。						
授業方法	講義形式。						
評価基準と評価方法	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。						
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がドキドキしたり、胃が痛くなったりすることは、心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体どこにも存在しないのだろうか。この授業では、心と身体の関係について、古典的ともいえる知見から、最新の脳科学研究の成果に至るまで、数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに、心のありかについて自らの意見をまとめることで、人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。						
到達目標	心と身体の関係について基礎的な知識が習得できる。 ものごとを科学的に理解し考える力が身につく。						
授業計画	第1講 生理心理学とは 第2講 脳 ～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第3講 知覚1 ～青い食べ物でダイエット？～ 第4講 知覚2 ～なぜアヒル口に惹かれるのか～ 第5講 記憶1 ～記憶の亡霊～ 第6講 記憶2 ～千と千尋の神隠し～ 第7講 記憶3 ～脳トレで頭が良くなる？～ 第8講 発達1 ～赤ちゃんはワンダーランド～ 第9講 発達2 ～絆～ 第10講 感情 ～泣くから悲しい？～ 第11講 恋愛 ～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講 ストレス ～癒しはどこにある？～ 第13講 人間らしさ ～脳の中のもうひとりの私～ 第14講 ココロとカラダ ～心はどこにある？～ 第15講 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 出席状況は毎回配付する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品の一部を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くは、よく言及される割に、読まれてはいないもので、作品を知るだけでも教養になります。前期は恋愛をテーマに多彩な作品を取り上げます。						
到達目標	いくつかの文学作品について古典とみなされる理由、さらに文学作品について語る場合の要点を理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、プラトンにおける愛 2. 純愛：ロンゴス『ダフニスとクロエ』、レスボス島 3. 家庭教師と教え子：アペラールとエロイーズの往復書簡 4. 尽くす：カサノヴァ『回想録』 5. 愛の種類：カサノヴァとドン・ファンとサドとマゾッホ 6. 征服：ダ・ポンテ『ドン・ジョヴァンニ』 7. 屈服：マゾッホ『毛皮を着たヴィーナス』 8. 横恋慕：ゲーテ『若きヴェルターの悩み』 9. 不倫：フローベール『ボヴァリー夫人』 10. 娼薬：ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』 11. 同性：トーマス・マン『ヴェニスに死す』 12. 姉弟：コクトー『恐るべき子供たち』 13. 少女：ナボコフ『ロリータ』 14. ロリータとの逃避行とその果て 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	最終授業までにシラバスに挙げた作品のいずれかを読んで、その印象と授業の内容とを比較考察してください。参考図書のうちいずれか一冊に目を通せば、よい予習・復習となるでしょう。						
授業方法	講義、講義内容から考えさせられたことをほぼ毎回書いてもらう。						
評価基準と評価方法	感想（10回程度）60%、試験40% 各作品ごとに、何を考えたかを短く書いてもらう。それを元に、授業から何かを学び得たかどうかを評価基準に平常点を付ける。試験に代えてレポートを提出してもよい。レポート課題は授業期間の終盤に提示する。						
教科書	文学作品の抜粋を配布する。						
参考書	<p>ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653 ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165 トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399</p>						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学入門						
授業の概要	よく引き合いに出される古典的文学作品の一部を紹介し、それらの作品がいかなる意味で今なお注目に値するかを解説します。科目としての「国語」と「文学」の違い、あるいは文学についてどう語ればよいかを理解してもらいます。古典的文学作品の多くは、よく言及される割に、読まれてはいないもので、作品を知るだけでも教養になります。後期は女性をテーマに多彩な作品を取り上げます。						
到達目標	いくつかの文学作品について古典とみなされる理由、さらに文学作品について語る場合の要点を理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、女性の立場の変遷 2. 賢い教え子：アペラールとエロイーズの往復書簡 3. 友の許嫁：ゲーテ『若きヴェルテルの悩み』 4. 謎めいた少女：ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』 5. 孤児1：フロンテ『ジェイン・エア』 6. 身を持ち崩す人妻：フローベール『ボヴァリー夫人』 7. 女神：マゾッホ『毛皮を着たヴィーナス』 8. 未亡人：ズットナー『武器を捨てよ！』 9. 悪女：ワイルド『サロメ』 10. 妖婦：ヴェーデキント『地霊』、『パンドラの箱』 11. 孤児2：ウェブスター『あしながおじさん』 12. 淑女の作り方：ショー『ビッグマリオン』 13. モダンガール：コイン『人工シルクの女の子』 14. 未熟な少女：ナボコフ『ロリータ』 15. まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	最終授業までにシラバスに挙げた作品のいずれかを読んで、その印象と授業の内容とを比較考察してください。参考図書のいずれか一冊に目を通せば、よい予習・復習となるでしょう。						
授業方法	講義、講義内容から考えさせられたことをほぼ毎回書いてもらう。						
評価基準と評価方法	感想（10回程度）60%、試験40% 各作品ごとに、何を考えたかを短く書いてもらう。それを元に、授業から何かを学び得たかどうかを評価基準に平常点を付ける。試験に代えてレポートを提出してもよい。レポート課題は授業期間の終盤に提示する。						
教科書	文学作品の抜粋を配布する。						
参考書	<p>ヘンリー・ヒッチングズ 著『世界文学を読めば何が変わる？』みすず書房、ISBN978-4622075653</p> <p>ピエール・バイヤール 著『読んでいない本について堂々と語る方法』筑摩書房、ISBN978-4480837165</p> <p>トーマス・C・フォスター 著『大学教授のように小説を読む方法』白水社、ISBN978-4560080399</p>						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	地域研究I						
担当教員	渡辺 直土						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代東アジア地域と日本						
授業の概要	中国や台湾、韓国など東アジア社会の現状を歴史的視点も含めて考察する。アジアとは何か、どのように見るべきかという問題について、各国を比較分析することを通して理解を深めることを目的とする。また、メディア・リテラシーとの関連で、国内外の新聞や雑誌記事を用いて、時事問題に関する理解も深めていく。あわせて、レポートや定期試験の準備に必要な情報検索法についても適宜言及する。						
到達目標	現代東アジア地域の実情を理解し、日本とのかかわりを考察するための視点を獲得する。新聞の国際面の記事について、一定程度の理解ができるようにする。これらの作業を通して、社会人になるために必要な最低限の知識や視点を身につける。						
授業計画	<p>第1回 現代東アジアと日本 東アジアの現状と日本との関係について概観する。</p> <p>第2回 近代の中国 清末から中華人民共和国成立までの歴史を概観する。</p> <p>第3回 中国（1） 1950年代の中国について概観する。</p> <p>第4回 中国（2） 1960年代から1970年代の中国について概観する。</p> <p>第5回 中国（3） 改革開放初期の中国について考察する。</p> <p>第6回 中国（4） 天安門事件以後の中国について考察する。</p> <p>第7回 中国（5） 21世紀の中国の現状について考察する。</p> <p>第8回 台湾（1） 台湾近現代史を概観する。</p> <p>第9回 台湾（2） 戦後台湾の発展の過程を分析する。</p> <p>第10回 香港 植民地期の香港の歴史と、中国への返還をめぐる過程について概観する。</p> <p>第11回 韓国 戦後韓国の発展過程を分析する。</p> <p>第12回 シンガポール シンガポールの建国以降の経緯と現状について考察する。</p> <p>第13回 地域統合 APECやASEANなど地域機構を概観し、東アジア共同体の可能性について考察する。</p> <p>第14回 現代東アジアと日本 東アジア政治の現状と日本の関わりについて考察する。</p> <p>第15回 定期試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	まずは現状を知るため、日頃から東アジア地域について関心を持つよう心がけ、各種の新聞や雑誌記事に積極的に目を通されることを期待する。						
授業方法	講義および質問用紙の配布により授業中に適宜質疑応答を行う。						
評価基準と評価方法	定期試験（80%）、小レポート（20%）および平常点						
教科書	田中仁ほか著『新図説中国近現代史』（2012年 法律文化社） 西村成雄、小此木政夫編『現代東アジアの政治と社会』（放送大学教材、ISBN:978-4-595-31203-8）						
参考書	毛里和子著『現代中国政治（第3版）』（2012年 名古屋大学出版会） 岩崎育夫著『アジア政治とは何か』（2009年 中公叢書）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	地球環境と人間						
担当教員	田中 良晴						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	環境問題と人間						
授業の概要	地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、病原性微生物・ウイルスなど、人類のみならず、生物全体が生存の危機に曝されています。それらを理解し考えるための基礎事項（化学、生物学、物理学、地学）についてまず講義し、個別の大きな環境問題、過去と現在の環境問題と取り組みを基に、今後の環境と生命の行く末、人間のなすべきことなどについて考察します。						
到達目標	講義のみならず質疑応答を取り入れ、それを講義に反映させることにより、環境問題に関する広い分野の基礎知識習得の他、書籍・マスコミ・インターネットの莫大な情報を俯瞰でき、偏りのない多面的な見方・考え方が身につけられるようになることを目指します。						
授業計画	第1回 環境科学のための化学（オリエンテーション、環境問題概要も） 第2回 環境科学のための生物学－原子・分子を中心に 第3回 環境科学のための生物学－自然システムを中心に 第4回 環境科学のための地学・物理学 第5回 個別の問題－温暖化 第6回 個別の問題－酸性雨 第7回 個別の問題－オゾンホール 第8回 個別の問題－バイオテクノロジー等 第9回 個別の問題－環境ホルモン、中間試験 第10回 個別の問題－電磁波（放射線以外、紫外線、マイクロ波等） 第11回 個別の問題－放射線と環境、放射線科学の基礎、放射線や放射性物質の種類、単位、有用性と有害性 第12回 個別の問題－放射線と生物特に人間とのかかわり、チェルノブイリ・福島原発事故、核兵器 第13回 人間の病気と環境 第14回 まとめ－東洋思想と環境問題、理想的な社会・地球はありうるのか？ 第15回 質疑・討論と筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：各授業項目の前までに、関連事項に関する書籍・新聞等を読んで下さい。 授業後学習：予習したことや講義内容をレポート用紙にまとめる癖をつけてください。それにより理解力が深まり、多面的な見方・考え方や批評精神も養えるはずです。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト・中間テスト30点、平常点30点、筆記試験40点						
教科書	特に指定無し。						
参考書	授業時に提示します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法Ⅱ」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法Ⅱ」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法Ⅱ」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法Ⅱ」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション能力は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュース読みなどを体験しながら「自己紹介」「自分の専門分野」「私の宝物」「人生の目的」「私の運命・偶然・選択」など将来の自分について発表します。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。						
授業の概要	発音・発声の基礎から、人前で話す経験を積み、社会人としてのコミュニケーション能力を養う。						
到達目標	人前で自分の考えをきちんと伝え、相手の意見を十分に聴くコミュニケーション能力をつけます。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④自己紹介に挑戦① ⑤自己紹介に挑戦② ⑥自分の専門分野をプレゼンする ⑦私の宝物 ⑧敬語の使い方 ⑨感動した話 ⑩人生の目的 ⑪電話での対応と接遇 ⑫私の人生を「運命・偶然・選択」で語る ⑬就職の面接に備える ⑭話し方が上達するノウハウ ⑮私の幸せ論 						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	人前で声を出し、滑舌を磨き、わかりやすい日本語の表現を習得します。また人の意見を聞き、態度や表情から自分の考えを的確に伝える訓練をします。						
評価基準と評価方法	授業中に声を出させて、わかりやすい日本語表現を磨きます。それに発表に機会を作り、きちんと人前で伝わる話し方を訓練します。出席は重視します。私語は退席してもらいます。比率は出席60%、発表30%、授業態度10%です。						
教科書	「日本語表現法Ⅱ」佐藤誠著（北樹出版）						
参考書	なし						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	哲学入門						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	「哲学」とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対する全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか。そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに取り組み、解答を得ようとするのが「哲学」です。この授業では、西洋の主要な哲学者の思想を取り上げ、解説します。						
授業の概要	西洋の古代から近代までのな哲学者の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想内容を、配布する資料を使いながら、できるだけ簡明にしていきます。						
到達目標	哲学を学ぶことは、人名や著作名を記憶することではありません。哲学は、生きていく中ですべての人が直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点から洞察にすることに寄与する学問です。さまざまな問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まって、論理的・反省的にその問題の意味を深く考え、どのようにその問題を捉えて、対応すればよいのかことを考える態度と方法を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？—「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり—古代ギリシアと哲学 03 世界の始源を求めて—ミレトス派の人々 04 アキレスと亀—エレア派の思想 05 哲学と弁論術—「ソフィスト」の登場 06 「よく生きる」ために—ソクラテスの問い 07 理想の国家とは？—プラトンの理想国家 08 「万学の祖」—アリストテレス 09 幸福とは何か？—エピクロスの快樂論 10 大陸合理論の哲学—デカルトの企て 11 イギリス経験論の哲学—経験と知識 12 カントの倫理思想—義務論と経験論 13 カントの批判哲学—知ることができることと知ることができないこと 14 「善悪の彼岸」—ニーチェの道徳批判 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	哲学書の原典を自分だけで読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識を基にして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関わる書物を手にとって、哲学の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。毎回必ずテキストを持参してください。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	哲学入門						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	「哲学」とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対する全体的かつ根源的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか。そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか？このような問いに取り組み、解答を得ようとするのが「哲学」です。この授業では、西洋の主要な哲学者の思想を取り上げ、解説します。						
授業の概要	西洋の古代から近代までのな哲学者の思想を年代順に取り上げ、彼らの問題意識と思想内容を、配布する資料を使いながら、できるだけ簡明にしていきます。						
到達目標	哲学を学ぶことは、人名や著作名を記憶することではありません。哲学は、生きていく中ですべての人が直面するさまざまな問題に対して、より根本的な視点から洞察にすることに寄与する学問です。さまざまな問題に対して、ただ習慣的に対応するのではなく、立ち止まって、論理的・反省的にその問題の意味を深く考え、どのようにその問題を捉えて、対応すればよいのかことを考える態度と方法を身につけることを目指します。						
授業計画	01 「哲学」とは何か？—「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり—古代ギリシアと哲学 03 世界の始源を求めて—ミレトス派の人々 04 アキレスと亀—エレア派の思想 05 哲学と弁論術—「ソフィスト」の登場 06 「よく生きる」ために—ソクラテスの問い 07 理想の国家とは？—プラトンの理想国家 08 「万学の祖」—アリストテレス 09 幸福とは何か？—エピクロスの快樂論 10 大陸合理論の哲学—デカルトの企て 11 イギリス経験論の哲学—経験と知識 12 カントの倫理思想—義務論と経験論 13 カントの批判哲学—知ることができることと知ることができないこと 14 「善悪の彼岸」—ニーチェの道徳批判 15 まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	哲学書の原典を自分だけで読みこなすことは困難ですが、授業で得た知識を基にして、授業で解説した思想家の著作や哲学に関わる書物を手にとって、哲学の理解を深めることを求めます。						
授業方法	講義形式でおこないます。毎回必ずテキストを持参してください。						
評価基準と評価方法	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。						
教科書	伊藤邦武『物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために』（中央公論新社、2012）						
参考書	『哲学の歴史』全13巻（中央公論新社、2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートという議論の方法を習熟する。 主張するだけでなく、議論を噛み合わせていくために、 いかに相手の主張に耳を傾けるか、その重要性を認識する。						
授業の概要	「人間は皆同じだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じると、人は動揺しその対立を避けようとし、 その場合、意見の対立は異常事態として捉えられます。 「人間は皆異なるものだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じて、それは当然のことであり、 その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。 ディベートは、対立する二極の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者が 判断するスタイルのコミュニケーションです。 ディベート演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけて、 説得力のアップを図ります。						
到達目標	議論に際し、相手の主張することを正確に理解し、 自分の主張することをわかりやすく伝える。 データを収集分析し、データを活用した具体的な主張ができるようになる。 就職活動における入社試験や採用試験でも取り上げられるテーマについて理解を深める。						
授業計画	①ディベートの全体像 ディベートの必要性とデメリット、ディベートのルール ②ディベートの実際 ディベートの流れを筆記しポイントを把握する ③立論・尋問・反駁 論理構築の手法を学ぶ、論題に取り組む ④肯定側立論演習 立論原稿を作成しプレゼンテーション演習を実施 ⑤論理の構造 論理の演繹法・帰納法的展開 ⑥論理力を鍛える 接続詞につよくなる、作文法 ⑦ディベート実践1 ディベート準備・グループワーク ⑧ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑨ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑩ディベート1 日本人のコミュニケーションの特徴、なぜ議論はかみあわないのか ⑪ディベート2 ディベート演習（その1） ⑫ディベート3 ディベート演習（その2） ⑬サッカーディベート1 論理力を鍛えるには・ディベート準備 ⑭サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑮サッカーディベートⅢ サッカーディベート演習（その2）・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	ディベートでは有効な資料の収集も重要なポイントです。 授業外でディベートの資料の集めていただくこと、 その資料を使いながら立論を作成していただくことが大切になります。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 演習評価【40%】、 提出物評価【30%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	福田 洋子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	1. 他者の意見・主張を聞くことができる 2. 自分の意見を持ち論理的に他者に伝えることができる 3. 他者を説得することができる 上記に必要な理論とスキルを「試合」を実践することで学ぶ。						
授業の概要	高度情報化、グローバル化の進んだ社会での他者とのコミュニケーション能力を身につけるために、主としてグループワークを活用し、①他者の考え・意見を聞く②自分の考え・意見を発表する③論理的な思考過程、また、主張には根拠（データなど）が必要なことを理解する。④論駁、尋問についての理論を理解しスキルを身につける。⑤試合を経験することで、判定の方法や、試合の審判が可能となるようにできるだけ多くの試合を実施する。⑥理解度を判定するために小論文でのレポートを作成し提出する。						
到達目標	1) 生産的な議論の必要性を理解する 2) 論理的な思考をベースに、傾聴スキル、プレゼンテーションスキルを身につける 3) 論題に関する深い知見を得る 4) 最適な「意思決定」ができる						
授業計画	1. オリエンテーション、アイスブレイキング 2. 自己分析、自己理解と他者理解、自己肯定と他者承認 3. コミュニケーションスキルについて 4. プレゼンテーションについて 5. 具体的なプレゼンテーションスキル 6. ディベートとは 7. ディベートから期待できる効果 8. 「論題」を考える 9. マイクロディベート、サッカーディベート、なりきりインタビュー、など 10. 立論作成（論理の構築） 11. 尋問と反駁 12. 判定の基準 13. 論第決定（試合の準備） 14. 試合（全員参加） 15. 判定と総評：まとめ、課題発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	○生活のなかで、問題点や課題を発見するように心がける ○人前で発言するように心がける ○常に相手に伝わる話し方を心がける ○意見を述べるときは、必ず理由やその根拠をしめることを心がける ○映画やドラマの裁判シーンを研究する（英国作品を推奨する）						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	○筆記試験は実施しない 授業態度（欠席、遅刻などは減点する）などの平常点：30% 提出物評価：30%（2,000字程度の課題レポートを提出し、論理の構築、展開、一貫性を見る） 演習評価：40%（ジャッジやコメントなど） の総合評価とする。						
教科書	「あなたが変わる コミュニケーション演習」、福田洋子、みるめ書房 ISBN 978-4-901324-31-1 C 1037 ¥800.- を使用します。ただし、担当教員が授業中に指示し準備します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジネス活動には主張に説得力が必要です。 その「説得力」と「客観的な判断力」を高めることが授業のテーマです。						
授業の概要	事実の真偽、主張の確からしさを検証するためには、説得力を競うことが欠かせません。それは日常生活においても同じです。対立する事態を客観的に捉え、それぞれの立場からオープンに議論することは、現実の問題点や課題を検証するためには有意義です。我々の生活になぜディベートが必要なのか、を究明していきます。演習を繰り返すことで、社会人としての必須の「わかりやすく自分の考えを述べ、相手の話を真剣に聞き取り、粘り強く議論できる」能力を養うことができます。習得したコミュニケーションスキルは、就職活動・ビジネス・思考・自己表現の根幹となります。						
到達目標	よりレベルの高い「説得力」を身につける。 「客観的な判断力」を高める。 「具体的な議論」の組み立てを学ぶ。						
授業計画	①模擬ディベート演習 テーマに沿って、主張してみる ②ディベート概説・立論の作成 立論・尋問・反駁のポイント、問題点を明確に主張する ③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける ④ディベート実践1 審査の方法・ショートディベート準備 ⑤ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑥ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑦ディベート1 現代のわれわれが受け入れている行動哲学・思想は何か、を考える ⑧ディベート2 ディベート演習（その1） ⑨ディベート3 ディベート演習（その2） ⑩サッカーディベート1 感情的説得・功利的説得・論理的説得とは何か ⑪サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑫サッカーディベート3 サッカーディベート演習（その2） ⑬ロングディベート1 ロングディベート演習（その1） ⑭ロングディベート2 ロングディベート演習（その2） ⑮ロングディベート3 ロングディベート演習（その3）、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	ディベートを実施する土台となる資料は、授業外で収集します。 その資料を活用し、授業でディベート立論の論理構築を作成ください。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】 演習評価【40%】 提出物評価【30%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日仏比較文化A						
担当教員	川口 陽子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	日仏の文化比較を通しての異文化理解						
授業の概要	フランスの文化やフランス人のものの見方について色々な角度から接近し、理解を深めていきます。同時に、日本の文化や日本人のものの見方に関して調査し、フランスの場合と比較してもらいます。その中で日本を改めて見直す機会も持たれることを希望します。また、フランスの最新ニュースも紹介し、それを通して現代社会が抱える問題についても考察していきます。						
到達目標	比較を通して、フランスと日本、両国の文化に関する理解を同時に深めることができます。また、「日仏の文化はどこが似ているのか？異なっているのか？」を明確にまとめることに加えて、「なぜ、両国の文化はこのような似ているのか？異なっているのか？」を考えるという作業を通して、論理的に自分の考えをまとめ、発表することができるようになります。						
授業計画	第1回 はじめに：アンケート 第2回 フランスの地理 第3回 日本の地理 第4回 フランスの歴史1 古代～近世 第5回 日本の歴史1 古代～近世 第6回 フランスの歴史2 近代～現代 第7回 日本の歴史2 近世～現代 第8回 両国の歴史を比較する 第9回 フランスの祝日 第10回 日本の祝日 第11回 フランスにおけるカップルのありかた 第12回 日本におけるカップルのありかた 第13回 フランスで働く外国人労働者 第14回 日本で働く外国人労働者 第15回 多文化共生社会について考える						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日本についてデータ収集をしてきてください。授業中に発表してもらいます。 授業後学習：各テーマごとに、特に興味を抱いた内容に関して、さらに調査して続けてください。それをまとめて、レポートとして提出してもらいます。その作業を通じて論理的思考力を養っていきます。						
授業方法	講義と演習を交互に行います。						
評価基準と評価方法	授業内評価50%（小レポート30%、授業中発表20%）、学期末レポート50%						
教科書	必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	必要に応じて配布プリントに記載します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日仏比較文化B						
担当教員	川口 陽子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	日仏の文化比較を通しての異文化理解						
授業の概要	日仏比較文化Aから引き続いて、フランスと日本の比較を通して、日仏両文化の理解を同時に深めていきます。履修者は各自、日仏比較に関わるテーマを一つ選び、授業中に発表し、最後にレポートとしてまとめることを目指します。発表者以外の出席者も全員、コメントを必ず求められますので、しっかりと発表を聞いて、自分の考えを言葉で表現して下さい。発表と並行して、日本から見たフランス、フランスから見た日本、および両国の現代社会が抱える問題についての考察も行います。						
到達目標	比較を通して、フランスと日本、両国の文化に関する理解を同時に深めることができます。また、「日仏の文化はどこが似ているのか？異なっているのか？」を明確にまとめることに加えて、「なぜ、両国の文化はこのように似ているのか？異なっているのか？」を考えるとという作業を通して、論理的に自分の考えをまとめていくことができるようになります。さらに、他の人々の発表に対してコメントする、発表者はそれに対して答えることで、より自分の考えを深め、言葉で表現できるようにもなります。						
授業計画	第1回 はじめに：発表日程決定とグループ発表準備 第2回 グループ発表：日本の雑誌に見るパリ 第3回 日本で紹介されるパリ、フランス 第4回 フランスの学校制度 第5回 日仏の学校制度を比較する 第6回 発表＋討論（1） 第7回 発表＋討論（2） 第8回 発表＋討論（3） 第9回 発表＋討論（4） 第10回 発表＋討論（5） 第11回 発表＋討論（6） 第12回 発表＋討論（7） 第13回 発表＋討論（8） 第14回 日仏の働き方・休み方 第15回 フランスから見た日本						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：発表に備えて、日仏両方のデータを収集し、まとめてきてください。 授業後学習：発表に対するコメントに答えながら、両文化の比較をさらに進めてください。それをまとめて、学期末レポートとして提出してもらいます。その作業を通じて論理的思考力も養っていきます。						
授業方法	演習を中心に、講義の時間も取りながら進めます。						
評価基準と評価方法	授業内評価50%（授業中発表25%、小レポート等25%）、学期末レポート50%						
教科書	必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	必要に応じて配布プリントに記載します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡田 裕子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる文章」の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目標とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。 ・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方（1） 第3回 メールの書き方（2） 第4回 メールの書き方（3） 第5回 達成度確認テスト1 第6回 ささまざまな文章表現（1） 第7回 ささまざまな文章表現（2） 第8回 ささまざまな文章表現（3） 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティングの基本（1） 第11回 アカデミック・ライティングの基本（2） 第12回 アカデミック・ライティングの基本（3） 第13回 アカデミック・ライティングの基本（4） 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいてください。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているのかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけてください。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト（3回）50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡田 裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる文章」の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目標とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。 ・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方（1） 第3回 メールの書き方（2） 第4回 メールの書き方（3） 第5回 達成度確認テスト1 第6回 ささまざまな文章表現（1） 第7回 ささまざまな文章表現（2） 第8回 ささまざまな文章表現（3） 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティングの基本（1） 第11回 アカデミック・ライティングの基本（2） 第12回 アカデミック・ライティングの基本（3） 第13回 アカデミック・ライティングの基本（4） 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいてください。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているのかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけてください。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト（3回）50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、共同作業で実際に文章を作成します。</p> <p>また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。 ・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方(1) 第3回 メールの書き方(2) 第4回 メールの書き方(3) 第5回 達成度確認テスト1 第6回 さまざまな文章表現(1) 第7回 さまざまな文章表現(2) 第8回 さまざまな文章表現(3) 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティングの基礎(1) 第11回 アカデミック・ライティングの基礎(2) 第12回 アカデミック・ライティングの基礎(3) 第13回 アカデミック・ライティングの基礎(4) 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業後：授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト3回50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、共同作業で実際に文章を作成します。</p> <p>また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。 ・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方(1) 第3回 メールの書き方(2) 第4回 メールの書き方(3) 第5回 達成度確認テスト1 第6回 さまざまな文章表現(1) 第7回 さまざまな文章表現(2) 第8回 さまざまな文章表現(3) 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティングの基礎(1) 第11回 アカデミック・ライティングの基礎(2) 第12回 アカデミック・ライティングの基礎(3) 第13回 アカデミック・ライティングの基礎(4) 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業後：授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。 後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト3回50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、共同作業で実際に文章を作成します。</p> <p>また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。 ・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。 						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 メールの書き方(1) 第3回 メールの書き方(2) 第4回 メールの書き方(3) 第5回 達成度確認テスト1 第6回 さまざまな文章表現(1) 第7回 さまざまな文章表現(2) 第8回 さまざまな文章表現(3) 第9回 達成度確認テスト2 第10回 アカデミック・ライティングの基礎(1) 第11回 アカデミック・ライティングの基礎(2) 第12回 アカデミック・ライティングの基礎(3) 第13回 アカデミック・ライティングの基礎(4) 第14回 達成度確認テスト3 第15回 まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 授業後：授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。 後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト3回50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	伝わる文章の実践練習						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、共同作業で実際に文章を作成します。</p> <p>また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになります。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣が身につきます。 ・レポートを書くために必要な基礎力が身につきます。 						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 メールの書き方(1)</p> <p>第3回 メールの書き方(2)</p> <p>第4回 メールの書き方(3)</p> <p>第5回 達成度確認テスト1</p> <p>第6回 さまざまな文章表現(1)</p> <p>第7回 さまざまな文章表現(2)</p> <p>第8回 さまざまな文章表現(3)</p> <p>第9回 達成度確認テスト2</p> <p>第10回 アカデミック・ライティングの基礎(1)</p> <p>第11回 アカデミック・ライティングの基礎(2)</p> <p>第12回 アカデミック・ライティングの基礎(3)</p> <p>第13回 アカデミック・ライティングの基礎(4)</p> <p>第14回 達成度確認テスト3</p> <p>第15回 まとめと講評</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。</p> <p>授業後：授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。</p>						
授業方法	<p>前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。</p> <p>後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。</p>						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト3回50%						
教科書							
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる文章」の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。 ・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。 						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト1 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト2 第10回：アカデミック・ライティングの基本(1) 第11回：アカデミック・ライティングの基本(2) 第12回：アカデミック・ライティングの基本(3) 第13回：アカデミック・ライティングの基本(4) 第14回：達成度確認テスト3 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「伝わる文章」の実践練習						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に対しても失礼にならないメールを書けるようになる。 ・身近な文章や自分自身の文章に対して関心を抱き、考えながら読んだり書いたりする習慣を身につける。 ・レポートを書くために必要な基礎力を身につける。 						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト1 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト2 第10回：アカデミック・ライティングの基本(1) 第11回：アカデミック・ライティングの基本(2) 第12回：アカデミック・ライティングの基本(3) 第13回：アカデミック・ライティングの基本(4) 第14回：達成度確認テスト3 第15回：まとめと講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	<前学習> 読みにくい文章がなぜ読みにくいのか考えたり、文章の伝わりにくさが原因で実際に起こった問題を記憶に留めておいて下さい。 <後学習> 授業で扱ったテーマの文章が、現実にどのように使われているかを観察し、また機会があれば日常のなかで常に実践するように心がけて下さい。						
授業方法	前半では、グループまたはペアで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。後半のアカデミック・ライティングに関しては、個人での作業が中心になります。						
評価基準と評価方法	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の歴史／日本史I						
担当教員	塩原 佳典						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	「日本史」の教科書はいかに書き換えられてきたか						
授業の概要	この授業では、日本の歴史を学びます。けれども、高校で行われている「日本史」の授業とは全く異なります。つまり、教科書に書かれている事件や年号を「列挙」し、「暗記」することはしません。この授業で注目するのは、むしろ、教科書の「書き換え」です。日本史の教科書はこれまで、いかに／なぜ、書き換えられてきたのか。こうした着眼点により、歴史を書く側の視点から教科書を読み直すとともに、日本の歴史についての理解を深めることがねらいです。						
到達目標	1. 日本史の知識を再整理する。 2. 日本史の教科書がどのような知識や仕組みにもとづいて書かれているのかを理解する。 3. みずから主体的に歴史を学ぶ姿勢を身につける。						
授業計画	第1回：現在と過去の「対話」としての歴史 第2回：邪馬台国はどこにあったのか 第3回：聖徳太子は存在したか 第4回：鎌倉幕府の成立は1192（イイクニ）年か 第5回：モンゴル来襲で「神風」は吹いたか 第6回：「一休さん」の素顔 第7回：戦国武将たちにまつわる「疑惑」 第8回：「慶安の御触書」は出されたか 第9回：「生類憐れみの令」は悪法か 第10回：江戸幕府は国を閉じたのか 第11回：ペリーはなぜ日本に来航したのか 第12回：消された「四民平等」という言葉 第13回：日清・日露戦争をめぐる評価 第14回：終戦記念日は8月15日か 第15回：高度経済成長と地域社会						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマに応じて文献や映像資料（大河ドラマなど）を紹介し、各自の関心に応じて入手し、理解を深めてください。その際、レポートのテーマを自分なりに意識しながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	毎回のリアクションペーパー（30%）、期末レポート（70%）。						
教科書	特に用いない。トピックと参考文献をまとめたプリントを毎回配布します。						
参考書	特に用いない。各回のテーマに応じて参考文献を紹介し、						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本史A						
担当教員	塩原 佳典						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の日本史－教育を歴史の目から問い直す－						
授業の概要	教育とは、人間形成の過程のなかで、誰もががかわりをもつ営みです。それだけに、身近で「あたりまえ」のことのように感じられるかもしれませんが、しかし、少し立ち止まってみると、教育にはたくさんの「不思議」が積みまっています。たとえば「学年」。海外には、9月から新しい学年をスタートさせる国が少なくありません。それではなぜ、日本の「学年」は、4月から始まるのでしょうか。この授業では、教育をめぐる「あたりまえ」を規定している歴史的な構造や前提について、歴史の目から省察し、それを組み替える可能性を探ってみたいと思います。						
到達目標	1. 教育（人間形成）の歴史について理解を深める。 2. 市民・親・教員などとして誰もががかわることになる「教育」について、歴史的な視点から省察することの意義を理解する。						
授業計画	第1回：教育を歴史の目から問い直すことの意味 第2回：「学ぶ」とはどのような経験か－ヘレンケラーの経験から－ 第3回：古代・中世の「学校」と「教育」 第4回：江戸の「勉強ブーム」 第5回：サムライたちの受験－武士教育と藩校－ 第6回：近代公教育制度の導入－異物としての西洋近代－ 第7回：文部大臣・森有礼の人と思想－啓蒙思想と教育勅語のあいだ－ 第8回：地域社会と近代学校－学校教育の受容と反発－ 第9回：「立身出世」への道－学歴社会の歴史的構造－ 第10回：教育における「画一」と「自由」－沢柳政太郎の教育改革－ 第11回：「大正自由教育」の諸実践 第12回：生活綴方運動の展開と転生 第13回：「戦ふ少国民」－戦時下の教育体制－ 第14回：戦後教育改革の射程－「平等化」と非「画一化」を求めて－ 第15回：「昔はよかった」は本当か？						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマに応じて文献や映像資料を紹介します。各自の関心に応じて入手し、理解を深めてください。その際、レポートのテーマを自分なりに意識しながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	毎回のリアクションペーパー（30%）、期末テスト（70%）。						
教科書	特に用いない。トピックと参考文献をまとめたプリントを毎回配布します。						
参考書	特に用いない。各回のテーマに応じて参考文献を紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本史B						
担当教員	塩原 佳典						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域社会からみた明治維新						
授業の概要	明治とは、日本が国民国家としての歩みを始めた時代であり、私たちが今なお生きている「近代社会」の基点といえます。この授業では、明治維新の具体像について学ぶことをとおして、私たちが現在よって立っている「足場」を見直したいと思います。その際にまず、明治という時代の特質について、映像資料を参照しつつ理解します（第3～6回）。そのうえで、地域社会に眠る古文書・古記録に実際に目を通すことで、当時を生きた人びとの日常に迫ります（第7～14回）。これにより、地域社会の側から明治維新という時代状況を捉え返すことがねらいです。						
到達目標	1. 明治維新が地域の人びとの生活にもたらした変容について理解する。 2. 私たちが足場を置く「近代社会」について批判的に思考するちからを身につける。						
授業計画	第1回：日本史研究への招待－歴史を学ぶことの醍醐味－ 第2回：「19世紀」という歴史の把握方法 第3回：教育改革－ゆとりと学力のあいだ－ 第4回：西洋技術の導入－翻訳のちから－ 第5回：税制改革－「所有」をめぐる攻防－ 第6回：議会制度－多様な「くにかたち」－ 第7回：地域住民は維新変革にどう反応したか 第8回：地域秩序の流動化・変容と維新変革 第9回：地域社会に学校がつくられていく過程 第10回：地域の重層的な教育要求と就学 第11回：地域に叢生する活字メディア 第12回：ブームとしての地方博覧会 第13回：学校・新聞・博覧会の「メディア・ミックス」とそのほころび 第14回：維新変革後の地域社会－「天保人民」をめぐる世代対立－ 第15回：授業のふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマに応じて文献や映像資料を紹介します。各自の関心に応じて入手し、理解を深めてください。その際、レポートのテーマを自分なりに意識しながら、学習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	毎回のリアクションペーパー（30%）、期末レポート（70%）。						
教科書	特に用いない。トピックと参考文献をまとめたプリントを毎回配布します。						
参考書	特に用いない。各回のテーマに応じて参考文献を紹介します。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の文学						
担当教員	石原 のり子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>平安貴族の見た〈夢〉</p> <p>睡眠中に見る夢のメカニズムについては、今日、神経生理学的にある程度説明されているにも関わらず、私たちは今なお夢に対して、ロマンティシズムやセンチメンタリズムを有していると言えるだろう。今日のような科学的解釈がなかった時代、人々は夢をどのように捉えていたのだろうか。和歌、日記、物語等の文学作品を通して、平安時代の人々が夢を如何に捉えていたのかを考えていく。</p>						
授業の概要	和歌、女流日記文学、男性貴族の日記、物語を材にとり、〈夢〉をキーワードに平安時代の文学に触れる。						
到達目標	取り上げる作品の内容を知るだけにとどまらず、平安時代の文化や社会についても学習する。						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：恋しい人を夢に見る—和歌に見える夢—</p> <p>第3回：夢かうつつか—『伊勢物語』—</p> <p>第4回：男性貴族の見た夢—『小右記』・『御堂関白記』・『権記』—</p> <p>第5回：夢解きを間違うと…—『大鏡』—</p> <p>第6回：説話に見える夢—『古事談』—</p> <p>第7回：叶わなかった夢—『蜻蛉日記』—</p> <p>第8回：源氏の夢—『源氏物語』①—</p> <p>第9回：映像に見る平安時代</p> <p>第10回：柏木の夢—『源氏物語』②—</p> <p>第11回：浮舟の夢—『源氏物語』③—</p> <p>第12回：夢のお告げ—『夜の寝覚』—</p> <p>第13回：文学少女の見た夢①—『更級日記』①—</p> <p>第14回：文学少女の見た夢②—『更級日記』②—</p> <p>第15回：まとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	今回の授業では、特に〈夢〉をテーマとして各作品を読むため、扱いきれない部分が多く出てくる。しかし、授業内容理解のためには、物語の概要を知っておくことが不可欠であるため、授業毎に、その回に取り扱う内容の予習、復習、物語の概要の自習が求められる。						
授業方法	講義形式で行う。						
評価基準と評価方法	平常点（感想・意見カードを毎回提出してもらい、授業の理解度と参加度をはかる）30％ 試験70％						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の文学						
担当教員	藤原 美佳						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	仮名文字で読む平安文学						
授業の概要	1000年も前に成立した平安時代の文学作品は、どのように書かれ、また後世へと伝えられていったのか。現代の私たちは、古典作品も活字で読むが、活字の無い時代の人々は、仮名文字で読んでいた。この授業では、文字表記の違いが、どのように作品の味わい方の違いを生むのか、具体的に平安前期の文学作品の代表的な場面を例に取り上げ、活字と仮名文字の両方で読んでいく。						
到達目標	文学史の流れ（文字表記の歴史・散文文学の歴史など）を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 口承から書承へ—『古事記』・『万葉集』 第3回 女性に仮託された日記—『土佐日記』① 第4回 仮名文字で味わう『土佐日記』—『土佐日記』② 第5回 原典への態度—『土佐日記』③ 第6回 好色男の恋—『伊勢物語』① 第7回 仮名文字で味わう『伊勢物語』—『伊勢物語』② 第8回 平安時代の人を読んだ『伊勢物語』—『伊勢物語』③ 第9回 好色男の消極的な恋—『平中物語』① 第10回 孤本が抱える問題点—『平中物語』② 第11回 待つ女—『蜻蛉日記』① 第12回 古写本が無いことの問題点—『蜻蛉日記』② 第13回 長編大作への書写活動—『源氏物語』① 第14回 本文と書入—『源氏物語』② 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	前回の授業で配布された資料を読んで、内容を理解しておく。 また、授業中に紹介された参考文献などを中心に、授業に関わる文献を読み、さらに理解を深める。						
授業方法	講義形式で行う						
評価基準と評価方法	平常点（感想カードによる）30%、期末試験70%						
教科書	授業時にプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文化を学ぶA／日本文化特殊講義A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受						
授業の概要	<p>平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な多くの作品を生み出した。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人集』や『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』や『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに制作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>それらの美術・工芸品について、理解しやすいように、複製を示したり、パソコンやDVDの画像をプロジェクターで示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解する。						
授業計画	第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説 第2回 屏風歌と屏風絵 第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など） 第4回 『西本願寺本三十六人集』 第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第6回 古筆切と手鑑 第7回 冷泉家の至宝 第8回 国宝『源氏物語絵巻』 第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など） 第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第11回 『平家納経』などの装飾経 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など） 第14回 古典文学をモチーフとした調度や衣装 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	『カラー版 王朝文学選』岡野通夫・小山利彦監・奈古忠國編（おうふう）978-4-273-02212-9 プリントを併用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文化を学ぶB／日本文化特殊講義B						
担当教員	大坪 亮介						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	お伽草子を読む。						
授業の概要	お伽草子は、主として室町時代に広く楽しまれた物語類をいう。本授業ではそのうち、平安時代の学者である紀長谷雄と鬼の対決を描く『長谷雄草子』と、男に裏切られて大蛇となった女の話『道成寺縁起』を読む。また、鬼と人造人間、鬼と人間心理との関わりといった角度から考察を行い、鬼の諸相を探っていく。						
到達目標	古来より日本人に恐れられると同時に親しまれてもきた鬼という存在について、理解を深める。						
授業計画	第1回 鬼の歴史 第2回 中世文学の鬼 第3回 絵巻とお伽草子 第4回 『長谷雄草子』を読む (1) 鬼と長谷雄の対決 第5回 『長谷雄草子』を読む (2) 鬼の残した美女 第6回 『長谷雄草子』を読む (3) 消えた美女 第7回 『長谷雄草子』を読む (4) 美女の正体 第8回 鬼と人造人間 第9回 寺社縁起とお伽草子 第10回 『道成寺縁起』を読む (1) 僧と女の出会い 第11回 『道成寺縁起』を読む (2) 大蛇となった女 第12回 『道成寺縁起』を読む (3) 僧の最期 第13回 『道成寺縁起』を読む (4) 二人の真の姿 第14回 鬼と人間の心理 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	本授業で取り上げる作品は事前に必ず読んでおくこと。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	①平常点50% ②期末試験50%						
教科書	プリント配布。						
参考書	授業中適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文化を学ぶC／日本文化特殊講義C						
担当教員	恵阪 友紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学における旅						
授業の概要	交通手段の発達した現代では、旅行は手軽な娯楽の一つである。しかし、昔の人にとっては、さまざまな制限があったり、危険がつきまとうものであったりと、決して自由に楽しめるものではなかった。そのような状況で、古代・中世の人々は、どのように旅をし、なぜ旅に出たのか。旅とは何であったのか、いつから娯楽として楽しまれたのか。本講義では、古典文学に描かれた旅を読み解くことで、古代から近世までの旅について考えたい。						
到達目標	古典文学に描かれた古代から近世における旅の様相を理解する。						
授業計画	第1回 神話に描かれた旅 —ヤマトタケルの旅— 第2回 万葉時代の旅 第3回 左遷の旅路 —菅原道真太宰府への旅— 第4回 男性の旅 —『伊勢物語』の「東下り」— 第5回 男性が描く女性の旅 —『土佐日記』の船旅— 第6回 女性の旅 —『更級日記』の旅— 第7回 王朝人の寺社参詣の旅 —初瀬詣— 第8回 僧侶の旅 —西行の旅— 第9回 追われる旅 —平家の都落ちと『平家物語』— 第10回 鎌倉への旅 —『東関紀行』と中世の紀行文— 第11回 室町時代の旅 —能に見る僧の旅— 第12回 俳諧紀行 —芭蕉と『奥の細道』— 第13回 浄瑠璃・歌舞伎における道行文 第14回 伊勢参りの流行と『東海道中膝栗毛』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：配布するプリントを読んでおく 授業後学習：プリントの文章が読解できるよう復習し、要点をまとめておく。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（70%）、課題（30%）						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文化を学ぶD／日本文化特殊講義D						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本芸能史入門・歌舞伎						
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である歌舞伎について考える。異常な行動をすることを戦国末期には「かぶく（傾く）」といい、熱病のように流行した。社会の混乱の中でこうした異常な行動を取る「かぶきもの」が増えていったが、やがてその精神だけが芸能として残った。それが「かぶき」である。現代にも続くこの芸能について、入門者用にその概略を考えてみたい。						
到達目標	日本文化の代表の一つである歌舞伎の基礎と概要を学ぶ。						
授業計画	第1回 歌舞伎入門 第2回 歌舞伎の歴史1 成立から元禄歌舞伎まで 第3回 歌舞伎の歴史2 江戸歌舞伎の流行から明治まで 第4回 歌舞伎役者1 歴史と役柄 第5回 歌舞伎役者2 身分と生活 第6回 歌舞伎の観客 第7回 歌舞伎の劇場 第8回 歌舞伎のドラマ1 戯曲 第9回 歌舞伎のドラマ2 種類 第10回 歌舞伎の演出1 音楽と舞踊 第11回 歌舞伎の演出2 大道具・小道具 第12回 歌舞伎の作品1 歌舞伎18番 第13回 歌舞伎の作品2 義太夫狂言 第14回 歌舞伎の作品3 舞踊劇 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文学史A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の「うた」の歴史 韻文学入門						
授業の概要	日本文学の歴史を、日本歴史の流れに位置づけながら学ぶ。「うた」の系譜に属する文学を中心に学ぶ。文字を持たなかった日本人は、中国語の文字を使って何とか日本語を残そうとした。そうまでして残したかった日本語が「うた」であった。「うた」は、五七調のリズムにのせた日本語の美しい響きと、叙情的な日本人の心情を伝えてきた。万葉集から古今・新古今の和歌に受け継がれた「うた」は、やがて連歌の世界を切り開き、俳諧の世界へ連なってゆく。五七五のわずか十七文字で世界を表現する短詩系の究極の形にいたるまでの歴史を学ぶ。						
到達目標	日本文学の歴史の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 日本語の歴史 第2回 万葉の歌1 第3回 万葉の歌2 第4回 王朝の歌『古今集』 第5回 王朝の歌『三代集』 第6回 王朝の歌『新古今集』 第7回 和歌の流れ 八代集とその後 第8回 はやりうたの世界(今様など) 第9回 堂上連歌と地下の連歌 第10回 連歌『水無瀬三吟』 第11回 俳諧の連歌 第12回 新たな俳諧 松永貞徳と西山宗因 第13回 松尾芭蕉 第14回 狂歌・川柳・はやり歌など 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んで自分で学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	『日本古典読本』秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男著 筑摩書房 ISBN: 448091708X						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解することを目指す						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の散文 導入 第4回 明治期の散文 応用 第5回 明治期の韻文 第6回 大正期の散文 導入 第7回 大正期の散文 応用 第8回 大正期の韻文 第9回 昭和期の散文 導入 第10回 昭和期の散文 応用 第11回 昭和期の韻文 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	『近代文学年表』双文社出版 ISBN:4-88164-031-3						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	人間関係論						
担当教員	福井 齊						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活や人間関係の中にある心理学的知見						
授業の概要	私たちの日常生活や人間関係の中には、心理学のエッセンスや考え方が数多く存在しています。そうした日常にあふれる心理学的知見のいくつかを体験学習などを取り入れて学んでいくことが本講義の目的です。人間の心の面白さや奥深さ、あるいは矛盾を社会心理学的観点から解説していきます。						
到達目標	日常の生活や人間関係を、社会心理学的に考える視点を身につけること						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション：人間関係論とは ② 自分探しの心理学 ③ 自己概念 ④ 自己呈示と自己開示 ⑤ 対人関係（Ⅰ）：対人関係の形成と発展 ⑥ 対人関係（Ⅱ）：対人関係の崩壊 ⑦ 対人関係（Ⅲ）：恋愛 ⑧ 対人関係（Ⅳ）：パーソナリティの魅力 ⑨ 対人関係とストレス（Ⅰ）：ストレスとその対処 ⑩ 対人関係とストレス（Ⅱ）：バーンアウト ⑪ 対人関係とストレス（Ⅲ）自己防衛 ⑫ リーダーシップ ⑬ 社会的アイデンティティ理論 ⑭ 人間関係論の総合的理解 ⑮ 試験と解説 						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回、講義終了時に次回講義のキーワードや参考図書を指示します （参考図書を熟読することが望ましい）						
授業方法	講義（毎回、レジュメを配布します）						
評価基準と評価方法	<p>期末試験と授業への取り組み姿勢（出席、授業態度、ミニレポート）、確認テスト（抜き打ち形式）で総合的に評価します</p> <p><評価の目安：期末試験6割、授業への取り組み姿勢3割、確認テスト1割></p>						
教科書	なし						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	人の認知の特徴やしぐみについて理解する。						
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して、外界を、他者を、そして自分自身を認知している。 この授業では、認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって、「こころ」の不思議さを実感し、 人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。						
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり、 対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。 さらには「認知が変われば人生が変わる」をキーワードに、よりよく生きるためのヒントが得られる。						
授業計画	第1講 認知心理学とは 第2講 知覚1 知覚の不思議 第3講 知覚2 光と色の心理学 第4講 知覚3 三次元の世界 第5講 記憶1 自由再生の実験からわかること 第6講 記憶2 感覚記憶と短期記憶 第7講 記憶3 長期記憶 第8講 推論と思考 サバイバルゲーム 第9講 心の病と認知1 ストレスと認知 第10講 心の病と認知2 うつと認知 第11講 心の病と認知3 認知療法 第12講 社会的認知1 自己認知とアサーション 第13講 社会的認知2 他者認知 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。						
授業方法	講義形式で行うが、適宜、体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。						
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし、欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 出席状況は毎回配付する感想カードで確認する。なお、感想カードに書いた内容は評価に影響しない。						
教科書	テキストは使用しない。毎週、資料を配付する。						
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる。 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べることができる。 3) 神戸のファッション文化を説明することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神および神戸のライフスタイル 5. 阪神間に生きた建築家とその作品 6. 阪神間の食文化 7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち 9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家） 10. 神戸の環境とは 11. ホテル文化のさきがけ 12. 神戸の飲料水 13. 神戸のファッション 14. 神戸と化粧品 15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	比較文化IA						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちににとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 19世紀西欧文化 3 西欧文化と日本文化 4 序論・歴史状況 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 5 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 6 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 7 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 8 欧米と日本5（日本） 9 総論・文芸の全体 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 10 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 11 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 12 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 13 欧米と日本5（日本） 14 まとめ 15 学習の展望 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	比較文化IB						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちににとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究ガイダンス 2 各論・個別の芸術家や作品 3 欧米と日本1（フランス） 4 欧米と日本2（ベルギー） 5 欧米と日本3（ドイツ） 6 欧米と日本4（オーストリア） 7 欧米と日本5（イギリス） 8 欧米と日本6（アメリカ） 9 欧米と日本7（スペイン） 10 欧米と日本8（イタリア） 11 欧米と日本9（日本） 12 世紀末文化・芸術の射程 13 比較文化の成果と意義 14 研究の展望 15 総合 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	比較文化IIA						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 授業概要と成績評価基準の説明 2回 『北京バイオリン』の背景（現代中国の巨大な社会格差）解説 3回 『北京バイオリン』鑑賞 4回 『北京バイオリン』鑑賞後の解説、感想文記入 5回 『グッバイ、レーニン』の背景（1989年の東欧革命と1990年のドイツ統一）解説 6回 『グッバイ、レーニン』鑑賞後の解説、感想文記入 7回 『女はみんな生きている』の背景（現代フランスの移民問題、あるいはマグレブ差別）解説 8回 『女はみんな生きている』鑑賞後の解説、感想文記入 9回 『逆噴射家族』の背景（1980年代の日本の家族形態の変化、または家族の絆の危機）解説 10回 『逆噴射家族』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『ウォール街』の背景（1980年代のアメリカの金融資本主義醸成と拝金主義）解説 12回 『ウォール街』鑑賞 13回 『ウォール街』鑑賞後の解説、感想文記入 14回 『不適切な真実』の背景（現代世界を脅かす地球温暖化）解説 15回 『不適切な真実』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	比較文化IIB						
担当教員	柿沼 申明						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 『Always 三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 2回 『Always 三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 3回 『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 4回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 5回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 6回 『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 7回 『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 8回 『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 9回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞 10回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 12回 『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 13回 『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 14回 『遠い夜明け』鑑賞 15回 『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	被服整理学						
担当教員	花田 美和子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の洗浄と管理について学ぶ。						
授業の概要	被服整理学とは、被服の管理に関する学問である。取り扱う内容は、日常の被服の手入れや季節ごとの保管から最終的な廃棄にまで及ぶ。本講義では、被服整理の中心となる洗濯について科学的な視点から解説し、さらに柔軟剤やアイロンによる仕上げや虫害による損傷を防ぐための適切な保管方法についても解説する。						
到達目標	被服の洗浄理論を説明することができる。 素材に応じた適切な管理方法を選択することができる。 洗濯や管理によって生じたトラブルの原因を考察することができる。						
授業計画	第1回：衣服の汚れ 第2回：洗濯用水と衣料用洗剤 第3回：洗剤の成分と洗浄作用（1）界面活性剤の性質 第4回：洗剤の成分と洗浄作用（2）界面活性剤の種類 第5回：洗剤の成分と洗浄作用（3）配合剤の種類と洗浄作用 第6回：洗濯機 第7回：家庭洗濯 第8回：洗浄力・機械作用の試験法と評価 第9回：漂白剤と増白 第10回：しみ抜き 第11回：糊つけと仕上げ 第12回：衣服の保管 第13回：商業洗濯、取扱い絵表示 第14回：衣服の廃棄とリサイクル 第15回：まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、試験（40－60％）						
教科書	『被服整理学』 社団法人日本衣料管理協会刊行委員会編 社団法人日本衣料管理士						
参考書	『洗剤と洗浄の科学』 中西茂子著 コロナ社 978-4339076837						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	被服繊維学						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	被服の材料である繊維について学ぶ。						
授業の概要	私達が着用している被服は、どのような繊維から作られているのだろうか。本講義では、綿や羊毛などの天然繊維の生産工程、化学繊維の原料や開発の歴史に触れながら、被服材料である繊維の種類と性質について学ぶ。また、さまざまな機能の付与した新しい繊維についても解説するとともに、生活環境と繊維との関わりについて考察する。						
到達目標	被服を構成する繊維の種類と性質を説明することができる。 自分の被服の繊維素材を調べ、着用目的に照らし合わせて問題点を列挙することができる。 着用目的に合った繊維素材を選択することができる。						
授業計画	第1回：被服の材料、繊維について 第2回：天然繊維 植物繊維①綿 第3回：天然繊維 植物繊維②麻、他 第4回：天然繊維 動物繊維①絹 第5回：天然繊維 動物繊維②羊毛、獣毛 第6回：化学繊維 化学繊維とは何か 第7回：化学繊維 再生繊維、半合成繊維①レーヨン・キュブラ・アセテート 第8回：化学繊維 合成繊維①ナイロン、アクリル 第9回：化学繊維 合成繊維②ポリエステル 第10回：化学繊維 合成繊維③ビニロン、ポリウレタン、他 第11回：化学繊維 無機繊維①ガラス、炭素、金属繊維 第12回：新しい繊維の開発 ①感性と繊維 第13回：新しい繊維の開発 ②高機能繊維 第14回：生活環境と繊維 第15回：まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：テキストの該当箇所を読んでおくこと。 授業後学習：自分自身の衣生活と授業内容を関連付けながら復習すること。						
授業方法	講義、VTR						
評価基準と評価方法	平常点（40－60％）、レポート（40－60％） 出席を重視する。						
教科書	『衣服材料の科学』島崎恒蔵 編著 建帛社、ISBN 9784767910499						
参考書	『新稿 被服材料学－概説と実験』中島利誠 編著、光生館 ISBN 4332100476 『生活のための被服材料学』日下部信幸 著、家政教育社、ISBN 9784760602773						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術史A						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教西欧を中心に、写真誕生までの美術の歴史を「近代化」、「世俗化」という視点から概観する。						
授業の概要	主としてキリスト教西欧の、写真誕生までの美術をあつかう。ルネサンス期以降緩やかに進行してゆく「世俗化」の動きを、美術の変容をたどることで考察する。美術作品を通じ、その作品の背景となった時代や文化の特徴や、作者の抱いていた思想や思惑、他の作品との関連など、様々な要素を読み解くことに親しむ。						
到達目標	「世俗化」へと向かう美術の大きな流れを概観する。一つひとつの美術作品に、その作品が属する時代、社会、文化、思想が深く関わっていることを理解する。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 キリスト教以前—古代ギリシャ、ローマの美術について— 第3回 古代ギリシャvs古代ローマ 第4回 キリスト教誕生—教会と美術— 第5回 ロマネスクvsゴシック 第6回 人間中心主義へ 第7回 中世vsルネサンス 第8回 宗教改革と美術 第9回 カトリックvsプロテスタント 第10回 市民階級と美術 第11回 宗教画vs世俗画 第12回 市民革命と美術 第13回 王侯貴族vs市民 第14回 産業革命と美術 第15回 まとめと展望（写真誕生までの美術の大きな流れを確認する）						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることを。また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることを。授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術史B						
担当教員	上久保 真理						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近代から現代にいたる美術の変容とその多様化を、社会的、思想的背景と関連づけてとらえる。						
授業の概要	写真誕生以降の美術が、その存在意義を求めて多様化してゆく過程を概観する。「美術」や「作品」という概念そのものも、様々な解釈により常に揺れ動いてきた。今日の、そして今後のさらに多様化するであろう美術を自分たちなりに読み解き、評価しようとする姿勢を養う。						
到達目標	近代から現代までの美術の変容をたどることで、美術の変化がわたしたちの感性や価値観の変化を反映していることを理解する。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 写真誕生 第3回 写真vs絵画 第4回 絵画の葛藤 1－印象主義の試み－ 第5回 新印象主義vs後期印象主義 第6回 絵画の葛藤 2－哲学を味方に－ 第7回 キュビズムvs未来派 第8回 世界大戦と美術－ダダの目指したこと－ 第9回 夢と現実－シュールレアリズムの政治性－ 第10回 デザインのカーロシア・アヴァンギャルドとバウハウスの活動－ 第11回 アヴァンギャルドvs写実表現 第12回 幾何学的抽象vs非幾何学的抽象 第13回 大衆と人気－ポップ・アートという戦略－ 第14回 集積する「物」－大量消費社会とネオ・ダダ－ 第15回 多様化する美術－本当に「何でもあり」なのか？－						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることを。また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることを。授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術実技／美術実技A						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	素描の制作実技						
授業の概要	作品を実際に制作することで、創ることの意味を考え、表現することの楽しみを体験し、美術の理解を深めることを目的としている。この授業では、美術表現の骨格である素描の制作をする。						
到達目標	事物のあるがままの姿をとらえ、それを平面上に表現するためには、どのような工夫が必要であるか。またそのためにはどのような描画材料が適当であるか。素描の多様性を知ると同時に、対象のとらえ方、「みる」ことの多義性を知る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 画材を知る：鉛筆でのウォミングアップ 第3回 模写：名画に学ぶ 第4回 描法1：ハッチング 第5回 観察と表現（1）形とスケール 第6回 観察と表現（2）面にとらえる 第7回 観察と表現（3）明暗とタッチ 第8回 構図と遠近法 第9回 描法2：ぼかし/合評 第10回 植物（1）線とリズム 第11回 植物（2）淡彩 第12回 画材と描法 第13回 クロッキー 第14回 「わたし」の表現 第15回 合評						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常生活のなにげない時間の合間にでも何かスケッチをして下さい。ものの特徴を捉えることや素描上達に役立ちます。						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題作品70%との総合評価。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術入門／（制作の視点からみた美術）						
担当教員	宮地 佳代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拡げ、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけたい。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画（1）形態と機能 第4回 日本画（2）表現 第5回 遠近法（1）西洋と日本 第6回 遠近法（2）変貌する遠近法 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画（1）版画の特性 第11回 版画（2）凸版／孔版 第12回 版画（3）凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から美術作品（美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想などをメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術入門／（制作の視点からみた美術）						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	制作の「視点」からみた美術						
授業の概要	美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拓け、美術への理解、関心を深めることを目的としている。 この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品をとりあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。						
到達目標	作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけたい。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 油彩画 第3回 日本画（1）形態と機能 第4回 日本画（2）表現 第5回 遠近法（1）西洋と日本 第6回 遠近法（2）変貌する遠近法 第7回 フレスコ画 第8回 テンペラ画 第9回 時間の表現 第10回 版画（1）版画の特性 第11回 版画（2）凸版／孔版 第12回 版画（3）凹版／平版 第13回 彫塑 第14回 素描 第15回 多様化する表現						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から美術作品（美術館やギャラリー、街中に設置されている作品等）をみて多くの作品と出会い、気にとまった作品の作家や感想などをメモする習慣をつけましょう。授業理解やレポートを書く際に役立ちます。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業内で紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	フランス文学II／世界の文学IVB（フランス文学）						
担当教員	打田 素之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	フランス心理小説の研究						
授業の概要	フランス心理小説の代表的作品『危険な関係』を取り上げる。物語の舞台は18世紀後半のフランス。社交界きってのプレイボーイ、ヴァルモン子爵は、若く美しいトゥールヴェル夫人に恋をします。しかし、夫人のかたくな拒否。果たして、彼は恋を成就することができるのか。革命直前の貴族社会における男と女の微妙な恋愛心理を、現代の視点から捉えています。						
到達目標	感情の問題として処理されがちな恋愛心理を「論理的」に読み解く技術を身につける。						
授業計画	第1回 『危険な関係』の紹介 授業は以下の場面を読み進めながら、登場人物の心理に詳細な分析を加える。 第2回 「高潔の聖女、トゥールヴェル夫人の魅力」 第3回 「社交界の貴公子、ヴァルモン子爵」 第4回 「ヴァルモン、メルトウイユ夫人と策略をめぐる」 第5回 「純真の美少女セシル」 第6回 「セシルの恋」 第7回 「ヴァルモンの誘惑」 第8回 「ヴァルモンを拒否するトゥールヴェル夫人」 第10回 「美青年ダンスニー騎士」 第11回 「ダンスニーとセシルの恋」 第12回 「トゥールヴェル夫人、パリを出発する」 第13回 「別れの手紙」 第14回 「恋の真実」 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	履修前に小説全編を読んでおくことが望ましい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点（44点）＋筆記試験（56点）。なお、点数配分は平均点の数値によって変わることがある。						
教科書	ピエール・ショデル・ド・ラクロ『危険な関係』、角川文庫。、ISBN4-04-293901-5C0197						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	文化人類学／文化人類学I						
担当教員	前川 真裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学と異文化理解						
授業の概要	概要：前期で学んだ自文化中心主義批判をより深く考察していくために、西洋世界の人々が持つ自文化中心主義的な視点に着目する。特に、西洋世界の自文化中心主義が、その他の文化的価値観とどのような関係性にあるのかを考察する。最終的に、西洋世界に優位な価値観の台頭が、非西洋世界の人々に与える影響を学ぶことを目的とする。						
到達目標	達成目標：西洋世界を中心とした文化的価値観（西洋中心主義）の拡大がどのような問題点を持つものかを理解すること。						
授業計画	第1回 文化人類学について 第2回 西洋中心主義を批判する 第3回 「未開」と「文明」：未開人の思考とヨーロッパ人の思考 第4回 人種と民族について 第5回 植民地主義について 第6回 近代国家について 第7回 つくられる伝統 第8回 メディアと異文化理解 第9回 質疑応答と中間のレポート試験 第10回 映像資料を見る 第11回 文化相対主義と進化主義 第12回 女らしさと男らしさ 第13回 映像資料を見る 第14回 グローバリゼーションと文化 第15回 全体のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で分からなかったところを次の授業の冒頭に質問出来るように準備しておくこと。また、授業中に指摘した参考書にできるだけ目を通しておくこと。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	20点満点の中間レポート試験（決められた時間で一気にミニ・レポートを作成する試験）と80点満点の期末試験の合計点で評価する。なお、両試験は「持ち込み可」とする。						
教科書	特に用いない。 第9回と第13回の映像資料については初回の授業で説明する。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	文化人類学入門						
担当教員	吉岡 政徳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	文化人類学と異文化理解						
授業の概要	概要：我々は、無意識のうちに自分の文化的価値観を通して異文化を見てしまう。これを自文化中心主義と呼ぶが、文化人類学的な思考は、この自文化中心主義を批判することから始まる。文化人類学の入門編である本講義では、フィールドワークを踏まえた具体的な異文化の事例を提示するが、それらの解釈を通して、文化人類学的な思考とはどういうものなのかを説明していく。						
到達目標	目標：自分たちの考え方が、いかに自文化中心主義的にできているかということに気づくようになること。						
授業計画	第1回 自文化中心主義を批判する 第2回 フィールドワークと異文化体験 第3回 テレビにおける異文化表象の嘘 第4回 常識を疑う 第5回 多様な生業 第6回 多様な親族集団 第7回 いびつな母系家族 第8回 質疑応答と中間のレポート試験 第9回 個人的能力でのし上がるビッグマン 第10回 階層の頂点にたつ首長・王 第11回 タブーの話 第12回 医療人類学入門 第13回 開発人類学入門 第14回 地球温暖化と海面上昇 第15回 全体のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義でわからなかったところなどを、次の授業の冒頭で質問できるように準備しておくこと。また、授業中に指定した参考書にできるだけ目を通すこと						
授業方法	講義。毎回講義の冒頭で、前の週の授業に関する質問を受け付け、それにこたえる。						
評価基準と評価方法	20点満点の中間のレポート試験（きめられた時間で一斉にミニ・レポートを作成する試験）と80点満点の期末試験の合計得点で評価する。なお、中間のレポート試験は「持ち込み可」、期末試験は「持ち込み不可」で実施する。						
教科書	特に用いない。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷲北 千草						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事等を題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（ディベート実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANA～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のとまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配布するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷲北 千草						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事等を題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（ディベート実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANA～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のとまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配布するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷲北 千草						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事等を題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（ディベート実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANA～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配布するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷲北 千草						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事等を題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（ディベート実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANA～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配布するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷲北 千草						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度からとりあげ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事等を題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（ディベート実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANA～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のとまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配布資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配布するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。</p> <p>この授業では、簿記に慣れたしんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。特に、就職後、経理として必要な知識を習得することを目的として、いわゆる日常の経理処理が十分にできる力を本講座を通じて習得してもらうことを想定しています。</p> <p>そのため、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。日商簿記3級に挑戦する方は、本講座受講後後期に開講する簿記会計Bを続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	企業実務において経理担当者レベルの簿記の知識の習得						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（簿記とは何か？） 2 簿記の世界へようこそ！ 3 簿記を使って記録してみよう 4 報告書を作ってみよう 5 現金とはなにか？ 6 商品売上のしくみ（商品を仕入れること） 7 商品買入のしくみ（商品を売ること） 8 有価証券の売買とその処理 9 固定資産の売買とその処理 10 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 11 簿記一巡の仕訳の流れ（まとめとして） 12 決算の流れ 13 決算をやってみよう 14 帳簿の締切と報告書の作成 15 総まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。参考資料も配布しますので、ぜひやってみてください。</p>						
授業方法	<p>テキストとして、『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。</p> <p>簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>簿記会計Bを続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験（前期、後期）を加味して評価する。						
教科書	『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成25年12月改訂版（セルバ出版）						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。</p> <p>この授業では、簿記に慣れたしんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。特に、就職後、経理として必要な知識を習得することを目的として、いわゆる日常の経理処理が十分にできる力を本講座を通じて習得してもらうことを想定しています。</p> <p>そのため、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。日商簿記3級に挑戦する方は、本講座受講後後期に開講する簿記会計Bを続けて受講することをお勧めします。</p>						
到達目標	企業実務において経理担当者レベルの簿記の知識の習得						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（簿記とは何か？） 2 簿記の世界へようこそ！ 3 簿記を使って記録してみよう 4 報告書を作ってみよう 5 現金とはなにか？ 6 商品売上のしくみ（商品を仕入れること） 7 商品買入のしくみ（商品を売ること） 8 有価証券の売買とその処理 9 固定資産の売買とその処理 10 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 11 簿記一巡の仕訳の流れ（まとめとして） 12 決算の流れ 13 決算をやってみよう 14 帳簿の締切と報告書の作成 15 総まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。参考資料も配布しますので、ぜひやってみてください。</p>						
授業方法	<p>テキストとして、『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。</p> <p>簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p> <p>簿記会計Bを続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験（前期、後期）を加味して評価する。						
教科書	『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成25年12月改訂版（セルバ出版）						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	植田 麻衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	簿記会計Aの内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>この授業では、簿記に慣れ親しんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、日商簿記検定試験3級の合格レベルまで、本講座を通じて目指します。簿記は続けて学習することが必要であり、自己トレーニングも必要になってきます。授業中の配布の問題や参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>						
到達目標	日商簿記検定試験3級合格レベル						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 簿記一巡の流れ（簿記Aの総復習） 3 小口現金の処理 4 手形って何だろう 5 在庫管理と商品有り高帳 6 決算の流れと決算作業（経過勘定項目） 7 決算作業（売上原価、資産の評価） 8 精算表の作成（仕組みの理解） 9 演習①（精算表の作成） 10 記録すること（帳簿組織）と伝票会計 11 仕訳総復習（物を売ると言うこと） 12 仕訳総復習（物を買うということ） 13 演習②（試験対策） 14 後期試験 15 後期総まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	簿記検定は慣れが必要でです。そのためには、日ごろから、課題等を含め、自身での練習が必要です。						
授業方法	<p>テキストとして、『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。授業⇒演習と繰り返して、理解力アップを図ります。簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、簿記会計Aの受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して授業と、演習を繰り返して行います。授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。						
教科書	『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成25年12月改訂版（セルバ出版）						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島 進						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	簿記会計Aの内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する						
授業の概要	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>この授業では、簿記に慣れ親しんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、日商簿記検定試験3級の合格レベルまで、本講座を通じて目指します。簿記は続けて学習することが必要であり、自己トレーニングも必要になってきます。授業中の配布の問題や参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>						
到達目標	日商簿記検定試験3級合格レベル						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 簿記一巡の流れ（簿記Aの総復習） 3 小口現金の処理 4 手形って何だろう 5 在庫管理と商品有り高帳 6 決算の流れと決算作業（経過勘定項目） 7 決算作業（売上原価、資産の評価） 8 精算表の作成（仕組みの理解） 9 演習①（精算表の作成） 10 記録すること（帳簿組織）と伝票会計 11 仕訳総復習（物を売ると言うこと） 12 仕訳総復習（物を買うということ） 13 演習②（試験対策） 14 後期試験 15 後期総まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	簿記検定は慣れが必要でです。そのためには、日ごろから、課題等を含め、自身での練習が必要です。						
授業方法	<p>テキストとして、『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。授業⇒演習と繰り返して、理解力アップを図ります。簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、簿記会計Aの受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して授業と、演習を繰り返して行います。授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。</p>						
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。						
教科書	『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成25年12月改訂版（セルバ出版）						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	今日、ボランティアはわたしたちの社会にとって欠かせない存在となった。本講義では、ボランティアの歴史や現状、そして現場における実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 宅老所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	期末レポートによる						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを「優しき挑戦者たち」」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社)						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 宰						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ボランティアの理論と実践						
授業の概要	今日、ボランティアはわたしたちの社会にとって欠かせない存在となった。本講義では、ボランティアの歴史や現状、そして現場における実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ることを目的とする。						
到達目標	1. ボランティアとは何かを理解し、自身の「ボランティア観」を持つことができる。 2. ボランティアを実践するための理論と方法を身につけることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション 2. 歴史とボランティア 3. 阪神淡路大震災とボランティア 4. まちづくりとボランティア 5. 障害者福祉とボランティア 6. NPOとボランティア 7. 介護保険とボランティア 8. 認知症ケアとボランティア 9. 宅老所とボランティア 10. 高齢者とボランティア 11. パーソンセンタードケアとボランティア 12. ノーマライゼーションとボランティア 13. マネジメントとボランティア 14. 国際社会とボランティア 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書、関連文献による予習・復習						
授業方法	講義形式による						
評価基準と評価方法	期末レポートによる						
教科書	講義中に指示						
参考書	「恋するようにボランティアを「優しき挑戦者たち」」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社)						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ヨーロッパ史						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ローマ皇帝とキリスト教						
授業の概要	ローマ皇帝の対キリスト教政策を検討する。通説ではローマ皇帝はネロからディオクレティアヌスに至るまでキリスト教徒を厳しく迫害したとされる。しかし、近年の研究では、迫害を命じた皇帝はごく少数であり、皇帝による迫害が行われた期間も非常に短かったことが明らかとなっている。では、彼らはいかなるキリスト教政策を採ったのか。ローマ帝国におけるキリスト教迫害とはいかなるものであったのか。ローマ帝国においてキリスト教徒はどのような状況に置かれていたのか。本講義においてはこのような問題を検討する。						
到達目標	ローマ皇帝の対キリスト教政策、ローマ帝国におけるキリスト教徒の状況を知るとともに、通説を検討・批判して新たな歴史像を描いていくという歴史学の営みを学ぶ。						
授業計画	第1回 インTRODakション 第2回 ローマの歴史（イタリア半島統一まで） 第3回 ローマの歴史（帝国の成立まで） 第4回 ユダヤ人の歴史（イエスの誕生まで） 第5回 ネロの迫害（ネロの生涯と史料） 第6回 ネロの迫害（タキトゥス、スエトニウスを中心に検討） 第7回 ドミティアヌスの迫害 第8回 小プリニウスとトラヤヌスの勅令 第9回 1～2世紀のローマ帝国におけるキリスト教迫害の実態 第10回 軍人皇帝時代 第11回 デキウス帝とウァレリアヌス帝の迫害 第12回 ガリエヌスの平和令 第13回 ディオクレティアヌス帝の迫害 第14回 コンスタンティヌス帝による公認 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	高校の世界史の教科書を見直しておくこと。講義に出席する前に前回のノートを見直すこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験70%、出席30%						
教科書	とくに定めない。						
参考書	弓削通『ローマ帝国とキリスト教』、1989年、河出書房新社。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	リスクマネジメント論						
担当教員	田邊 文彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	リスクマネジメント思考を身につける						
授業の概要	<p>「備えあれば憂いなし」「君子危うきに近づくず」これらの格言は、リスク（人間の生命・財産を危険にさらす可能性）に対する対処方法を人々に自覚させる。</p> <p>実際、我々の生活や企業・団体の活動の多くはリスクにさらされている。また、そのリスクの種類は多様化し、発生のメカニズムは複雑化し、その影響は大きくなってきている。</p> <p>一方、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の諺のように、大きなリターンは大きなリスクをとることによってしか得られない場合もある。</p> <p>このように、リスクを適切に認知、受容、分析、評価することは現代社会に生きる我々にとって非常に重要なこととなっている。</p> <p>この授業では、リスクマネジメントに関する基礎的な知識を学び、受講者が生活の中でのリスクマネジメントを身につけることを目指す。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントに関する基礎的知識を身につける ・リスクマネジメントの前提となるリスクの知覚・認知の技術を身につける ・リスクマネジメントを具体的に適用する能力を身につける 						
授業計画	<p>最初は基礎的な内容を説明し、身近な題材をもとにリスクマネジメント思考を学び、徐々に高度な知識、複雑な事象のリスクマネジメントを行える能力を身につけることができるように進めていく。</p> <p>01回 授業ガイダンス 02-04回 リスクマネジメントの基本：ケース実習 ：就職試験、初デート、海外旅行 05-06回 リスクマネジメントの概要 ：リスクの洗い出し／リスクの開示／リスクのコントロール 07-11回 イベント（大学祭）のリスクマネジメントグループワーク：ケース実習・グループ発表 12-13回 リスクマネジメントの基本：ケース実習 ：地震防災、ハラスメント、情報管理等 14回 授業まとめ 15回 レポート作成・提出 ※授業スケジュールは変更になる場合がある。</p> <p>（受講者の感想例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ここでは、様々なリスクを学んできたが、自分の意見だけでなく相手と共有することで自分でも気が付かないことがたくさんあったし、周りがどう考えているか聞くことができた。」 ・「とても難しそうで、最初は不安もあったが、先生が面白い方だったので楽しい授業ができました。ありがとうございました。」 						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に、欠席者は、自宅学習で追いついていくこと。						
授業方法	講義形式を基本としつつ、演習形式（発表）や実習形式（グループワークとグループ発表）の内容を取り入れる。						
評価基準と評価方法	毎回の課題シートを5点で評価 5×10回＝50点 中間および最終レポート 50点						
教科書	概念や言葉の理解には、奈良由美子「生活者リスクマネジメント」 2011年 放送大学教科書が薦められる。IS BN978-4-595-13956-7						
参考書	その他、必要に応じて授業中に参考文献を紹介						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	臨床心理学A／臨床心理学I						
担当教員	中村 博文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学とは何か						
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。						
到達目標	臨床心理学という学問の特徴や基本的な概念について説明できる。 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。						
授業計画	#01：オリエンテーション－臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深めることを求める。						
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。						
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）、および期末試験（86%）により評価する。						
教科書	指定しない。毎回の授業で、プリントを配付する。						
参考書	適時紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	臨床心理学B／臨床心理学II						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。						
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から、年齢段階ごとの発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について解説する。						
到達目標	1. 臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について、ライフサイクルの視点から説明することができる。 2. 臨床心理学が対象とする心理的問題の中から各自が興味をもったテーマについて資料を収集し、要点をまとめて発表することができる。						
授業計画	第1回：ライフサイクルにおける発達課題 第2回：乳幼児期の心理的問題と対応 第3回：幼児期の心理的問題と対応 第4回：児童期の心理的問題と対応 第5回：思春期の心理的問題と対応 第6回：青年期の心理的問題と対応 (1) 第7回：青年期の心理的問題と対応 (2) 第8回：青年期の心理的問題と対応 (3) 第9回：青年期の心理的問題と対応 (4) 第10回：成人期の心理的問題と対応 第11回：中年期の心理的問題と対応 第12回：老年期の心理的問題と対応 第13回：グループ発表と討議 (1) 第14回：グループ発表と討議 (2) 第15回：質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。各自が興味のあるテーマについて調べ、レジュメにまとめること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）や授業中に出す課題の提出（20％）、平常点（20％）などを総合的に評価する。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	倫理学入門						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	しあわせな人間関係のための倫理学入門						
授業の概要	生きていく上で避けられないのが人間関係。私たちは毎日、様々な人間に囲まれて生きています。そこでは楽しいことばかりが続くわけではありません。親と喧嘩したり、友人関係でトラブルになったり、失恋して絶望することもあるでしょう。でも、そういうマイナスと思える出来事は、どれも私たちの精神的な成長にプラスとなるものです。この授業では、人間関係における様々な問題を取り上げ、そこから何をどのように学んでいくかを一緒に考えていきます。						
到達目標	日常生活における様々な人間関係の問題に対して、倫理的に正しく対処する方法を修得する。						
授業計画	第1回 自分について考えてみよう 第2回 他人について考えてみよう 第3回 人生で一番大切なことって何だろう？ 第4回 友だちはライバル？ 第5回 男女間の友情なんてあり得ない？ 第6回 男と女は別の生き物？ 第7回 そこに愛はあるか？大事な「性」の話 第8回 私を好きになる方法 第9回 運命って信じる？神様っているのかな？ 第10回 大人になるにはどうしたらいい？ 第11回 もう子どもには戻れない？ 第12回 どうして勉強しなきゃならないの？ 第13回 心の傷はいつ癒されるの？ 第14回 死ぬときに後悔するかもしれないこと 第15回 みんなに愛される生き方						
授業外における学習（準備学習の内容）	特にありません。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート50点＋期末試験50点＝合計100点満点で60点以上を合格とします。						
教科書	特に指定はしません。毎回プリントを配布します。						
参考書	講義の中で紹介します。						